

講義内容の概要

(シラバス)

2012 (H24) 年度

高知短期大学

科目名	法学	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0010	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	法学の総論を学んでいきます。なぜ法は必要なのか、法によって我々はどのような利益や不利益を被るのかといったことを、公法(憲法、行政法、刑法及び国際法)の観点から学習していきます。
授業の進め方	講義形式で行います。配布するレジメに従って講義を進めます。
達成目標	(1)法学及び公法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)法的思考ができるようになる。 (3)実際の問題を法的に分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに 法を学ぶにあたって 第2回 法源 第3回 法と裁判 第4回 憲法の基本原理 第5回 人権 第6回 統治機構 第7回 行政法の基本原理 第8回 行政組織 (第1回 小テスト) 第9回 行政行為 第10回 刑法の基本原理 第11回 刑罰の種類 第12回 犯罪の要件 第13回 国際法の基本原理 第14回 国際法の主体 第15回 国際法と国内法 (第2回 小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むこと。
教科書	指定しない。
参考書	講義中に適時あげていきます。
成績評価方法	授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末試験(40%)

科目名	法学	単位数	2	期別	後期
科目コード	A0020	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>総論及び公法を扱う法学Iに続いて、本講義では私法（民法など）を題材として、法律学を学習する方法を学びます。具体的には、仕事をする上でも役立つ「ロジカルシンキング(logical thinking)」を用いて、民法などの私法分野を効率的・効果的に学習する方法を受講者が習得することを目指します。</p>
授業の進め方	<p>参加型授業形式で進めます。ロジカルシンキングの思考（ゼロベース思考、フレームワーク思考、オプション思考）やロジカルシンキングの手法（ロジックツリー手法、マトリックス手法およびプロセス手法）などを習得するために、受講者はグループワークおよびプレゼンテーションを行います。</p>
達成目標	<p>(1) ロジカルシンキングを理解できるようになる。 (2) 効率的・効果的な学習法を習得する。 (3) 法律学の基礎である、法的三段論法を理解できるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 オリエンテーション、なぜ法律学をロジカルシンキングの視点からみるのか 第2回 論理的思考方法と説明方法 第3回 論理的思考と図表作成の方法（1） 第4回 論理的思考と図表作成の方法（2） 第5回 グループワーク（1） 第6回 グループワーク（2） 第7回 プレゼンテーション 第8回 法律学のフレームワークとなる基礎概念・用語：MECEを利用した基礎概念・用語の整理（1） 第9回 法律学のフレームワークとなる基礎概念・用語：MECEを利用した基礎概念・用語の整理（2） 第10回 法的三段論法とリーガルマインド 第11回 法律の構造と条文の読み方 第12回 条文解釈の方法 第13回 法的文章の作成方法 第14回 民法・私法の基本原則と民法典の体系：民法の全体構造 第15回 時系列に基づく民法の体系：民法各論</p>
履修上の注意	<p>受講者が予習してくることを前提として、授業を進めます。講義を受ける際には教科書および六法を持参して下さい。</p>
教科書	<p>『民法でみる法律学習法』金井高志著、日本評論社（2011年）</p>
参考書	<p>『考える技術、書く技術』バーバラ・ミント著、ダイヤモンド社（2008年）] 『ロジカル・シンキング：論理的な思考と構成のスキル』照屋華子・岡田恵子著、東洋経済新報社（2001年）</p>
成績評価方法	<p>グループワークおよびプレゼンテーション（50%）、期末試験（50%）により評価します。</p>

科目名	経済学	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0030	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	需要と供給という経済学の基本理論をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。
達成目標	(1) 市場における需要と供給の作用により、価格や取引量がどう変化するのか理解できるようになる。 (2) 市場の効率性について理解できるようになる。 (3) 経済政策を評価できるようになる。 (4) 市場が総余剰を最大化できない場合があることを理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 インTRODクシヨN: 経済学と市場と政府 第2回 市場(1) 需要と供給 第3回 市場(2) 均衡価格と取引量 第4回 市場(3) 変化が起きたとき価格と取引量はどうか 第5回 弾力性(1) 弾力性とは何か 第6回 弾力性(2) 豊作貧乏と生産調整 第7回 市場の効率性(1) 消費者余剰と生産者余剰 第8回 市場の効率性(2) 総余剰と余剰分析 第9回 政策評価(1) 参入規制 第10回 政策評価(2) 課税 第11回 政策評価(3) 生産補助金 第12回 政策評価(4) 販売量規制と価格規制 第13回 政策評価(5) 市場開放か保護貿易か 第14回 政策評価(6) 関税と輸入割当制度 第15回 市場の失敗: 外部性とピグー税
履修上の注意	積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学」と「経済学」の両方を受講すればより理解が深まるが、どちらか一方だけでも受講に支障はない。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年) 『ミクロ経済学 市場の失敗と政府の失敗への対策』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年)など
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(80%)、受講態度(20%)を加味して評価する。

科目名	経済学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	A0040	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	最初に当面する経済危機・長引く不況を取り上げ、経済学の課題をとらえてもらった上で、経済学の基本的な用語としてGDPや経済成長の意味を検討していきます。後半はやや長期の視点から見た日本経済の課題に焦点をあてます。具体的には日本で急速に進行する高齢化・人口減少の問題を取り上げ、考え方を整理していきます。ヒト・モノ・カネが簡単に国境を越えるようになってきているグローバル化の問題（特にヒトの移動・外国人労働力問題）にも可能な限り触れていくこととし、それらが生み出している深刻な問題と新たな発展の可能性について考えていくこととします。
授業の進め方	講義の形で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。ビデオも可能な限り活用します。
達成目標	(1)経済成長や国内総生産などの基礎的な用語について、その基本的な意味と性格を理解できるようになる。 (2)高齢化・人口減少が生み出す問題とそれに対する備えについて、深い関心を持ち、いくつかの基本的な側面を理解できるようになる。 (3)グローバル化が生み出す問題と可能性について、深い関心をもって考えられるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	概ね次ように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。 第1回 オリエンテーション - 危機の時代と経済学 第2回 なぜ不況が続くのか？ 第3回 なぜ失業が減らないのか？ 第4回 不況対策として何ができるのか？ 第5回 経済成長と暮らし 国民の所得とは？ 第6回 経済成長と暮らし 成長の生む要因は？ 第7回 経済成長と暮らし 経済成長と豊かさ 第8回 経済成長と暮らし 豊かになるってどういうこと？ 第9回 中間復習 第10回 高齢化・人口減社会 何が問題か？ 第11回 高齢化・人口減社会 なぜ止められないか？ 第12回 高齢化・人口減社会への備え 公的年金は頼れるか？ 第13回 高齢化・人口減社会への備え 貯金は頼りになるか？ 第14回 国境を越えるヒト・モノ・カネ 貿易立国から投資立国へ？ 第15回 国境を越えるヒト・モノ・カネ 労働力移動のインパクト 以上の講義を踏まえ、期末試験を実施します。
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。 「経済学」と「経済学」の両方を受講すればより理解が深まりますが、どちらか一方だけでも受講に支障はありません。
教科書	特に指定しません。
参考書	講義の中で適宜指示します。
成績評価方法	試験の成績を基本に(80%)、授業への参加の姿勢(20%)を加味して総合的に評価します。

科目名	情報処理 (2クラス)	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0050	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	パソコンを便利に使い楽しむためには、パソコンをよく知ることが大事です。 この授業ではパソコンについての基本知識やパソコン上で動くアプリケーションソフトについて学習します。 インターネットを使いこなし、Word2007で文章の作成方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) パソコンや周辺機器を使いこなす (2) インターネットを使用するに必要な知識と技術を身につける (3) Wordで基本的な文章を作成できるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 オリエンテーション パソコンの基礎 第 2 回 Windowsの基礎 第 3 回 インターネットの基礎とセキュリティー 第 4 回 インターネットを使う 第 5 回 Wordの基本 第 6 回 書式設定 第 7 回 拡張書式、スタイルの設定、目次の作成 第 8 回 表の作成 第 9 回 段落、タブ、箇条書き 第 10 回 画像の処理 (画像処理ソフト) 第 11 回 画像の操作 第 12 回 ワードアートとテキストボックス 第 13 回 SmartArtとグラフ 第 14 回 差し込み印刷 第 15 回 文章の校閲
履修上の注意	自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験 (50%)、提出物と講義への参加姿勢 (50%) などから総合的に評価する。

科目名	情報処理 (2クラス)	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0050	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	パソコンを便利に使い楽しむためには、パソコンをよく知ることが大事です。 この授業ではパソコンについての基本知識やパソコン上で動くアプリケーションソフトについて学習します。 インターネットを使いこなし、Word2007で文章の作成方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) パソコンや周辺機器を使いこなす (2) インターネットを使用するに必要な知識と技術を身につける (3) Wordで基本的な文章を作成できるようになる
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 オリエンテーション パソコンの基礎 第 2 回 Windowsの基礎 第 3 回 インターネットの基礎とセキュリティー 第 4 回 インターネットを使う 第 5 回 Wordの基本 第 6 回 書式設定 第 7 回 拡張書式、スタイルの設定、目次の作成 第 8 回 表の作成 第 9 回 段落、タブ、箇条書き 第 10 回 画像の処理 (画像処理ソフト) 第 11 回 画像の操作 第 12 回 ワードアートとテキストボックス 第 13 回 SmartArtとグラフ 第 14 回 差し込み印刷 第 15 回 文章の校閲
履修上の注意	自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験 (50%)、提出物と講義への参加姿勢 (50%) などから総合的に評価する。

科目名	情報処理	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0060	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では、Excel 2007 を使用して表計算ソフトの操作方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) 表計算ソフト (Excel) の基本操作ができるようになる (2) 計算式、関数を理解する (3) データの処理ができるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 オリエンテーション Windowsの操作 第 2 回 表計算ソフトの基礎 第 3 回 データの入力 第 4 回 セルの操作 第 5 回 セルの書式 第 6 回 ワークシートの操作 第 7 回 計算式 (絶対番地と相対番地) 第 8 回 関数 1 (数値関数) 第 9 回 関数 2 (文字関数) 第 10 回 関数 3 (制御関数) 第 11 回 データの処理 第 12 回 罫線、画像、図形とワードアート 第 13 回 グラフ 第 14 回 マクロとツールボックス 第 15 回 総括
履修上の注意	パソコンの基本操作と、文字入力ができる方を対象とします。 自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験 (50%)、提出物と講義への参加姿勢 (50%) などから総合的に評価する。

科目名	情報処理	単位数	2	期別	後期
科目コード	A0065	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では、Excel2007のVBAでデータの編集方法と、パワーポイント2007でプレゼンテーションの作成方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) Excelの計算式、関数を理解する (2) ExcelのVBAで、データの編集が出来る。 (3) PowerPointで、プレゼンテーションの作成が出来る。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 オリエンテーション Windowsの操作 第 2 回 表計算ソフトの基礎 第 3 回 関数 1 第 4 回 マクロとツールボックス 第 5 回 VBAの基礎 第 6 回 制御文1 第 7 回 制御文2 第 8 回 プロシージャ 第 9 回 実際のデータの処理 第 10 回 パワーポイントの基礎 第 11 回 文字や画像を入力 第 12 回 SmartArt、ワードアートを使う 第 13 回 アニメーションを使ってみる 第 14 回 プレゼンテーションの作成 第 15 回 総括
履修上の注意	パソコンの基本操作と、文字入力ができる方を対象とします。 自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験 (50%)、提出物と講義への参加姿勢 (50%) などから総合的に評価する。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）		単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070		担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、新入生を対象に大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。
授業の進め方	入学生は、全員、専任教員に振り分けられ、各教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもとに、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である（「演習方式」という）。
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	授業へ積極的に参加すること。
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	英語 (初級)A	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0080	担当教員	松吉 明子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	テキストに沿って基本的文法事項を学習し、英語を理解し活用できる基礎的な力を身につけることを目的とします。 知識を実践に生かせるようにするため、テキスト付属のCDを活用して音読や口頭練習を行い、使える英語の習得を目指します。																																																																											
授業の進め方	高校時代、英語の自信が持てなかった方、数十年間英語と縁がなかった方に配慮して繰り返し復習することで知識の定着を図っていきます。 ペアワークを多用し、相手と上手くコミュニケーションをとる練習をしていきます。																																																																											
達成目標	(1)中学、高校時代に習った文法項目を復習、整理する。 (2)英語を話す、聞く、読む、書くという4技能に関して基礎力をつける。 (3)さらに英語力を伸ばすことができるような学習方法を身につける。 (4)異文化の理解を深める。																																																																											
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>英語で挨拶・自己紹介</td> <td>第 1 6 回</td> <td>比較級</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>名詞・冠詞</td> <td></td> <td>第 1 7 回</td> <td>最上級</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>一般動詞(命令形)</td> <td></td> <td>第 1 8 回</td> <td>動名詞</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>一般動詞(現在形)</td> <td></td> <td>第 1 9 回</td> <td>不定詞</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>be動詞</td> <td></td> <td>第 2 0 回</td> <td>第15回から19回の復習</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>これまでの復習</td> <td></td> <td>第 2 1 回</td> <td>助動詞(1)</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>形容詞</td> <td></td> <td>第 2 2 回</td> <td>助動詞(2)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>前置詞</td> <td></td> <td>第 2 3 回</td> <td>受動態</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>疑問文</td> <td></td> <td>第 2 4 回</td> <td>接続詞</td> </tr> <tr> <td>第 1 0 回</td> <td>一般動詞(過去形)</td> <td></td> <td>第 2 5 回</td> <td>第21回から24回の復習</td> </tr> <tr> <td>第 1 1 回</td> <td>現在進行形</td> <td></td> <td>第 2 6 回</td> <td>関係代名詞(1)</td> </tr> <tr> <td>第 1 2 回</td> <td>第6回から11回までの復習</td> <td></td> <td>第 2 7 回</td> <td>関係代名詞(2)</td> </tr> <tr> <td>第 1 3 回</td> <td>未来の表現</td> <td></td> <td>第 2 8 回</td> <td>名詞節</td> </tr> <tr> <td>第 1 4 回</td> <td>現在完了</td> <td></td> <td>第 2 9 回</td> <td>後半のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第 1 5 回</td> <td>前半のまとめ</td> <td></td> <td>第 3 0 回</td> <td>総復習</td> </tr> </table>	第 1 回	オリエンテーション	英語で挨拶・自己紹介	第 1 6 回	比較級	第 2 回	名詞・冠詞		第 1 7 回	最上級	第 3 回	一般動詞(命令形)		第 1 8 回	動名詞	第 4 回	一般動詞(現在形)		第 1 9 回	不定詞	第 5 回	be動詞		第 2 0 回	第15回から19回の復習	第 6 回	これまでの復習		第 2 1 回	助動詞(1)	第 7 回	形容詞		第 2 2 回	助動詞(2)	第 8 回	前置詞		第 2 3 回	受動態	第 9 回	疑問文		第 2 4 回	接続詞	第 1 0 回	一般動詞(過去形)		第 2 5 回	第21回から24回の復習	第 1 1 回	現在進行形		第 2 6 回	関係代名詞(1)	第 1 2 回	第6回から11回までの復習		第 2 7 回	関係代名詞(2)	第 1 3 回	未来の表現		第 2 8 回	名詞節	第 1 4 回	現在完了		第 2 9 回	後半のまとめ	第 1 5 回	前半のまとめ		第 3 0 回	総復習
第 1 回	オリエンテーション	英語で挨拶・自己紹介	第 1 6 回	比較級																																																																								
第 2 回	名詞・冠詞		第 1 7 回	最上級																																																																								
第 3 回	一般動詞(命令形)		第 1 8 回	動名詞																																																																								
第 4 回	一般動詞(現在形)		第 1 9 回	不定詞																																																																								
第 5 回	be動詞		第 2 0 回	第15回から19回の復習																																																																								
第 6 回	これまでの復習		第 2 1 回	助動詞(1)																																																																								
第 7 回	形容詞		第 2 2 回	助動詞(2)																																																																								
第 8 回	前置詞		第 2 3 回	受動態																																																																								
第 9 回	疑問文		第 2 4 回	接続詞																																																																								
第 1 0 回	一般動詞(過去形)		第 2 5 回	第21回から24回の復習																																																																								
第 1 1 回	現在進行形		第 2 6 回	関係代名詞(1)																																																																								
第 1 2 回	第6回から11回までの復習		第 2 7 回	関係代名詞(2)																																																																								
第 1 3 回	未来の表現		第 2 8 回	名詞節																																																																								
第 1 4 回	現在完了		第 2 9 回	後半のまとめ																																																																								
第 1 5 回	前半のまとめ		第 3 0 回	総復習																																																																								
履修上の注意	電子辞書を必ず持ってきてください。 初級のクラスですので、英語の基礎力のある方は、別のクラスを受講してください。																																																																											
教科書	『Grammar Compass 受信から発信へ導くリメディアル英文法』 堀内 香予子、村上 嘉代子、通 正則 著 センゲージラーニング株式会社 (2010年発行)																																																																											
参考書	高校の時使用していた英文法の本																																																																											
成績評価方法	授業に取り組む姿勢と授業中の発表(20%) 試験(80%)から総合的に評価します。																																																																											

科目名	英語（初級）B	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0090	担当教員	岡崎 薫	所属	元高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	高校までに学習した英文法の復習と英文読解の演習		
授業の進め方	文法事項の解説と、学生による演習（英文解釈と文法問題）を发表		
達成目標	(1) 基本的な英単語、英熟語が理解できる (2) 正しい英語の発音ができる (3) 英文法の重要事項が理解できる (4) 辞書があれば普通の英文が読めるようになること		
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> 第 1 回 オリエンテーション () 第 2 回 動詞について () 第 3 回 名詞について () 第 4 回 代名詞について () 第 5 回 辞書の使い方 () 第 6 回 形容詞について () 第 7 回 冠詞について () 第 8 回 副詞について () 第 9 回 前置について () 第 10 回 助動詞について () 第 11 回 接続詞について () 第 12 回 比較について () 第 13 回 時制について () 第 14 回 完了形などについて () 第 15 回 まとめ () </td> <td style="width: 50%; border: none;"> 第 16 回 オリエンテーション () 第 17 回 動詞について () 第 18 回 名詞について () 第 19 回 代名詞について () 第 20 回 辞書の使い方 () 第 21 回 形容詞について () 第 22 回 冠詞について () 第 23 回 副詞について () 第 24 回 前置について () 第 25 回 助動詞について () 第 26 回 接続詞について () 第 27 回 比較について () 第 28 回 時制について () 第 29 回 完了形などについて () 第 30 回 まとめ () </td> </tr> </table>	第 1 回 オリエンテーション () 第 2 回 動詞について () 第 3 回 名詞について () 第 4 回 代名詞について () 第 5 回 辞書の使い方 () 第 6 回 形容詞について () 第 7 回 冠詞について () 第 8 回 副詞について () 第 9 回 前置について () 第 10 回 助動詞について () 第 11 回 接続詞について () 第 12 回 比較について () 第 13 回 時制について () 第 14 回 完了形などについて () 第 15 回 まとめ ()	第 16 回 オリエンテーション () 第 17 回 動詞について () 第 18 回 名詞について () 第 19 回 代名詞について () 第 20 回 辞書の使い方 () 第 21 回 形容詞について () 第 22 回 冠詞について () 第 23 回 副詞について () 第 24 回 前置について () 第 25 回 助動詞について () 第 26 回 接続詞について () 第 27 回 比較について () 第 28 回 時制について () 第 29 回 完了形などについて () 第 30 回 まとめ ()
第 1 回 オリエンテーション () 第 2 回 動詞について () 第 3 回 名詞について () 第 4 回 代名詞について () 第 5 回 辞書の使い方 () 第 6 回 形容詞について () 第 7 回 冠詞について () 第 8 回 副詞について () 第 9 回 前置について () 第 10 回 助動詞について () 第 11 回 接続詞について () 第 12 回 比較について () 第 13 回 時制について () 第 14 回 完了形などについて () 第 15 回 まとめ ()	第 16 回 オリエンテーション () 第 17 回 動詞について () 第 18 回 名詞について () 第 19 回 代名詞について () 第 20 回 辞書の使い方 () 第 21 回 形容詞について () 第 22 回 冠詞について () 第 23 回 副詞について () 第 24 回 前置について () 第 25 回 助動詞について () 第 26 回 接続詞について () 第 27 回 比較について () 第 28 回 時制について () 第 29 回 完了形などについて () 第 30 回 まとめ ()		
履修上の注意			
教科書	「リーディングに活かす基礎英語表現」(朝日出版社)		
参考書			
成績評価方法	試験(65%)授業への参加姿勢(35%)などから総合的に評価する		

科目名	英語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0100	担当教員	奥村 訓代	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	編入希望者にとっても、 TOEIC受験希望者にとっても、 また初級者から中上級者までが楽しく学べる英語。																																																												
授業の進め方	基本的に一日一課進むので、必ず予習が必要である。 また、毎回10分間の復習クイズから始め、それを出席代りにするので、復習も必要である。																																																												
達成目標	1) 英文の大意が把握できるようになる。 2) 文法に捉われず、日本語らしく訳せるようになる。 3) 英語を聞いて分かるようになる。 4) 英語でコミュニケーションをとることに興味を持つようになる。 5) 即答できるようになる。																																																												
授業計画 (講義の具体的 内容)	<table> <tr> <td>第 1 回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第 1 6 回</td> <td>後期テキスト・授業オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>Unit 1 Shopping</td> <td>第 1 7 回</td> <td>Unit 1 イギリスのカフェで</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>Unit 2 Daily Life</td> <td>第 1 8 回</td> <td>Unit 2 ジョンス家族滞在</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>Unit 3 Transportation</td> <td>第 1 9 回</td> <td>Unit 3 コピー機の故障</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>Unit 4 Jobs</td> <td>第 2 0 回</td> <td>Unit 4 語学学校の電話</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>Unit 5 Meals</td> <td>第 2 1 回</td> <td>Unit 5 観光案内所で</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>Unit 6 Communication</td> <td>第 2 2 回</td> <td>Unit 6 妻のパート探し</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>Unit 7 Fun</td> <td>第 2 3 回</td> <td>Unit 7 新刊料理本</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>Unit 8 Office Work</td> <td>第 2 4 回</td> <td>Unit 8 仕事の面接</td> </tr> <tr> <td>第 1 0 回</td> <td>Unit 9 Meeting</td> <td>第 2 5 回</td> <td>Unit 9 セミナーの感想</td> </tr> <tr> <td>第 1 1 回</td> <td>Unit 1 0 Travel</td> <td>第 2 6 回</td> <td>Unit 1 0 道路閉鎖</td> </tr> <tr> <td>第 1 2 回</td> <td>Unit 1 1 Finance</td> <td>第 2 7 回</td> <td>Unit 1 1 旅程表</td> </tr> <tr> <td>第 1 3 回</td> <td>Unit 1 2 Business</td> <td>第 2 8 回</td> <td>Unit 1 2 野菜オーケストラ</td> </tr> <tr> <td>第 1 4 回</td> <td>Unit 1 3 まとめ</td> <td>第 2 9 回</td> <td>Unit 1 3 レストラン</td> </tr> <tr> <td>第 1 5 回</td> <td>Unit 1 4 前期復習</td> <td>第 3 0 回</td> <td>Unit 1 4 後期復習</td> </tr> </table>	第 1 回	オリエンテーション	第 1 6 回	後期テキスト・授業オリエンテーション	第 2 回	Unit 1 Shopping	第 1 7 回	Unit 1 イギリスのカフェで	第 3 回	Unit 2 Daily Life	第 1 8 回	Unit 2 ジョンス家族滞在	第 4 回	Unit 3 Transportation	第 1 9 回	Unit 3 コピー機の故障	第 5 回	Unit 4 Jobs	第 2 0 回	Unit 4 語学学校の電話	第 6 回	Unit 5 Meals	第 2 1 回	Unit 5 観光案内所で	第 7 回	Unit 6 Communication	第 2 2 回	Unit 6 妻のパート探し	第 8 回	Unit 7 Fun	第 2 3 回	Unit 7 新刊料理本	第 9 回	Unit 8 Office Work	第 2 4 回	Unit 8 仕事の面接	第 1 0 回	Unit 9 Meeting	第 2 5 回	Unit 9 セミナーの感想	第 1 1 回	Unit 1 0 Travel	第 2 6 回	Unit 1 0 道路閉鎖	第 1 2 回	Unit 1 1 Finance	第 2 7 回	Unit 1 1 旅程表	第 1 3 回	Unit 1 2 Business	第 2 8 回	Unit 1 2 野菜オーケストラ	第 1 4 回	Unit 1 3 まとめ	第 2 9 回	Unit 1 3 レストラン	第 1 5 回	Unit 1 4 前期復習	第 3 0 回	Unit 1 4 後期復習
第 1 回	オリエンテーション	第 1 6 回	後期テキスト・授業オリエンテーション																																																										
第 2 回	Unit 1 Shopping	第 1 7 回	Unit 1 イギリスのカフェで																																																										
第 3 回	Unit 2 Daily Life	第 1 8 回	Unit 2 ジョンス家族滞在																																																										
第 4 回	Unit 3 Transportation	第 1 9 回	Unit 3 コピー機の故障																																																										
第 5 回	Unit 4 Jobs	第 2 0 回	Unit 4 語学学校の電話																																																										
第 6 回	Unit 5 Meals	第 2 1 回	Unit 5 観光案内所で																																																										
第 7 回	Unit 6 Communication	第 2 2 回	Unit 6 妻のパート探し																																																										
第 8 回	Unit 7 Fun	第 2 3 回	Unit 7 新刊料理本																																																										
第 9 回	Unit 8 Office Work	第 2 4 回	Unit 8 仕事の面接																																																										
第 1 0 回	Unit 9 Meeting	第 2 5 回	Unit 9 セミナーの感想																																																										
第 1 1 回	Unit 1 0 Travel	第 2 6 回	Unit 1 0 道路閉鎖																																																										
第 1 2 回	Unit 1 1 Finance	第 2 7 回	Unit 1 1 旅程表																																																										
第 1 3 回	Unit 1 2 Business	第 2 8 回	Unit 1 2 野菜オーケストラ																																																										
第 1 4 回	Unit 1 3 まとめ	第 2 9 回	Unit 1 3 レストラン																																																										
第 1 5 回	Unit 1 4 前期復習	第 3 0 回	Unit 1 4 後期復習																																																										
履修上の注意	毎回の予復習が必要である。また、辞書は毎回必携である。																																																												
教科書	前期： First Time Trainer for the TOEIC TEST センゲージ ラーニングKK 後期： 『スパイラル英語トレーニング』入江泉著、The Japan Times																																																												
参考書	授業中に適宜紹介する																																																												
成績評価方法	授業中の態度（積極度、予復習度、発表度） 25% 3分の2以上出席者対象の試験 50% 毎回のクイズ、その他提出物 25%																																																												

科目名	英語（会話初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0110	担当教員	トーマス・マナー	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	英会話に楽しく慣れ親しみ、英会話の基礎を学ぶ。初級。 英語（会話中級）より、初歩の内容です。																																
授業の進め方	テキストを中心にテープ等も使います。 ペアやグループになって会話の練習をしたり、ゲーム等も取り入れます。英会話初心者用のテキストを使い、その内容にそって授業を進めていきます。ペアやグループになってたくさん会話の練習をしていきますので、失敗をおそれず、積極的に話してみてください。それが上達につながると思います。また、イントネーション、ストレス、発音の指導にも力を入れていきたいと思っています。少しでも多くの英会話ができるよう、楽しい雰囲気 で授業を進めていきたいと考えています。																																
達成目標	(1) 英語で簡単な会話ができるようになる。 (2) 自然な英語を聞き取れるようになる。 (3) 基本的なことがらについて意見が言える。																																
授業計画 (講義の具体的 内容)	<table border="0"> <tr> <td>Lesson 1 To Be(1)</td> <td>Lesson 16 Object Pronouns</td> </tr> <tr> <td>Lesson 2 To Be(2)/Subject Pronouns</td> <td>Lesson 17 Simple Present Tense</td> </tr> <tr> <td>Lesson 3 Present Continuous Tense</td> <td>Lesson 18 Adverbs of Frequency</td> </tr> <tr> <td>Lesson 4 Possessive Adjectives</td> <td>Lesson 19 Simple Present and Present</td> </tr> <tr> <td>Lesson 5 Adjectives/Possessive Nouns</td> <td>Continuous Tenses</td> </tr> <tr> <td>Lesson 6 Prepositions of Location</td> <td>Lesson 20 Can/Have to</td> </tr> <tr> <td>Lesson 7 There Is/There Are</td> <td>Lesson 21 Future</td> </tr> <tr> <td>Lesson 8 Singular/Plural(1)</td> <td>Lesson 22 Time Expressions (1)/Want to</td> </tr> <tr> <td>Lesson 9 Singular/Plural(2)</td> <td>Lesson 23 Past Tense(1)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 10 This/That/These/Those</td> <td>Lesson 24 Past Tense(2)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 11 Simple Present Tense(1)</td> <td>Lesson 25 Past Tense(3)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 12 Simple Present Tense(2)</td> <td>Lesson 26 Time Expressions(2)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 13 Review(1)</td> <td>Lesson 27 To Be(Past Tense)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 14 Review(2)</td> <td>Lesson 28 Review(1)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 15 Summary</td> <td>Lesson 29 Review(2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Lesson 30 Summary</td> </tr> </table>	Lesson 1 To Be(1)	Lesson 16 Object Pronouns	Lesson 2 To Be(2)/Subject Pronouns	Lesson 17 Simple Present Tense	Lesson 3 Present Continuous Tense	Lesson 18 Adverbs of Frequency	Lesson 4 Possessive Adjectives	Lesson 19 Simple Present and Present	Lesson 5 Adjectives/Possessive Nouns	Continuous Tenses	Lesson 6 Prepositions of Location	Lesson 20 Can/Have to	Lesson 7 There Is/There Are	Lesson 21 Future	Lesson 8 Singular/Plural(1)	Lesson 22 Time Expressions (1)/Want to	Lesson 9 Singular/Plural(2)	Lesson 23 Past Tense(1)	Lesson 10 This/That/These/Those	Lesson 24 Past Tense(2)	Lesson 11 Simple Present Tense(1)	Lesson 25 Past Tense(3)	Lesson 12 Simple Present Tense(2)	Lesson 26 Time Expressions(2)	Lesson 13 Review(1)	Lesson 27 To Be(Past Tense)	Lesson 14 Review(2)	Lesson 28 Review(1)	Lesson 15 Summary	Lesson 29 Review(2)		Lesson 30 Summary
Lesson 1 To Be(1)	Lesson 16 Object Pronouns																																
Lesson 2 To Be(2)/Subject Pronouns	Lesson 17 Simple Present Tense																																
Lesson 3 Present Continuous Tense	Lesson 18 Adverbs of Frequency																																
Lesson 4 Possessive Adjectives	Lesson 19 Simple Present and Present																																
Lesson 5 Adjectives/Possessive Nouns	Continuous Tenses																																
Lesson 6 Prepositions of Location	Lesson 20 Can/Have to																																
Lesson 7 There Is/There Are	Lesson 21 Future																																
Lesson 8 Singular/Plural(1)	Lesson 22 Time Expressions (1)/Want to																																
Lesson 9 Singular/Plural(2)	Lesson 23 Past Tense(1)																																
Lesson 10 This/That/These/Those	Lesson 24 Past Tense(2)																																
Lesson 11 Simple Present Tense(1)	Lesson 25 Past Tense(3)																																
Lesson 12 Simple Present Tense(2)	Lesson 26 Time Expressions(2)																																
Lesson 13 Review(1)	Lesson 27 To Be(Past Tense)																																
Lesson 14 Review(2)	Lesson 28 Review(1)																																
Lesson 15 Summary	Lesson 29 Review(2)																																
	Lesson 30 Summary																																
履修上の注意	Prepare 30 minutes before each class. Please do not use KEITAI in class except for emergency. Office hours: before class in the classroom 英語（会話中級）よりやさしい内容を勉強していきますので初めて英会話に挑戦される方や、ほとんど英語が話せない方はこの授業を取られるとよいと思います。																																
教科書	『SIDE by SIDE』 Steven J. Molinsky他著（ロングマン社）																																
参考書																																	
成績評価方法	授業態度 60% Mid-term test 20% Final test 20% 等で総合的に評価します。																																

科目名	英語（会話中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0120	担当教員	トーマス・マナー	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	中級程度の英会話の修得をめざします。 英語（会話初級）より、少し高い内容を勉強します。
授業の進め方	テキストを中心にヒアリング上達のためにテープ等も使います。 ペアやグループになつての会話の練習や、ゲーム等も取り入れます。 テキストにそって進めていき、その中で、より実践的な英会話状況に応じて使えるよう、指導していきます。 ユニットごとに基本となる文がのっていますので、これを使って会話の練習をしたり、テープの後について言ったり、また聞き取りテスト等もします。2人やグループでの会話を取り入れ、イントネーション・ストレス・発音の指導にも力を入れていきたいと思ひます。 イラストの入った楽しいテキストは日常生活の身近な話題ばかりで会話を学ぶ楽しさを実感してもらえます。英語が自然に好きになるような授業をめざしたいと思ひています。
達成目標	(1) 英文法を理解する。 (2) 英語で活発な会話ができるようになる。 (3) 英語を正確に聞き取れるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	Lesson 1 Getting to know each other Lesson 2 Talking about Interests(1) Lesson 3 Talking about Interests(2) Lesson 4 Talking about Family Lesson 5 Talking about People(1) Lesson 6 Talking about People(2) Lesson 7 Talking about Work Lesson 8 Talking about Work(2) Lesson 9 Talking about Past Experiences Lesson 10 Talking about Sports Lesson 11 Talking about other Countries Lesson 12 Talking about Experiences Lesson 13 Review(1) Lesson 14 Review(2) Lesson 15 Summary Lesson 16 Talking about Places(1) Lesson 17 Talking about Places(2) Lesson 18 Travel English partI:Traveling to Hawaii(1) Lesson 19 Travel English partI:Traveling to Hawaii(2) Lesson 20 Talking about Japanese Things(1) Lesson 21 Talking about Japanese Things(2) Lesson 22 Talking about Future Events Lesson 23 Talking about School Lesson 24 Travel English PartII:Traveling to Thailand(1) Lesson 25 Travel English PartII:Traveling to Thailand(2) Lesson 26 Talking about Sickness & Health Lesson 27 Talkopoly Lesson 28 Review(1) Lesson 29 Review(2) Lesson 30 Summary
履修上の注意	Prepare 30 minutes before each class. Please do not use KEITAI in class except for emergency. Office hours: before class in the classroom 英語（会話初級）から、少し進んだ内容で進めていきますので、簡単な英語なら話せる方や、さらに自分の会話力を伸ばしたい方に適しています。
教科書	『Talk a Lot Book 1』 David Martin著 (EFL Press)
参考書	
成績評価方法	授業態度 60% Mid-term test 20% Final test 20% 等で総合的に評価します。

科目名	ドイツ語	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0130	担当教員	小島 一良	所属	元高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	ドイツ語の初歩的文法を学習することによって、ドイツ語文章を正確に読み、理解する基礎的能力を養成する。文章を発音できなければ意味がありませんので発音練習には力を注ぎます。	
授業の進め方	授業は担当者と受講者の共同作業で成り立ちます。受講者が積極的に授業に参加できるように、一人一人に問題を解答してもらいます。	
達成目標	(1) 正確なドイツ語の発音ができるようになる。 (2) ドイツ語の辞書を正しく引くことができるようになる。 (3) ドイツ語の文章を正確に理解することができる。 (4) より高度な文章への橋渡しとなる。	
授業計画 (講義の具体的な内容)	前期の計画 第 1回 オリエンテーション 第 2回 発音練習 (アルファベット) 第 3回 発音練習 (アルファベット、母音) 第 4回 発音練習 (母音、子音) 第 5回 発音練習、動詞の現在人称変化 (1) 第 6回 発音練習、動詞の現在人称変化 (2) 第 7回 発音練習、名詞と格の変化 第 8回 名詞の複数形 (1) 第 9回 名詞の複数形 (2) 第 10回 前置詞 (1) 第 11回 前置詞 (2) 第 12回 形容詞の格変化、形容詞の比較級、最高級 (1) 第 13回 形容詞の格変化、形容詞の比較級、最高級 (2) 第 14回 動詞の 3 基本形 第 15回 まとめ	後期の計画 第 16回 過去形の人称変化 第 17回 話法の助動詞 (1) 第 18回 話法の助動詞 (2) 第 19回 完了形 (現在完了形、過去完了形) (1) 第 20回 完了形 (現在完了形、過去完了形) (2) 第 21回 複合動詞 (分離動詞) 第 22回 複合動詞 (非分離動詞) 第 23回 再帰動詞 (1) 第 24回 再帰動詞 (2) 第 25回 受動形 (1) 第 26回 受動形 (2) 第 27回 定関係代名詞 第 28回 不定関係代名詞 第 29回 接続法 (1) 第 30回 接続法 (2)
履修上の注意	とにかく声をだしてドイツ語にふれることが大切です。復習は必ず行ってください。一課終わるごとに練習問題がありますが、これは習得した知識の再確認ですから必ず解答してください。語学の学習には繰り返すことが大切です。	
教科書	「基礎ドイツ文法―第二版」 小島一良・瀬戸武彦 白水社	
参考書	辞書、参考書は第 1 回のオリエンテーションで紹介します。	
成績評価方法	授業への積極的な取り組み (15 %) と試験 (85 %) を考慮に入れて総合的に判断します。	

科目名	フランス語（初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0140	担当教員	山本 明日香	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	初めてフランス語を学ぶ人を対象に、最初歩からのフランス語会話と文法を学びます。				
授業の進め方	前週のおさらい / 教科書、DVDを使つての講義 / ペアを組んで会話や発音の練習 / プリントを使つて復習や応用練習 (宿題があります)				
達成目標	(1) 正しい動詞の活用や、名詞の性数、それにあつた正しい冠詞などを選ぶ事が出来る。(文法の修得) (2) 簡単な文章を作る事が出来る。読む事が出来る。(応用) (3) 会話を指示に従つて作り、簡単なやりとりが出来る。聞き取つて内容を把握出来る。(コミュニケーション)				
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 フランス語の音 / アルファベット / 挨拶1 第3～5回 自己紹介 / 国籍・身分 / 持ち物を尋ねる 第6～8回 趣味を尋ねる / 否定文 / onを使った表現 / 第9～15回 挨拶2 / 疑問文1 / 命令形 / 数字 (0～70) / 復習 /	第16～20回 疑問文2 / 年齢を言う / 名前を聞く / 好きな色を言う 第21～25回 飲み物を頼む / 部分冠詞 / いろいろな食べ物について言う 第26～30回 時刻について言う / 代名詞 / 挨拶3 / カフェで注文する / 近い未来 / 復習 /	授業2～3回につき一度、フランスの様々な文化を紹介したDVDを鑑賞します。		
履修上の注意					
教科書	Pierre et Hugo 白水社				
参考書	仏和辞書 ; オリエンテーションで説明します。				
成績評価方法	学年末試験 (60%) 発表・小テスト (20%) 提出物 (10%) 出席 (10%) これらから、総合的に評価します。3分の1以上の欠席者は試験受験資格を失います。				

科目名	フランス語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0141	担当教員	山本 明日香	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「フランス語（初級）」を履修した方、フランス語の基礎を学んだ経験のある方を対象にコミュニケーションを主体とした授業を行います。				
授業の進め方	前週のおさらい / 教科書、CDを使つての講義 / ペアもしくはグループでの会話や発音の練習 / プリントを使って復習や応用練習（宿題があります） / グループでの会話発表 / 先生との会話 /				
達成目標	(1) 「フランス語（初級）」で学んだ基礎をベースに、よりスムーズなコミュニケーションができるようになる。 (2) 基礎的な文法で、より広い表現が出来るよう、語彙力を延ばす。 (3) 実際に会話でフランス語を聞き取り、また、発音を正しく出来るようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション	第16～20回	行き方を尋ねる（移動手段 / 時間 / 交通機関の時刻 / 費用など）		
	第2回 アルファベ / 記号 / 発音の概念 /	第21～25回	休暇のことを話す（過去形） / 経験について話す		
	第3～5回 自分について言う（住んでいる所 / 出身地 / アルバイトなど）	第26～30回	朝ご飯について言う（食べ物、飲み物について言う） /		
	第6～8回 ペット、持ち物、家族について言う、聞く / 授業、科目について言う		家庭について話す / 後期の総復習		
	第9～12回 休日の過ごし方について言う / 予定について言う				
	第13～15回 天候について話す / 前期の総復習				
履修上の注意	「フランス語（初級）」を履修した方、フランス語の基礎を学んだ経験のある方を対象にしています。				
教科書	「Moi, je...コミュニケーション」 アルマ出版				
参考書	仏和辞書				
成績評価方法	学年末試験（60%）、小テスト（会話発表含む）（20%）、提出物（10%）、出席（10%）から総合的に評価します。授業への積極的な参加が求められます。 3分の1以上の欠席者は学年末試験資格を失います。				

科目名	中国語（初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0150	担当教員	玉置 啓子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	中国語は日本人にとって漢字という親しみやすさがありますが、発音は全く違うので、発音練習を繰り返すことが大切です。声調という高低アクセントを持つ中国語の発音はとてもしずみカルで、楽しいものです。この授業では全回に渡って発音練習をし、正確な発音を習得するようにします。更に簡単な文章を口頭練習し、聞き取れ、表現できるようにします。中国は日本と長い歴史的交流があり、現在も今後も深いつながりを持つ国です。言葉の習得はその国を理解する上で大きな手助けとなるでしょう。中国語は今後様々な分野で必要となるでしょう。																																																																				
授業の進め方	演習形式 対話で会話練習 口頭練習を重視																																																																				
達成目標	(1) 中国語のローマ字による発音表記(ピンイン)を習得し正しい発音ができるようにする。 (2) 基本単語を覚え、それを使って短文を作る。聞き取り練習によって、簡単な文が聞き取れるようにする。 (3) 簡単な会話ができるようになる。辞書を使って単語の意味や、簡単な文が理解できるようにする。																																																																				
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第 16 回</td> <td>発音練習 復習</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>発音練習</td> <td>第 17 回</td> <td>発音練習 第6課 動詞“有”</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>発音練習 あいさつ</td> <td></td> <td>何がありますか</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>発音練習 第1課 人称代名詞、自己紹介</td> <td>第 18 回</td> <td>発音練習 “ ” 練習</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>発音練習 “ ” 練習</td> <td>第 19 回</td> <td>発音練習 第7課 時刻 時間の長さ 何</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>発音練習 第2課 指示代名詞 これは何ですか</td> <td></td> <td>時に行きますか</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>発音練習 “ ” 練習</td> <td>第 20 回</td> <td>発音練習 “ ” 練習</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>第 21 回</td> <td>発音練習 第8課 完了 選択疑問文 予約しましたか</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>発音練習 第3課 形容詞述語文 これはいかがですか</td> <td>第 22 回</td> <td>発音練習 “ ” 練習</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>発音練習 “ ” 練習</td> <td>第 23 回</td> <td>発音練習 復習</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>発音練習 復習</td> <td>第 24 回</td> <td>発音練習 第10課 助動詞「できる」 試</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>発音練習 第4課 数詞 これはいくらですか</td> <td>第 25 回</td> <td>発音練習 “ ” 練習</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>発音練習 “ ” 練習</td> <td>第 26 回</td> <td>発音練習 第11課 前置詞 直してください</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>第 27 回</td> <td>発音練習 “ ” 練習</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>発音練習 第5課 動詞 助動詞 どこにありますか</td> <td>第 28 回</td> <td>発音練習 復習</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>発音練習 “ ” 練習</td> <td>第 29 回</td> <td>まとめ(1)</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>発音練習 復習</td> <td>第 30 回</td> <td>まとめ(2)</td> </tr> </table>	第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	発音練習 復習	第 2 回	発音練習	第 17 回	発音練習 第6課 動詞“有”	第 3 回	発音練習 あいさつ		何がありますか	第 4 回	発音練習 第1課 人称代名詞、自己紹介	第 18 回	発音練習 “ ” 練習	第 5 回	発音練習 “ ” 練習	第 19 回	発音練習 第7課 時刻 時間の長さ 何	第 6 回	発音練習 第2課 指示代名詞 これは何ですか		時に行きますか	第 7 回	発音練習 “ ” 練習	第 20 回	発音練習 “ ” 練習			第 21 回	発音練習 第8課 完了 選択疑問文 予約しましたか	第 8 回	発音練習 第3課 形容詞述語文 これはいかがですか	第 22 回	発音練習 “ ” 練習	第 9 回	発音練習 “ ” 練習	第 23 回	発音練習 復習	第 10 回	発音練習 復習	第 24 回	発音練習 第10課 助動詞「できる」 試	第 11 回	発音練習 第4課 数詞 これはいくらですか	第 25 回	発音練習 “ ” 練習	第 12 回	発音練習 “ ” 練習	第 26 回	発音練習 第11課 前置詞 直してください			第 27 回	発音練習 “ ” 練習	第 13 回	発音練習 第5課 動詞 助動詞 どこにありますか	第 28 回	発音練習 復習	第 14 回	発音練習 “ ” 練習	第 29 回	まとめ(1)	第 15 回	発音練習 復習	第 30 回	まとめ(2)
第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	発音練習 復習																																																																		
第 2 回	発音練習	第 17 回	発音練習 第6課 動詞“有”																																																																		
第 3 回	発音練習 あいさつ		何がありますか																																																																		
第 4 回	発音練習 第1課 人称代名詞、自己紹介	第 18 回	発音練習 “ ” 練習																																																																		
第 5 回	発音練習 “ ” 練習	第 19 回	発音練習 第7課 時刻 時間の長さ 何																																																																		
第 6 回	発音練習 第2課 指示代名詞 これは何ですか		時に行きますか																																																																		
第 7 回	発音練習 “ ” 練習	第 20 回	発音練習 “ ” 練習																																																																		
		第 21 回	発音練習 第8課 完了 選択疑問文 予約しましたか																																																																		
第 8 回	発音練習 第3課 形容詞述語文 これはいかがですか	第 22 回	発音練習 “ ” 練習																																																																		
第 9 回	発音練習 “ ” 練習	第 23 回	発音練習 復習																																																																		
第 10 回	発音練習 復習	第 24 回	発音練習 第10課 助動詞「できる」 試																																																																		
第 11 回	発音練習 第4課 数詞 これはいくらですか	第 25 回	発音練習 “ ” 練習																																																																		
第 12 回	発音練習 “ ” 練習	第 26 回	発音練習 第11課 前置詞 直してください																																																																		
		第 27 回	発音練習 “ ” 練習																																																																		
第 13 回	発音練習 第5課 動詞 助動詞 どこにありますか	第 28 回	発音練習 復習																																																																		
第 14 回	発音練習 “ ” 練習	第 29 回	まとめ(1)																																																																		
第 15 回	発音練習 復習	第 30 回	まとめ(2)																																																																		
履修上の注意	休まずに受講すること。授業中は積極的に発音、口頭練習をすること。																																																																				
教科書	『1年生のコミュニケーション中国語』 白水社																																																																				
参考書	中日辞典																																																																				
成績評価方法	中間試験、期末試験を行う。中間試験(30%) 期末試験(40%)、授業中の発表、課題の提出(30%)等を併せて総合的に評価する																																																																				

科目名	中国語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0160	担当教員	玉置 啓子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>初級の基礎の上に、単語を増やし、応用文、少し複雑な構文を学びます。、中国文化を紹介した文を読み、文法の基礎を学び、基本的な作文ができるようにします。さらに、実際に使える表現を繰り返し練習してマスターするようにします。</p> <p>長い歴史と広大な地域を持つ中国の様々な文化を知ること、中国への関心がいっそう高まることでしょう。</p>																																																																											
授業の進め方	<p>演習形式。 辞書を引いて文を読み、構文の基礎を元に作文練習、会話練習をします。</p>																																																																											
達成目標	<p>(1)正しい発音ができる。発音表記(ピンイン)が読み、書ける。 (2)簡単な文が聞き取れ、作文ができ、会話ができる。 (3)ややまとまった文を読んで日本語訳ができるようにする。</p>																																																																											
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第16回</td> <td>第6課</td> <td>杭州(1)所在の表現</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>発音の復習 第1課 植物園(1)名詞述語文</td> <td>第17回</td> <td>"</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>発音の復習 " (2)</td> <td>第18回</td> <td>"</td> <td>(3)練習</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>発音の復習 " (3)練習</td> <td>第19回</td> <td>第7課</td> <td>中国的伝統節日 (1)時間のい</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>第2課 北京(1)形容詞述語文</td> <td>第20回</td> <td>"</td> <td>(2)練習</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>" (2)</td> <td>第21回</td> <td>第8課</td> <td>夏天的植物園 (1)動詞の完了形</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>" (3)練習</td> <td>第22回</td> <td>"</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>第3課 京都(1)動詞述語文</td> <td>第23回</td> <td>"</td> <td>(3)練習</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>" (2)</td> <td>第24回</td> <td>第9課</td> <td>鑑真和尚 (1)助数詞</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>" (3)練習</td> <td>第25回</td> <td>"</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>第4課 中国(1)主述述語文</td> <td>第26回</td> <td>"</td> <td>(3)練習</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>" (2)</td> <td>第27回</td> <td>第10課</td> <td>景德鎮 (1)結果補語</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>" (3)練習</td> <td>第28回</td> <td>"</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>第5課 三皇的伝説(1)数詞と助数詞</td> <td>第29回</td> <td>"</td> <td>(3)練習</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>" (2)練習</td> <td>第30回</td> <td>全体の復習</td> <td></td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション	第16回	第6課	杭州(1)所在の表現	第2回	発音の復習 第1課 植物園(1)名詞述語文	第17回	"	(2)	第3回	発音の復習 " (2)	第18回	"	(3)練習	第4回	発音の復習 " (3)練習	第19回	第7課	中国的伝統節日 (1)時間のい	第5回	第2課 北京(1)形容詞述語文	第20回	"	(2)練習	第6回	" (2)	第21回	第8課	夏天的植物園 (1)動詞の完了形	第7回	" (3)練習	第22回	"	(2)	第8回	第3課 京都(1)動詞述語文	第23回	"	(3)練習	第9回	" (2)	第24回	第9課	鑑真和尚 (1)助数詞	第10回	" (3)練習	第25回	"	(2)	第11回	第4課 中国(1)主述述語文	第26回	"	(3)練習	第12回	" (2)	第27回	第10課	景德鎮 (1)結果補語	第13回	" (3)練習	第28回	"	(2)	第14回	第5課 三皇的伝説(1)数詞と助数詞	第29回	"	(3)練習	第15回	" (2)練習	第30回	全体の復習	
第1回	オリエンテーション	第16回	第6課	杭州(1)所在の表現																																																																								
第2回	発音の復習 第1課 植物園(1)名詞述語文	第17回	"	(2)																																																																								
第3回	発音の復習 " (2)	第18回	"	(3)練習																																																																								
第4回	発音の復習 " (3)練習	第19回	第7課	中国的伝統節日 (1)時間のい																																																																								
第5回	第2課 北京(1)形容詞述語文	第20回	"	(2)練習																																																																								
第6回	" (2)	第21回	第8課	夏天的植物園 (1)動詞の完了形																																																																								
第7回	" (3)練習	第22回	"	(2)																																																																								
第8回	第3課 京都(1)動詞述語文	第23回	"	(3)練習																																																																								
第9回	" (2)	第24回	第9課	鑑真和尚 (1)助数詞																																																																								
第10回	" (3)練習	第25回	"	(2)																																																																								
第11回	第4課 中国(1)主述述語文	第26回	"	(3)練習																																																																								
第12回	" (2)	第27回	第10課	景德鎮 (1)結果補語																																																																								
第13回	" (3)練習	第28回	"	(2)																																																																								
第14回	第5課 三皇的伝説(1)数詞と助数詞	第29回	"	(3)練習																																																																								
第15回	" (2)練習	第30回	全体の復習																																																																									
履修上の注意	<p>授業は休まずに出席すること。 積極的に口頭練習に参加すること。 辞書をよく使いこなすこと。</p>																																																																											
教科書	『システムティック中国語初級読本』 郁文堂																																																																											
参考書	中日辞典 日中辞典																																																																											
成績評価方法	<p>中間試験、期末試験を行う。授業中の発表と課題の提出(30%)中間試験(30%)期末試験(40%)などから総合的に評価する</p>																																																																											

科目名	韓国語（初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0170	担当教員	具 珉京	所属	財団法人福井保育協会
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	韓国語の仕組みからハングルの読み書き、そして基本的な韓国語の文章が理解出来、簡単な挨拶や会話を身に付ける。				
授業の進め方	テキストをもとに講義をする。 プリントを使つての演習とペアやグループになって会話の練習をする。 最初はハングルの文字と発音を十分身に付けるために、韓国語の仕組みや、ハングルの読み書きの練習をし、文法と表現の学習を段階的に学べるようにする。後半では、簡単な会話演習も行う。試験は中間テストと期末試験の2回行う。				
達成目標	(1) 韓国語の仕組みを理解する (2) ハングル文字と日常生活に良く出てくる単語を覚える。 (3) 初めて習う人が1年で簡単な文章が作れるようになる。 (4) 挨拶を中心に簡単な日常会話ができるようになる。 予習復習を熱心にし、巻末の用言活用表で不規則用言の変化まで覚えると、ハングル能力検定試験4級に相当する力がつく。				
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 韓国語の仕組みとハングルについて 第3回 挨拶表現(1) 母音(1) 第4回 挨拶表現(2)と子音(1)・母音(2) 第5回 挨拶表現(3)と子音(2)・母音(3) 第6回 挨拶表現(4)と終声 第7回 挨拶表現(4)と発声 第8回 指定詞 第9回 指定詞の否定形 第10回 改まりの上称形 第11回 漢数詞と助数詞 第12回 固有数詞と助数詞 第13回 韓国の日常生活と会話 第14回 復習の為の会話練習 第15回 授業前半のまとめと復習	第16回 親しさの上称形(1) 第17回 親しさの上称形(2) 第18回 方向位置名詞 第19回 過去時制 第20回 否定形と不可能形 第21回 尊敬表現 第22回 動作の継続と希求表現 第23回 婉曲と根拠の表現 第24回 連体形 第25回 意志・相談・可能形 第26回 用言活用、助詞の整理、文法形式 第27回 韓国の風習と言語について 第28回 復習の為の会話練習 第29回 授業後半のまとめと復習 第30回 総まとめと質疑応答			
履修上の注意	欠席しないこと。予習・復習をすること。				
教科書	「楽しく学ぶハングル1」浜之上幸 監修 姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・呉順瑛・朴校熙・雁昌玉 著 白帝社				
参考書	韓日辞書、日韓辞書				
成績評価方法	授業態度 30% 前期授業期間中に行う中間テスト 30% 後期試験期間に行う期末試験 40%				

科目名	韓国語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0180	担当教員	具 珉京	所属	財団法人福井保育協会
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	韓国語の基本的な文章の理解と会話を習得することを目的とする。	
授業の進め方	テキストをもとに講義をする。(プリントを使つての演習) 単語と文法を覚え、文章を理解し表現できるようにした上で、ペアやグループになって会話練習を行い、ヒアリング力も身につくようにする。 中間テストと期末試験を行う。	
達成目標	(1) 一般的に良く使われるハングル文字や文章の読み書きが出来るようになる。 (2) 日常会話力がレベルアップする。 (3) ヒアリング力がつくようになる。 予習復習を熱心にし、テキストを完全にマスターして、付録や読解編の文法事項まで覚えると、韓国での生活に支障をきたさないレベルの語学力、ハングル能力検定試験3級に相当する力がつく。	
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 韓国語初級からの確認事項 第3回 過去時制と未来連体形 第4回 相談・提案の表現 第5回 否定表現と不可能表現 第6回 現在連体形と活用用言 第7回 変格用言(1)と原因・理由(1)の表現 第8回 変格用言(2)と意向の表現 第9回 過去連体形と経験の表現 第10回 変格用言(3)と連用形を用いた表現 第11回 変格用言(4)と文中の疑問形 第12回 変格用言(5)と継続の表現(1) 第13回 韓国の伝統と文化と言語について 第14回 復習の為の会話練習 第15回 授業前半のまとめと復習	第16回 尊敬の丁寧な命令、勧誘、簡単な表現 第17回 同意・確認と希求・願望の表現 第18回 許可と義務の表現 第19回 意志・推量と意図の表現 第20回 用言の名詞形を用いた表現 第21回 目的の表現と副詞形 第22回 ハンタ体と伝聞の表現 第23回 原因・理由・(2)と動作や対象の変化の表現 第24回 ぞんざい悪い方と禁止の表現 第25回 継続の表現(2) 第26回 自分の力で読んでみよう(読解編) 第27回 補充文法、発音変化の整理、漢数詞と固有数詞、文法形式 第28回 復習の為の会話練習 第29回 授業後半のまとめと復習 第30回 総まとめと質疑応答
履修上の注意	韓国語（初級）を受講していることが望ましい。 予習・復習をする事、欠席しないように。	
教科書	「楽しく学ぶハングル2」浜之上幸 監修 姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・呉順瑛・朴校熙・雁昌玉 著 白帝社	
参考書	韓日辞書 日韓辞書	
成績評価方法	授業態度 30% 中間テスト30% 期末試験40%	

科目名	保健体育	単位数	2	期別	後期
科目コード	C0190	担当教員	本間 聖康	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	生活と健康（特に運動と健康） ライフスタイルの変化により、日常生活における身体活動は大幅に軽減された。 ここでは、主に運動（身体活動）と健康の関係についてみていく。
授業の進め方	講義形式、ビデオ利用
達成目標	(1) 運動（身体活動）と健康の関係について理解し、生活に生かすことができる。 (2) 健康管理のために、メディカルチェックが重要であることが理解できる。 (3) 健康の保持・増進のために運動（身体活動）を実施する際の注意点が理解できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 人間と運動 第 2 回 運動不足の実態 第 3 回 ベッド・レスト・スタディ 第 4 回 運動と心臓疾患の予防 第 5 回 運動と心臓 第 6 回 運動と血圧 第 7 回 肥満と血中脂質に及ぼす影響 第 8 回 体力に及ぼす効果 第 9 回 喫煙と運動 第 10 回 運動と寿命 第 11 回 自覚的效果 第 12 回 運動の功罪 第 13 回 運動処方とは 第 14 回 運動処方の手順 第 15 回 運動処方の内容
履修上の注意	特になし
教科書	なし
参考書	池上晴夫 『新版 運動処方』（朝倉書店） 同 『スポーツ医学 』（朝倉書店）
成績評価方法	筆記テスト（100%）

科目名	体育実技A	単位数	2	期別	通年
科目コード	C0200	担当教員	神家 一成	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	仲間と共にスポーツのもつ本来の楽しさに触れることにより、生涯を通じて主体的にスポーツに親しむために必要な資質や能力を形成していくことを目的とする。
授業の進め方	全期間を4つの単元に区分し、数種のスポーツ実技を行う。基本技術の習得とゲームの実践を中心として行う。
達成目標	(1) 各スポーツにおける基礎的技能を習得する。 (2) ルールを理解し、ゲームに参加してプレーすることができる。 (3) 審判の役についてゲームを進行することができる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p><バドミントン> 第2回 用具に慣れる 第3回 簡易ゲーム 第4回 ストローク練習、ダブルスゲーム 第5回 ストローク練習、ダブルスゲーム 第6回 フライット練習、シングルスゲーム 第7回 フライット練習、シングルスゲーム 第8回 総括ゲーム</p> <p><ソフトバレーボール> 第9回 ボールに慣れる 第10回 パス練習、簡易ゲーム 第11回 パス練習、簡易ゲーム 第12回 サーブ練習、ゲーム 第13回 集団技能練習、ゲーム 第14回 集団技能練習、ゲーム 第15回 総括ゲーム</p> <p><テニス> 第16回 用具に慣れる 第17回 フォアハンドグラウンドストローク 第18回 フォアハンドグラウンドストローク 第19回 バックハンドグラウンドストローク 第20回 バックハンドグラウンドストローク 第21回 サーブ、ボレーストローク 第22回 ゲーム 第23回 ゲーム</p> <p><卓球> 第24回 用具に慣れる 第25回 フォアハンドストローク 第26回 バックハンドストローク 第27回 シングルスゲーム 第28回 シングルスゲーム 第29回 ダブルスゲーム 第30回 ダブルスゲーム</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育実技にふさわしい服装(ウエア、シューズ)で参加すること。 ・ ルール、マナーを守り、フェアプレーを心がけること。 ・ 仲間と協力して行うことを心がけること。
教科書	不 要
参考書	
成績評価方法	授業への参加状況(40%)、受講態度(40%)、レポート(20%)を総合的に評価する。

科目名	体育実技B	単位数	2	期別	通年
科目コード	C0210	担当教員	稲田 俊治	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	いろいろなスポーツを行いながら、楽しみや生きがいとして、また健康やコミュニケーションにとっても大きな働きをもっているスポーツについて考え、主体的に実践できる知識、技能、態度を習得する。				
授業の進め方	全体を5期に区分し、～期は全員が同じ種目を行ない、個人差を認め合いながらもプレイを楽しむためのゲーム力や基本技能を高めるようにする。～期は各自がいくつかの種目から行ないたいものを選択し、他者と協力してゲームを楽しむようにする。				
達成目標	<p>(1) 各種目について、ルールを理解し、技能を習得する。</p> <p>(2) 受講者間でのコミュニケーションや教え合いができる。</p> <p>(3) 技能レベル等の差を認めながらも、みんながゲームを楽しむことができる。</p>				
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第7回 ソフトバレーボール 毎回、説明～基礎練習～ゲームというパターンで実施しながら、ソフトバレーボールのルール、基礎技術、具体的な練習方法、ゲームの行い方、お互いが楽しむための態度や工夫について学習する。</p> <p>第8回～第13回 バドミントン ダブルスを中心に学習する。ソフトバレーボールと同様に、説明～基礎練習～ゲームというパターンで実施する。</p> <p>第14回～第18回 卓球 ダブルスとシングルスを行なう。説明～基礎練習～ゲームというパターンで実施する。</p>	<p>第19回～第23回 テニス ダブルスを中心に学習する。基礎練習に重点を置き、ストロークのラリー、サーブとレシーブのラリー、ストロークとボレーのラリーが続くようにする。</p> <p>第24回～第29回 ソフトバレーボール、バドミントン、卓球、テニスの中から行いたい種目を他者と協力して楽しむ。</p> <p>人数、施設等を考慮して調整する。</p> <p>第30回 授業のまとめ</p>			
履修上の注意					
教科書	特になし				
参考書	特になし				
成績評価方法	受講態度(80%)、レポート(20%)などにより総合的に評価する。				

科目名	哲学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	D0220	担当教員	原崎 道彦	所属	高知大学教育学部	
連絡先	電話					088-844-8370(研究室)
	E-mail					harasaki@kochi-u.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	西洋哲学史をハイスピードで足で駆け抜けます。西洋哲学史を代表する12名をとりあげます。とびきり深く激しく考えたものたちばかりです。しかし、この授業の目的は、彼らの考えたことを覚えてもらうことではありません。彼らの考えたことと対峙しながら、では自分はどう考えるか、をつきつめてもらうことです。
授業の進め方	1時間にひとりの哲学者をとりあげてゆきます。 毎時間、最後に、授業を聞いて考えたことを短いレポートにまとめる時間をとります。 次の時間は、そのレポートへコメントするところから始まります。
達成目標	(1) 哲学という学問のスタイルを理解する。 (2) 哲学の歴史において議論されてきた問題を理解する。 (3) 哲学者たちの考えたことを参考にしながら、自分の考えを組み立てることができる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 授業のすすめ方や成績評価についてのガイダンス。 第2回 哲学とはどのような学問なのか。 第3回 ヘラクレイトスの哲学。 第4回 プラトンの哲学。 第5回 アリストテレスの哲学。 第6回 マキアヴェリの哲学。 第7回 ホッブズの哲学。 第8回 デカルトの哲学。 第9回 ルソーの哲学。 第10回 カントの哲学。 第11回 ヘーゲルの哲学。 第12回 ベンサムスの哲学。 第13回 マルクスの哲学。 第14回 ニーチェの哲学。 第15回 まとめ。
履修上の注意	6回以上の欠席で、自動的に、履修の資格を失います。20分以上の遅刻は欠席扱いとします。また、授業に出ても、(授業の最後で書いてもらう)レポートの提出がない場合や、レポートの内容が授業の内容にそっていない場合は、欠席扱いとなります。毎時間のレポートがすべて提出されていても、期末レポートの提出がない場合は、失格となります。
教科書	ありません。毎時間、レジメと資料のプリントを配布します。
参考書	授業で紹介します。
成績評価方法	毎時間(ガイダンスの1時間目は除く)、授業の最後に、授業を聞いて考えたことをまとめたレポートを書く時間をとります。そのレポートの点数が、1回5点満点で、14回で70点満点となります。授業全体の終了後に、授業全体をふりかえり考えたことをまとめたレポートを提出してもらいます。そちらが30点満点となります。いずれのレポートも、採点基準は、授業の内容にどれだけ食い込むことを考えることができているか、です。レポートの分量や書式については、1時間目のガイダンスで詳しく説明します。

科目名	文学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0230	担当教員	芋生 裕信	所属	高知県立大学 文化学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	俳句革新、短歌革新、『ホトトギス』への支援、夏目漱石や後輩たちのかかわり等をポイントに、正岡子規が近代俳句、近代短歌、写生文において果たした役割を作品に即してたどっていきます。
授業の進め方	受講生との質疑応答を積極的に取り入れながら、子規の作品、文章を丁寧に読んでいきます。一つのテキストを中心に、ともに読み深める「講読」形式の授業になります。
達成目標	(1) 俳句、短歌、写生文を鑑賞する力を養う。 (2) 近代詩歌の世界において子規が果たした役割を理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 子規の生涯 第3回 俳句の革新(1) 第4回 俳句の革新(2) 第5回 俳句の革新(3) 第6回 俳句の革新(4) 第7回 短歌の革新(1) 第8回 短歌の革新(2) 第9回 短歌の革新(3) 第10回 短歌の革新(4) 第11回 『ホトトギス』と子規(1) 第12回 『ホトトギス』と子規(2) 第13回 漱石と子規(1) 第14回 漱石と子規(2) 第15回 まとめ
履修上の注意	小レポートを数回課しますので、熱心に取り組んでください。
教科書	『ちくま日本文学 正岡子規』筑摩書房 2009年 (必携)
参考書	授業の中で紹介します。
成績評価方法	平常点(小レポートを含む。40%)と期末レポート(60%)を総合して評価します。

科目名	芸術・文化論	単位数	2	期別	後期
科目コード	D0240	担当教員	味元 昭次	所属	蝶俳句会・現代俳句協会
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	世界の中での日本文化・芸術ということを念頭に置き、その特徴的詩形式である俳句を見ることで、文化的環境・歴史・人間模様を、他ジャンルとも比較しつつ探る。
授業の進め方	基本テーマを意識しつつ、古典から現在只今のごくごく身近な俳句作品を紹介し、学生にも希望者には実作してもらい、それらを通して芸術文化に共通する表現を見てゆく。他ジャンルでは現代詩や映画のビデオなども使う
達成目標	(1) 芸術文化とは何かという基本認識を理解できるようになる (2) 日本文化の独自性と特徴を認識できるようになる (3) 俳句型式という最短詩の持っている特殊性と普遍性を日本文化の誇りとして把握できるようになる (4) 現代に生きている詩形式としての俳句作品のいくつかを感受できるようになる (5) 時代と俳句との関わりなども具体的作品を見て考えることができるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 芸術文化の基本認識 第 2 回 ことば 第 3 回 俳句の特殊性と普遍性 第 4 回 比喻 第 5 回 余情・余韻 第 6 回 見る・見立て 第 7 回 季語のとはなにか 第 8 回 切れ・間 第 9 回 座・間・句会 第 10 回 表現の共通性(映画や現代詩の上映や朗読) 第 11 回 時代と俳句 第 12 回 現在に生きている俳句表現の状況 第 13 回 暮らしの中にある芸術・あるいは表現 第 14 回 虚と実 第 15 回 花ということ 以上は厳密な順ではない。学生の希望等によって臨機応変に組み立てる。ビデオ観賞や朗読をすることがある。学生の質問・意見を歓迎する。
履修上の注意	どんな意見・質問も恥ずかしながら言うこと。
教科書	なし。そのつど資料を作成して配布。
参考書	同上
成績評価方法	受講姿勢(10%)とレポート(90%)で評価する。 レポートの課題は芸術文化に思うこと等である。

科目名	文章表現技法	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0250	担当教員	池田 洋一	所属	土佐塾高校非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	講義形式で進めます。しかし、実際に書かないと上達しませんので、後半は小論文を書いてもらいます。よい文章は、一体どうすれば書けるのか。この課題に、よりよい解答が出るように挑戦します。よい文章の書き方として、用字・用語、句読点の勘所、構想の立て方、構成の取り方を最初に学んでいきます。そして、テーマへの取り組み方、その効果的な表現などを当方で用意したテキスト・問題文に即して、実践的に学んでいきます。今後、さまざまな場面で要求される小論文が、最終的にきちんと書ける段階までを目標とします。				
授業の進め方	最初はよい文章とは何かを概説的に説明します。日本語の基礎知識、執筆技術の基礎知識、書き方のコツなどを全般的に指導します。当方で書いたものを配布し、その上で、問題点を話して行きます。その後、テキスト(教科書等)の読み込み、相互の批評・分析を加えて、名文から書き方の要諦・方法を学びます。文章上達のコツは、名文をよく読み込むこと、数多く書き込むことなので、課題文を出して、必要に応じて小論文を書いてもらい、添削・批評をして行きます。文章上達には、他者の目に曝すことが必要です。				
達成目標	(1) 大学生として要求される基礎的な文章表現の能力を身につける。 (2) 明晰で、論理的な文章の書き方を習得する。 (3) 実際に課題をあたえられて、小論文が十分に書けるところまでを目標とする。				
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回：オリエンテーション、文章を書く際の基礎知識・概説 第2回：小論文の基本技術 正しい文章を書くために A・主語・述語 B・修飾の順序 C・文末表現 D・助詞の使い方 第3回：小論文の基礎 A・原稿用紙の使い方 B・符号の使い方 C・文のつなぎ方 D・句読点の打ち方 第4回：小論文の基礎 A・よい文章とは一わかりやすさと読みやすさ B・文章修行のやり方など C・小論文 と作文の違い D・情報の集め方など 第5回：小論文の基礎 テーマ・発想の展開 A・テーマの見つけ方 B・テーマの絞り方 C・発想の方法 D・構想の立て方 第6回：小論文の基礎 ・文章構成のノウハウ 具体的な構成の立て方 A・実際の小論文の問題と答案を使う B・書き方の具体的な手順を板書・記載したもので説明 第7回：「教科書」を読み込む 辰濃和男著『文章の書き方』を使う A・相互批評を行う B・分析をする C・文章の勘所を学ぶ	第8回：「教科書」を読み込む 辰濃和男著『文章のみがき方』を使う A・相互批評を行う B・分析をする C・文章の勘所を学ぶ 第9回：課題文の演習 課題問題の書き方・方法、抽象的なテーマの場合 A・具体的な書き方は記載したもので説明B・実際に小論文を書くC・書いたものを推敲する 第10回：課題文の演習 複数の資料・グラフのついた問題 A・問題点を指摘し、実際に小論文を書いてもらう 第11回：課題文の演習 時事的な問題 第12回：課題文の演習 時事的な問題 第13回：課題文の演習 よく出る問題 第14回：課題文の演習 よく出る問題 第15回：まとめ 明晰でわかりやすい、論理的な文章を書くための「まとめ」	授業の進め方は、1回から6回目までを、上記の基礎的な内容に費やします。7回から8回目では教科書で文章の要諦・勘所を学びます。9回から14回目は、その応用・実践編とし、15回目を「まとめ」とします。		
履修上の注意	教科書は言うまでもないが、国語辞典を持参のこと。 原稿用紙は当方で用意をします。				
教科書	辰濃和男著『文章の書き方』(岩波新書)819円(税込) 辰濃和男著『文章のみがき方』(岩波新書)819円(税込)				
参考書	丸谷才一著『文章読本』(中公文庫) 本多勝一著『日本語の作文技術』(朝日文庫) 中村 明著『悪文一裏返し文章読本』(ちくま新書)中村 明著『作家の文体』『名文』(共に、ちくま学芸文庫) 鹿島 茂著『勝つための論文の書き方』(文春新書)				
成績評価方法	授業の姿勢(10%)、書評・小論文の内容(10%)、期末試験(80%)から総合的に評価をします。				

科目名	自然科学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0260	担当教員	津江 保彦	所属	高知大学理学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	自然科学の基礎は物理学にあります。ここでは物理学を中心に、お星様や私たちの感覚器官の働きなど、物理学で理解できること、物理学を知っていて初めて理解できる話題を考えていきたいと思います。
授業の進め方	講義形式で行います。少しは数式が出てきますが、数学の講義ではないので、中学校時代の数学と、あとちょっとです。各講義の最後に質問紙を配りますので、どんどん質問してください。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎的なことから順を追って論理的に考えることができる。 (2) 物理学の知識を使うと種々の自然界のことが理解できることを実感する。 (3) 日常の言葉だけでなく、自然を理解するときに数学を用いることの重要性を実感する。 (4) 科学的なものの見方・考え方のできる教養あるより良き市民を目指す。 (5) 自然についての理解を深めることを通じて、自然科学の活用力を身につけることを支援する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>以下のような話題を取り上げる予定です。進度、内容はなるべく受講生に合わせるつもりです。また、講義後に配る質問紙から話題を連想して、講義内容は転がり膨らんでいくことを期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 はじめに 第 2 回 惑星の運動と暦 - 現在使っている太陽暦とは？ - 第 3 回 太陽系観の変遷 - 地球中心説から太陽中心説へ - 第 4 回 地上物体の運動 - ガリレオからニュートンへ - 第 5 回 天界の運動 - 万有引力の法則 - 第 6 回 万有引力の法則 - 潮の満ち干き・お月さまのお顔はなぜいつも同じ？ - 第 7 回 地球の重さを測る - 天界と地上界の統一的記述 - 第 8 回 仕事とエネルギー - 色々なエネルギーの形 - 第 9 回 流れの科学 - カーブボールは何故まがる？ - 第 10 回 熱の科学 - 状態を決める方程式 - 第 11 回 状態方程式 - 君の涙はきれいな花を咲かせるか？ - 第 12 回 太陽中心の温度を推定しよう - 法則の組み合わせ - 第 13 回 光と視覚 - なぜ赤から紫まで見えるの？ - 第 14 回 特殊相対性理論の世界 - 時間の遅れ、空間の縮み - 第 15 回 一般相対性理論の世界 - 時間の進み方、ブラックホール -
履修上の注意	特にありません。
教科書	特に指定しません。毎回プリントをお配りして進めます。
参考書	過去の本講義をもとに上梓しました拙著『物理でほっと』津江保彦著、飛鳥出版室(2010年)を、僭越ながらあげておきます。
成績評価方法	期末の試験、またはレポート課題によります(100%)。

科目名	心理学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0270	担当教員	馬場園 陽一	所属	高知大学教育学部学校教育教員養成課程
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	心理学の多くの分野の中から、受講生の興味や関心が高いと思われる「パーソナリティの心理学」と「発達心理学」の分野を中心に講義を行う。この講義を通して、心を科学的にとらえる力を身につけるとともに、人間理解や自己理解を深めていただきたい。
授業の進め方	・講義形式を主とするが、質問や意見を求める機会も設ける。簡単な心理実験や心理検査なども実施する予定。
達成目標	(1)心理学に対する興味や関心を高める。(関心・意欲・態度) (2)重要な概念や用語の意味を理解できる。(知識・理解) (3)日常的な文脈の中で、学習した事柄を活かすことができる(活用力)
授業計画 (講義の具体的 内容)	全ての学問には基礎的分野と応用的分野があり、心理学も然りである。とりわけ心理学は、日常生活における人間理解や自己理解を深めていくうえでの実用性が高い学問である。本講義では、これまでの心理学研究から見出されてきた様々な理論的見解(心のしくみや働き)を深く学ぶことによって、実生活の中で心理学的枠組みを通して自己を客観的にみつめ、他者の心を理解し、よりよい生き方をしていくための基礎的能力を養う。 第1回 オリエンテーション(心を科学するとは) 第2回 パーソナリティ理解を深めるには 第3回 パーソナリティのタイプとは 第4回 パーソナリティの特性とは(ビッグファイブ) 第5回 深層心理とパーソナリティ 第6回 人間性とパーソナリティ 第7回 パーソナリティの発達 第8回 パーソナリティ障害(1) 第9回 パーソナリティ障害(2) 第10回 発達とは 第12回 乳児期の発達(愛着形成について) 第13回 幼児期の発達(親子関係) 第14回 青年期の発達(アイデンティティの確立) 第15回 発達障害について
履修上の注意	授業中に5回ほど小レポートを課します。
教科書	使いません。資料を配布します。
参考書	その都度、紹介します。
成績評価方法	小レポート(3割)と期末試験(7割)から総合的に評価します。

科目名	日本文学入門		単位数	2	期別	前期
科目コード	D1002		担当教員	芋生 裕信	所属	
連絡先	電話					
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	日本神話講義	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1015	担当教員	東原 伸明	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	アメリカ文学演習A	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1032	担当教員	山口 善成	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	中国古典文学論	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1041	担当教員	高西 成介	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	英語言語文化論演習 A	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1051	担当教員	金澤 俊吾	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	英語文法・英作文	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1052	担当教員	金澤 俊吾	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	イギリス文学講読 A	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1061	担当教員	青木 晴男	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	土佐地域文化研究（スポーツ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1071	担当教員	清原 泰治	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	日本近代文学講読A	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1081	担当教員	芋生 裕信	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	子育て支援論	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1500	担当教員	杉原 俊二	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	憲法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0280	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、日本国憲法が想定する統治機構に関して解説する。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1) 立憲主義の歴史的発展と、その基本的な理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する統治機構について、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、立憲主義の理念や日本国憲法の 諸規定を踏まえて、現代の政治的・法的問題について、きちんと分析し、自分自身で 考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 イントロダクション (講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第 2 回 憲法とは何か? 第 3 回 立憲主義の歴史的発展 第 4 回 立憲主義の正統性の検討 (民主主義との緊張関係について) 第 5 回 わが国の憲法史 第 6 回 日本国憲法の平和主義の検討 第 7 回 国民主権原理について 第 8 回 国会の組織 第 9 回 国会と議院の権能 第 10 回 内閣の組織・権能と議院内閣制 第 11 回 裁判所の組織と権能 第 12 回 財政民主主義と地方自治 第 13 回 憲法保障概説 第 14 回 憲法改正とその手続 第 15 回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	なし。
参考書	講義中に適時、あげていきます。
成績評価方法	期末の試験 (100%) で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で 60 点未満だった者に対して、60 点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	憲法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0290	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、日本国憲法が想定する基本的人権に関して解説する。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1) 人権保障に関する歴史的発展と、その基本的な理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する基本的人権について、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、人権保障の理念や日本国憲法の 諸規定を踏まえて、現代の政治的・法的問題について、きちんと分析し、自分自身で 考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 イン트로ダクション (講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第 2 回 人権保障の歴史的発展 第 3 回 基本的人権の原理と限界 第 4 回 私人間における人権保障と限界 第 5 回 包括的人権規定と新しい人権 第 6 回 情報化社会とプライバシー権 第 7 回 法の下での平等について 第 8 回 思想・良心の自由と学問の自由 第 9 回 信教の自由と政教分離原則 第 10 回 表現の自由の保障 第 11 回 経済的自由の保障 第 12 回 人身の自由と刑事手続 第 13 回 国務請求権と参政権 第 14 回 社会権の保障 第 15 回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	なし。
参考書	講義中に適時、あげていきます。
成績評価方法	期末の試験 (100%) で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	行政法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0301	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、行政法の基礎原理、行政組織法、および行政作用法などの諸分野について、解説を行う。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1) 行政法の基礎原理を正確に理解できるようになる。 (2) 行政組織法に関する概念と理論について、正確に理解できるようになる。 (3) 行政作用法に関する概念と理論について、正確に理解できるようになる。 (4) 上記の3項目が達成できたことを前提とした上で、現代の行政に関する諸問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 イン트로ダクション (講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第 2 回 行政法の特徴と法源 第 3 回 法の支配と法治主義 第 4 回 行政裁量 第 5 回 行政組織法概説 第 6 回 行政立法概説 第 7 回 行政計画の必要性とその問題 第 8 回 行政行為の概念のその効力 第 9 回 行政行為の類型 第 10 回 行政上の強制執行 第 11 回 行政上の即時強制と制裁 第 12 回 行政契約、行政指導、および行政調査 第 13 回 行政手続法概説 第 14 回 情報公開制度概説 第 15 回 これまでの講義の補足説明と時事問題の解説
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	なし。
参考書	講義中に適時、あげていきます。
成績評価方法	期末の試験 (100%) で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	行政法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0302	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、いわゆる行政救済法について、解説を行う。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1)いわゆる行政争訟法に関する概念と制度について、正確に理解できるようになる。(2)いわゆる国家補償法に関する概念と制度について、正確に理解できるようになる。(3)上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、現代の行政に関する諸問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 イントロダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 行政争訟法概説 第3回 行政訴訟の概念と類型 第4回 取消訴訟 第5回 その他の抗告訴訟 第6回 当事者訴訟と客観訴訟 第7回 行政上の不服申立制度概説 第8回 損失補償の概念と根拠 第9回 損失補償の要件と内容 第10回 国会賠償制度概説 第11回 権力的活動と国家賠償 第12回 公の営造物の設置・管理と国家賠償 第13回 民法上の不法行為責任と国家賠償責任との違い 第14回 結果責任による国家補償 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の解説
履修上の注意	行政法 を履修してから、受講することが望ましい。また、解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	なし。
参考書	講義中に適時、あげていきます。
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	税法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0310	担当教員	金子 長彦	所属	税理士
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	我が国における税法（所得税、法人税、消費税、相続・贈与税）の課税システム
授業の進め方	毎回レジュメに基づき各税法の課税システムを勉強していく
達成目標	(1) 租税法の理解 (2) 各税法の課税価格の計算理論の理解 (3) 納税額算出の計算理論の理解 (4) 消費税法の理論の理解
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 我が国における租税法の概念 第2回～第6回 所得税の計算方法 第7回～第10回 法人税の計算方法 第11回～第13回 消費税の計算方法 第14回～第15回 相続・贈与税の計算方法
履修上の注意	特になし
教科書	毎回レジュメを配布します
参考書	国税の常識 大淵博義 著 税務経理協会
成績評価方法	期末試験100%

科目名	刑法総論	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0331	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、刑法をはじめとするあらゆる刑罰法規に適用される刑法第1編総則の前半部分について勉強します。 後半部分については刑法総論 で勉強することになります。
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行うことを予定しています。
達成目標	(1) 犯罪とは何かについての理解すること。 (2) 刑法の基本概念を理解すること。 (3) 行為概念と構成要件について理解すること。 (4) 違法性について理解すること。 裁判員制度が始まりました。誰が、いつ、どんな場合に裁判員に選ばれるかもしれません。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思ます
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 刑法とは何か、刑法総論とは何か 第 2 回 刑法の基本原則 第 3 回 刑罰の基礎的問題 第 4 回 罪刑法定主義(1) 第 5 回 罪刑法定主義(2) 第 6 回 刑法の適用範囲 第 7 回 犯罪論の体系 第 8 回 行為と構成要件 第 9 回 因果関係(1) 第 10 回 因果関係(2) 第 11 回 不作為犯(1) 第 12 回 不作為犯(2) 第 13 回 違法性の意義と機能 第 14 回 可罰的違法性と違法性 第 15 回 違法性と違法阻却事由 * 皆さんの理解度などを助案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	教科書を事前に読んで、予習してください。
教科書	中山研一 『口述刑法総論新版補訂2版』(成文堂・2007年)
参考書	『判例百選刑法 総論第6版』(有斐閣・2008年)
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑法総論	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0332	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	刑法第1編総則の後半部分(刑法総論の続き)について勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。
達成目標	(1) 違法性阻却事由について理解すること。 (2) 責任の概念について理解すること。 (3) 故意・過失について理解すること。 (4) 錯誤について理解すること (5) 共犯について理解すること。 裁判員制度が始まりました。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思います。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 正当行為 第2回 正当防衛 第3回 緊急避難 第4回 自救行為と被害者の同意 第5回 責任論の基本問題 第6回 責任能力 第7回 原因において自由な行為 第8回 故意 第9回 錯誤論(1) 第10回 錯誤論(2) 第11回 過失 第12回 未遂 第13回 中止犯 第14回 不能犯 第15回 共犯の基礎概念 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	刑法総論 を履修していることが望ましい。
教科書	中山研一 『口述刑法総論新版補訂2版』(成文堂・2007年)
参考書	『刑法判例百選 総論第6版』(有斐閣・2008年)
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑法各論	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0333	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	刑法第二編罪の内、個人的法益に関する罪を中心に勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。
達成目標	(1) 生命・身体に対する罪について理解すること (2) 身体の自由に対する罪について理解すること。 (3) 人格的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が始まりました。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1回 刑法各論とは何か、刑法の基本原則 第 2回 生命に対する罪(1) 第 3回 生命に対する罪(2) 第 4回 傷害の罪 第 5回 過失傷害の罪 第 6回 墮胎の罪 第 7回 遺棄の罪 第 8回 脅迫の罪 第 9回 逮捕・監禁の罪 第10回 略取、誘拐及び人身売買の罪 第11回 姦淫の罪 第12回 住居及び秘密を侵す罪(1) 第13回 住居及び秘密を侵す罪(2) 第14回 名誉に対する罪 第15回 信用及び業務に対する罪 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(遅く、若しくは、速く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	刑法総論を既に、若しくは同時に履修することが望ましい。
教科書	中山研一 『口述刑法各論新版補訂2版』(成文堂・2006年)
参考書	『刑法判例百選 各論第6版』(有斐閣・2008年)
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑法各論	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0334	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	刑法第2編罪の内、刑法各論 の続きを、財産犯を中心に、社会的法益に対する罪などについても勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するための小テストも行います。
達成目標	(1) 財産犯の共通概念について理解すること。 (2) 個々の財産犯について理解すること。 (3) 社会適法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が始まりました。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1回 財産犯総論(1) 第 2回 財産犯総論(2) 第 3回 窃盗の罪(1) 第 4回 窃盗の罪(2) 第 5回 強盗の罪 第 6回 詐欺の罪(1) 第 7回 詐欺の罪(2) 第 8回 恐喝の罪 第 9回 横領の罪 第10回 背任の罪 第11回 盗品に関する罪、毀棄及び隠匿の罪 第12回 放火及び失火の罪(1) 第13回 放火及び失火の罪(2) 第14回 通貨偽造等の罪 第15回 公文書偽造の罪 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く進むことになるかもしれません。
履修上の注意	刑法総論を既に、若しくは同時に、刑法各論 を履修していることが望ましい。
教科書	中山研一 『口述刑法各論新版補訂2版』(成文堂・2006年)
参考書	『刑法判例百選 各論第6版』(有斐閣・2008年)
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑事訴訟法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0340	担当教員	紫藤 秀久	所属	梶原・紫藤法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現実の刑事裁判における実例等を織り交ぜながら、刑法を実現する法である刑事訴訟法を学びます。 なぜ弁護士は被告人を擁護するのか、なぜ取調べの可視化が叫ばれるのか、なぜ裁判員制度は必要なのか等の疑問を解消します。				
授業の進め方	講義形式を基礎とします。				
達成目標	(1) 刑事訴訟法の根本原則である「無罪の推定」の大原則について、基本的な理解をすること。 (2) 捜査から公訴提起を経て公判・判決に至る刑事訴訟全体の流れを把握すること。 (3) 裁判員制度の基礎を理解し、裁判員に選ばれた場合の基本的な姿勢を身につけること。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 刑事訴訟手続き全般と刑事訴訟法の基本原則 第 3 回 捜査とは 捜査の原則 捜査の端緒 捜査の登場人物 第 4 回 人に対する捜査 第 5 回 物に対する捜査 第 6 回 問題となる捜査手法 第 7 回 捜査における被疑者の防御 第 8 回 公訴の提起 第 9 回 公判手続概観 第 10 回 公判手続の原則 第 11 回 証拠法総論 証拠調べ手続 第 12 回 自白法則 第 13 回 伝聞法則 第 14 回 裁判員裁判 第 15 回 まとめ				
履修上の注意	憲法・刑法と関連して学んでください。				
教科書	「伊藤真の刑事訴訟法入門(第4版)」(伊藤真著・日本評論社出版・1700円+税)				
参考書	「六法」は必ず1冊準備してください(小型のものでもOKです)。				
成績評価方法	後期試験で評価します。 問題は論述式と小問形式を併用し、配点はほぼ同じ比重とします。				

科目名	民事訴訟法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0341	担当教員	本澤 友彬	所属	丸の内法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民事訴訟の仕組みと手続の概略，および，重要概念の解説。
授業の進め方	講義
達成目標	(1) 民事訴訟制度の意義と目的について理解できるようになる。 (2) 民事法の考え方を習得する。 (3) 民法訴訟の手続の具体的なイメージを持つことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>刑事訴訟については，裁判員裁判の導入や報道等があり，ある程度イメージがわきやすいと思います。しかし，民事裁判については，イメージがわきにくいのではないかと思います。</p> <p>そこで，具体例（貸した金を返せ等）を使って，授業の中で，民事訴訟の流れをシミュレーションしてみたいと思います。そのシミュレーションの中で，民事訴訟法の重要な用語や論点について触れていきます。</p> <p>必要な書籍は，六法です。レジュメを配布する予定です。基本的には，講義であり，質問（教科書の要らない程度のも）。または，以前従業で触れた事柄等）はたまにする程度を予定しています。</p> <p>民法を少し勉強している方が望ましいです。</p> <p>第1回 講義ガイダンス 講義の進め方 訴訟の目的 第2回 訴えの提起（1）訴訟の主体など 第3回 訴えの提起（2）処分権主義 第4回 第1回期日～裁判所での訴訟活動（1）裁判所による争点整理 第5回 第1回期日～裁判所での訴訟活動（2）弁論主義 第6回 第1回期日～裁判所での訴訟活動（3）弁論主義 第7回 第1回期日～裁判所での訴訟活動（4）自由心証主義・証明責任 第8回 判決以外の訴訟の終了 第9回 裁判官による判断内容・判決（1） 第10回 裁判官による判断内容・判決（2） 第11回 判決後の手続・判決の効力の概説 第12回 判決の効力についての論点（1） 第13回 判決の効力についての論点(2) 第14回 通常訴訟以外の訴訟 第15回 講義の復習とまとめ</p>
履修上の注意	
教科書	ポケット六法等の六法（3000円以下のもので可。電子六法でも可）
参考書	授業で指摘します。
成績評価方法	期末の試験（60%），講義への参加姿勢（40%）などから総合的に評価します。

科目名	民法（総則・物権）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0351	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の総則編を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。
達成目標	(1) 民法（総則編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 民法の基本的な仕組み(1) 第3回 権利の主体（ ）自然人 第4回 権利の主体（ ）法人（1） 第5回 物・意思表示による権利変動 第6回 意思表示の瑕疵（1） 第7回 意思表示の瑕疵（2） 第8回 契約の不当性 第9回 無効と取消し 第10回 代理（1） 第11回 代理（2） 第12回 代理（3） 第13回 法律行為の効力発生時期 第14回 時効 第15回 まとめ
履修上の注意	民法(債権) を同時並行して受講することが望ましい。 講義を受講する際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	『入門民法（全）』潮見佳男著、有斐閣（2007年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80％）および講義への参加姿勢（20％）により評価します。

科目名	民法（総則・物権）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0352	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の物権編の講義をします。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。
達成目標	(1) 民法（物権編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 物権の意義と種類、物権的請求権 第3回 物権変動（1） 第4回 物権変動（2） 第5回 物権変動（3） 第6回 占有権 第7回 所有権（1） 第8回 所有権（2）、用益物権 第9回 担保物権総論、留置権 第10回 先取特権、質権 第11回 抵当権（1） 第12回 抵当権（2） 第13回 抵当権（3） 第14回 譲渡担保 第15回 まとめ
履修上の注意	民法（総則・物権）を受講しておくこと。また、民法(債権)を同時並行して受講することが望ましい。講義を受ける際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	『入門民法（全）』潮見佳男著、有斐閣（2007年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。

科目名	民法（債権）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0361	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の債権総論部分を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に進めていきます。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。
達成目標	(1) 民法（債権総論部分）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験を受験する際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 債権関係とその内容 第3回 債務の不履行 第4回 責任財産の保全（1） 第5回 責任財産の保全（2） 第6回 弁済（1） 第7回 弁済（2） 第8回 相殺（1） 第9回 相殺（2） 第10回 債権譲渡（1） 第11回 債権譲渡（2）、債務引受、契約引受 第12回 多数当事者の債権関係（1） 第13回 多数当事者の債権関係（2） 第14回 多数当事者の債権関係（3）、第三者による債権侵害 第15回 まとめ
履修上の注意	民法(総論・物権) を同時並行して受講していることが望ましい。 講義を受講する際には、教科書と六法と教科書を必ず持参すること。
教科書	『入門民法（全）』潮見佳男著、有斐閣（2007年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80％）および講義への参加姿勢（20％）およびにより評価します。

科目名	民法（債権）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0362	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の債権各論部分を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に進めていきます。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。
達成目標	(1) 民法（債権各論部分）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験を準備する際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 契約総論（1） 第3回 契約総論（2） 第4回 贈与、売買契約（1） 第5回 売買契約（2） 第6回 消費貸借、使用貸借 第7回 賃貸借（1） 第8回 賃貸借（2） 第9回 雇用、請負 第10回 委任、寄託・組合・和解 第11回 事務管理・不当利得 第12回 不法行為（1） 第13回 不法行為（2） 第14回 不法行為（3） 第15回 まとめ
履修上の注意	民法（債権）を受講しておくこと。また、民法(総則・物権)を同時並行して受講することが望ましい。講義を受ける際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	『入門民法（全）』潮見佳男著、有斐閣（2007年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。

科目名	民法（家族）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0371	担当教員	中橋 紅美	所属	丸の内法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	家族と家族の法について学びます。夫婦、親子、扶養、後見、相続などの家族関係を規定している法律が、民法の親族・相続法です。本講義では、民法親族・相続法の基本的な内容について学びつつ、実務で直面した体験談等も踏まえながら、法律を身近に感じてもらい、法律が現実社会にどの様に影響しているかを考えます。
授業の進め方	教科書は特に指定しませんが、何でもいいので家族法に関する文献を購入し、各回のテーマに該当する部分を読んできてもらえれば、講義の理解が深まると思います。 板書は基本的にしません。場合によってはレジュメを配ることもあるかもしれません。
達成目標	(1) 民法親族法・相続法の基礎的内容が理解できる。 (2) 民法上の基本的な法律用語を正しく理解し、生活上必要な知識として活用できる。 (3) 家族に関して、法と社会的現実の関係について理解できる。
授業計画 (講義の具体的内容)	本講義では、毎回テーマを決め、そのテーマについて講義をします。 講義のテーマは以下のとおりです。 第1回 オリエンテーション・家族法の概要 第2回 結婚 第3回 離婚 第4回 離婚に伴う財産・子供の関係(1) 第5回 離婚に伴う財産・子供の関係(2) 第6回 親子(1) 第7回 親子(2) 第8回 後見・扶養 第9回 相続の概要 第10回 相続分 第11回 相続の効果 第12回 相続回復請求、相続の承認・放棄 第13回 遺産分割 第14回 遺言 第15回 遺留分 以上のテーマについて講義をする予定です。1回につき1つのテーマにしたいと考えています。講義は基本的には上記の順で行いますが、場合によっては入れ替えることもあります。
履修上の注意	民法（総則・物権）・民法（債権）に続く科目ですが、これらの内容を理解していることを前提とはしません。民法についてはごく基本的な内容を講義するのにとどめ、法律をはじめて受講する人でもついていける内容にします。
教科書	『六法』 出版社は問いませんが、最新版を用意してください。期末試験にも使います。
参考書	『身近な家族法』 川村隆子著 法律文化社 2010年 『家族法(第3版)』 二宮周平著 新世社 2009年 『はじめての家族法』 常岡史子編 成文堂 2008年
成績評価方法	期末試験を行います。期末試験の成績(70%)、講義への参加姿勢(30%)で総合評価します。

科目名	商法（総則・商行為）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0391	担当教員	小松 雄二	所属	小松法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	法律としての適用場面を意識しつつ、総則・商行為中の具体的条文に触れながら、商法について講義します。
授業の進め方	講義形式をとりますが、適宜、質問ないし対話を挟みます。講義はレジュメないしテキストに即して進めます。
達成目標	(1) 商法の基本概念を理解すること (2) 条文理解に基づき、具体的状況下で法律を適用すること (3) 発展として、上記(2)の場合の問題点を意識し、その解決法を考えること
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>以下のような流れで進めていく予定です。</p> <p>第1回 本講義について、商法とは 第2回 商法の特徴、商人と商行為 第3回 商人と商行為 第4回 商業登記、商号 第5回 商号、名板貸 第6回 支配人 第7回 商行為の総則 (商事代理等) 第8回 商行為の総則 (契約の成立、報酬、利息等) 第9回 商行為の総則 (商事保証等) 第10回 商行為の総則 (商事留置権等) 第11回 商事売買 第12回 商事売買 第13回 交互計算、匿名組合 第14回 仲立営業、問屋営業 第15回 国際取引等</p>
履修上の注意	民法への理解が前提となりますが、受講者の履修等の状況に照らして、可能な範囲で民法に触れつつ、商法の理解を図ることを考えています。 いわゆる六法を携帯して下さい。
教科書	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為 (第2版)』有斐閣、2006年
参考書	特に指定しません。
成績評価方法	期末試験(60%)、受講態度(40%)の比率で、総合的に評価します。

科目名	商法（総則・商行為）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0392	担当教員	小松 雄二	所属	小松法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	商法、手形・小切手法について概説していきます。
授業の進め方	講義形式をとりますが、適宜、質問ないし対話を挟みます。講義はレジュメないしテキストに即して進めます。
達成目標	(1) 商法の基本概念を理解し、条文理解に基づき、具体的状況下で法律を適用すること (2) 手形・小切手法について基本概念を理解すること
授業計画 (講義の具体的 内容)	以下のような流れで進めていく予定です。 第1回 本講義についてのガイダンス 第2回 商法概論 第3回 運送取引 第4回 運送取引 第5回 運送取引、倉庫営業 第6回 場屋営業 第7回 場屋営業 第8回 手形法 概論 第9回 手形法 手形理論 第10回 手形法 手形理論 第11回 手形法 手形理論 第12回 商法総合 第13回 商法総合 第14回 商法総合 第15回 商法の要件事実
履修上の注意	民法への理解が前提となりますが、受講者の履修等の状況に照らして、可能な範囲で民法に触れつつ、理解を図ることを考えています。 また「商法（総則・商行為）」を受講していることが望ましい。 いわゆる六法を携帯して下さい。
教科書	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為（第2版）』有斐閣、2006年。 その他については、講義中に指定します。
参考書	特に指定しません。
成績評価方法	期末試験(60%)、受講態度(40%)の比率で、総合的に評価します。

科目名	商法（会社）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0401	担当教員	金子 努	所属	金子努法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。
達成目標	(1) 株式の意義、株主の権利について理解する。 (2) 株式会社の機関の仕組み、役員の義務と責任の内容について理解する。 (3) 会社の設立手続きについて理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下のような流れで進めていく予定です。 第1回 ガイダンス 第2回 会社法総論 第3回 株式会社の特徴 第4回 株式会社とは 第5回 株式の内容 第6回 株式の譲渡 第7回 株式の権利行使の方法 第8回 投資単位の調整 第9回 機関とは 第10回 株主総会 第11回 取締役・取締役会・代表取締役 第12回 監査役・会計監査人・会計参与 第13回 委員会設置会社・非取締役会設置会社 第14回 役員等の義務と責任 第15回 株式会社の設立
履修上の注意	民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法科目が履修済あるいは同時履修していることが望ましい。六法を持参のこと。
教科書	伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征 『会社法（第2版）』（有斐閣、2011年）
参考書	江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友敬 『会社法判例百選』（有斐閣、2011年）
成績評価方法	学期末試験（80%）、小テスト（10%）、講義への参加姿勢（10%）により総合的に評価します。

科目名	経済法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0410	担当教員	横川 和博	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本の市場経済に関わる法律を概観し、国際的視野から評価・分析する。
授業の進め方	講義
達成目標	(1) 日本の市場経済に関わる法律の基本構造を理解する。 (2) それが経済社会の実態とどう関わるかについて考察できるようになる。 (3) 日本の経済法制を国際的視野から評価する能力を獲得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	次の順序で講義する。 第1回 経済法とはなにか 第2回 独占禁止法の意義 第3回～第4回 独占禁止法違反事件例・・・不当な取引制限 第5回 流通系列化と化粧品業界 第6回 医薬品業界と独占禁止法 第7回 自動車製造業と独占禁止法 第8回 コンビニ業界と独占禁止法 第9回～第10回 中小企業の競争力と中小企業法制 第11回 知的財産権法制 知的財産権とはなにか 第12回 著作権法の概要 第13回 特許法の概要 第14回～第15回 市場経済と独占禁止法・知的財産権法
履修上の注意	特になし
教科書	特に指定しない。
参考書	講義時に指示する。
成績評価方法	評価は最終筆記試験の成績による。 講義の内容が概ね理解できていれば60点。 講義時に指示した文献等に自分でアクセスし、講義内容を深めていれば70点。 講義で獲得した評価の視点で、講義内容を分析し、その結果を表現できれば80点以上となる。

科目名	労働法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0420	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	わたしたちは、働くことによって生活の糧を得るのであり、また、多くの時間を労働に費やしているのであるから、雇用関係を規制する法を知っておくことはきわめて重要である。具体的には、採用内定や試用期間、人事といった職業生活の各場面について、どのような法規制がなされているのかを考えてみることにしたい。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	(1) 労働法の理念を学ぶ。 (2) 労働法をめぐる当事者(労働者、労働組合、使用者)の関係について理解を深める。 (3) 労働条件を規制するもの(労働契約、就業規則、労働協約)の関係について理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 はじめに、労働法とは何か 第 2 回 労働契約の意義・労働法の適用対象 第 3 回 労働契約と労働者の権利義務 第 4 回 募集と採用 第 5 回 労働条件の決定(1) 第 6 回 労働条件の決定(2) 第 7 回 労働条件の変更(1) 第 8 回 労働条件の変更(2) 第 9 回 人事(1) 配転、出向 第 10 回 人事(2) 転籍 第 11 回 人事(3) 懲戒処分 第 12 回 労働時間(1) 労働時間の定義 第 13 回 労働時間(2) 弾力的な労働時間 第 14 回 休憩、休日、年次有給休暇(1) 休憩、休日 第 15 回 休憩、休日、年次有給休暇(2) 年次有給休暇
履修上の注意	労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、できるだけ労働法 もつづけて履修してもらいたい。
教科書	・金子征史ほか『基礎から学ぶ労働法 第2版』(エイデル研究所、平成22年) ・労働政策研究・研修機構編『労働関係法規集 2012年版』(労働政策研究・研修機構、平成24年)
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)

科目名	労働法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0430	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、労働法 につづけて、賃金や雇用平等などに関してどのような法規制がなされているかを見ていくこととする。おわりに、労働法の規制の要ともいえる、解雇を中心とした労働契約の終了について学ぶこととする。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	(1) 労基法を中心とした法律が、どのように労働関係を規制しているかを学ぶ。 (2) 近時問題となっている非正規労働者の処遇について理解する。 (3) 解雇を中心とした労働契約の終了につき、判例及び法令上どのような法規制がなされているかを理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 はじめに、賃金(1) 賃金の定義、賃金支払いの原則(1) 第 2 回 賃金(2) 賃金支払いの原則(2)、最低賃金 第 3 回 賃金(3) 賞与、退職金 第 4 回 雇用平等 第 5 回 非正規労働者の処遇(1) パートタイム労働 第 6 回 非正規労働者の処遇(2) 派遣労働 第 7 回 仕事と生活の調和 第 8 回 営業譲渡と労働契約 第 9 回 労働安全衛生 第 10 回 労災補償 第 11 回 労働契約の終了(1) 労働契約の終了事由 第 12 回 労働契約の終了(2) 解雇(1) 第 13 回 労働契約の終了(3) 解雇(2) 第 14 回 労働契約の終了(4) 有期契約の雇い止め 第 15 回 労働契約の終了(5) 労働契約終了後の法規制
履修上の注意	労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては労働法 を事前に履修してほしい。
教科書	・金子征史ほか『基礎から学ぶ労働法 第2版』(エイデル研究所、平成22年) ・労働政策研究・研修機構編『労働関係法規集 2012年版』(労働政策研究・研修機構、平成24年)
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)

科目名	基礎法学	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0431	担当教員	緒方 賢一	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>法学を学ぶ際、法律用語や条文、あるいは判例など、とにかく知識を増やすことが重要だと考えがちです。もちろん、法律を実際に利用する場合に法的知識や解釈力は欠かせないものですが、現実の社会関係において法がどのように位置づけられるか、法と社会（あるいは私たち市民）との関係はどのようなものであるのかという基本認識を持つことも重要です。</p> <p>本講義では、法と社会の現実の関係について「法社会学」的な視点から検討し、社会の中で法がどのような機能を果たしているのか、農山漁村および農林水産業を検討対象として理解していきます。</p>
授業の進め方	<p>レジュメにもとづいて基本的な問題状況を講義形式で説明し、皆さんにじっくり考えてもらう時間をとりながら授業を進めていきます。</p> <p>授業開始時に出席確認を兼ねたペーパー（出席確認カード）を配布し、毎回簡単な課題への回答および感想等を書いてもらいます。</p> <p>講義中および講義後の質問はもちろん歓迎します。</p> <p>毎回の出席確認カード提出のほかに、講義の区切りのところで簡単なレポートを書いてもらいます。すべての講義終了後、期末試験（テストまたはレポート）を行います。</p>
達成目標	<p>(1) 法と社会の現実の関係について法社会的な視点から理解することができる。</p> <p>(2) 農地制度、農業法についての基本的な事項を理解できる。</p> <p>(3) 農山漁村、農林水産業の法的課題について理解し、自身の見解を展開できる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>法社会学の基本的な考え方、問題へのアプローチの仕方についてまず学び、その後農業法の歴史的な展開を一通り学んだ後、農山漁村および農林水産業を取り巻く現代的な状況の中で、どのような法的課題があるかについて考えます。</p> <p>第 1 回 法律学・法社会学の基礎 第 2 回 土地所有権・利用権の歴史 第 3 回 農地法制の展開過程（1）明治維新から農地改革まで 第 4 回 農地法制の展開過程（2）基本法農政 第 5 回 農地法制の展開過程（3）2009年農地法改正 第 6 回 これからの農地制度 第 7 回 入会権の展開過程 第 8 回 林野・牧野の今日的存在意義 第 9 回 漁業権の歴史 第 10 回 コモンズとしての沿岸海域の管理のあり方 第 11 回 慣習と法 第 12 回 東日本大震災からの復興に向けて（農村・農地） 第 13 回 東日本大震災からの復興に向けて（漁村・漁業） 第 14 回 地域主導による地域資源の管理のあり方 第 15 回 まとめ</p> <p>講義1回につき一つのテーマを扱う予定ですが、次回にまたがる場合もあります。 また、担当教員の判断・皆さんのリクエストによってテーマを若干変更することもあり得ます。</p>
履修上の注意	<p>基礎法学のうち、法社会学に関する講義です。法的な知識があることを講義の前提とはしませんが、法律問題に関心のある学生の受講を歓迎します。</p>
教科書	<p>毎回レジュメを配布しますので、教科書は特にありません。</p>
参考書	<p>テーマごとに適宜紹介しますが、さしあたり原田純孝編著『地域農業の再生と農地制度』（2011年 農文協）を読んでおく講義内容の理解がしやすくなります。</p>
成績評価方法	<p>期末試験（60%）、小課題（20%）、講義への参加姿勢（20%）で総合評価します。配点の若干の変更はあり得ます。</p>

科目名	基礎法学	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0432	担当教員	寺田 博	所属	元高知短期大学教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本国憲法第97条に規定されている「基本的人権の本質」、すなわち「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって、過去幾多の試練に堪え、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである」、および12条の「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」の両規定の意義を基礎法学的に、すなわち法制史、法社会学、法哲学の視点から検討し、日本国憲法の歴史的、現代的意義を労働と生活の権利に焦点をあてて理解する。																																								
授業の進め方	授業はレジュメと資料にもとづいて行う。レジュメ、資料はその都度授業で配布する。																																								
達成目標	(1) 法学を学ぶ上で実定法だけではなく、法制史、法哲学、法社会学などの法学の基礎となる分野のあることを理解する。 (2) 憲法の原理の中の大きな柱である「基本的人権」について、労働と生活の権利を中心に法解釈ではなく人権の歴史の「形成」、「展開」、「発展」であることを理解する。 (3) 歴史的に形成されてきた基本的人権が現代社会においてどのような問題を抱えているか法社会的に検討し、基本的人権の現代的意義について理解する。 (4) 法学を学ぶことが私たち国民一人一人の「豊かな生活」を実現することと密接に関連していることを理解する。																																								
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>基礎法学 のオリエンテーション 基本的人権とその歴史、哲学、法社会的検討</td> <td>第11回</td> <td>基本的人権の現在 憲法と労働</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>基本的人権の形成</td> <td>第12回</td> <td>基本的人権の現在 憲法と労働</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>基本的人権の形成</td> <td>第13回</td> <td>基本的人権の現在 憲法と社会保障</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>「戦後改革」と基本的人権 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と 天皇制</td> <td>第14回</td> <td>基本的人権の現在 憲法と社会保障</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>「戦後改革」と基本的人権 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と 臣民</td> <td>第15回</td> <td>まとめ 憲法「改正」論と憲法の現代的意義</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>「戦後改革」と基本的人権 「戦争」と日本国憲法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>「戦後改革」と基本的人権 日本国憲法のめざしたもの</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>「戦後改革」と基本的人権 日本国憲法のめざしたもの</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>「戦後改革」と基本的人権 日本社会の変化と基本的人権</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>「戦後改革」と基本的人権 日本社会の変化と基本的人権</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	第1回	基礎法学 のオリエンテーション 基本的人権とその歴史、哲学、法社会的検討	第11回	基本的人権の現在 憲法と労働	第2回	基本的人権の形成	第12回	基本的人権の現在 憲法と労働	第3回	基本的人権の形成	第13回	基本的人権の現在 憲法と社会保障	第4回	「戦後改革」と基本的人権 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と 天皇制	第14回	基本的人権の現在 憲法と社会保障	第5回	「戦後改革」と基本的人権 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と 臣民	第15回	まとめ 憲法「改正」論と憲法の現代的意義	第6回	「戦後改革」と基本的人権 「戦争」と日本国憲法			第7回	「戦後改革」と基本的人権 日本国憲法のめざしたもの			第8回	「戦後改革」と基本的人権 日本国憲法のめざしたもの			第9回	「戦後改革」と基本的人権 日本社会の変化と基本的人権			第10回	「戦後改革」と基本的人権 日本社会の変化と基本的人権		
第1回	基礎法学 のオリエンテーション 基本的人権とその歴史、哲学、法社会的検討	第11回	基本的人権の現在 憲法と労働																																						
第2回	基本的人権の形成	第12回	基本的人権の現在 憲法と労働																																						
第3回	基本的人権の形成	第13回	基本的人権の現在 憲法と社会保障																																						
第4回	「戦後改革」と基本的人権 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と 天皇制	第14回	基本的人権の現在 憲法と社会保障																																						
第5回	「戦後改革」と基本的人権 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と 臣民	第15回	まとめ 憲法「改正」論と憲法の現代的意義																																						
第6回	「戦後改革」と基本的人権 「戦争」と日本国憲法																																								
第7回	「戦後改革」と基本的人権 日本国憲法のめざしたもの																																								
第8回	「戦後改革」と基本的人権 日本国憲法のめざしたもの																																								
第9回	「戦後改革」と基本的人権 日本社会の変化と基本的人権																																								
第10回	「戦後改革」と基本的人権 日本社会の変化と基本的人権																																								
履修上の注意	基礎法学 とは別個の講義であり、関連性はない。したがって、シラバスを参照して履修をきめればよい。																																								
教科書	教科書は使わない。																																								
参考書	参考書は授業のテーマとの関係でその都度紹介する予定																																								
成績評価方法	成績評価は試験結果で判定する。試験は記述式とする。 試験70% 講義への参加姿勢30%																																								

科目名	国際法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0433	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際法の基本的事項である条約及び慣習法を中心に学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で行います。適宜レジメを配布し、それにそって講義を進めます。
達成目標	(1)国際法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)国家実行及び判例を理解できるようになる。 (3)時事問題を国際法に基づいて分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 国際法とは何か 役割 第2回 国際法とは何か 歴史 第3回 国際法の主体 国家 第4回 国際法の主体 国際機関、個人 第5回 国際法の法源 条約 第6回 国際法の法源 慣習法 その他 第7回 国際法と国内法の関係 (第1回小テスト) 第8回 条約法 締結 第9回 条約法 効力、留保 第10回 国家 国家の成立要件 第11回 国家 国家承認 第12回 領域 海洋 第13回 領域 領土 第14回 領域 宇宙、深海底 第15回 主権免除 (第2回小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むように。
教科書	教科書については指定しない。なお、「参考文献」に若干の書籍を薦める順に挙げておくので、それらの中から適当なものを選び、参考にしてほしい。条約集については必ず購入すること。以下の条約集が最も利用しやすい。松井芳郎他編『ベーシック条約集(2011年版)』(東信堂、2011年)、講義開始前後に最新の条約集(2012年版)が販売されるであろうが、購入される場合こちらを購入していただきたい。
参考書	杉原高嶺著『国際法学講義』(有斐閣、2008年)、小寺彰他編『講義国際法(第2版)』(東京大学出版会、2010年)、山本草二著『新版 国際法』(有斐閣、1994年)、柳原正治他著『プラクティス国際法』(信山社、2010年)、中谷和弘他著『国際法』(有斐閣アルマ、2006年)、松井芳郎他著『国際法(第5版)』(有斐閣Sシリーズ、2007年)
成績評価方法	講義を補強する教材として以下のものがよい。国際法学会編『国際関係法辞典』(三省堂、2005年)、山本草二他編『国際法判例百選』(有斐閣、2001年)、松井芳郎他編『判例国際法』(東信堂、2006年)

科目名	国際法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0434	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際刑事法、環境法、経済法といった国際法の個別分野について学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で行います。毎回レジメを配布し、それに沿って講義を進めます。
達成目標	(1)国際法の個別領域を理解できるようになる。 (2)国家実行及び判例を分析できるようになる。 (3)時事問題を国際法に基づき自分で分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 国家責任 国際違法行為 第2回 国家責任 違法性阻却事由 第3回 外交関係 外交使節 第4回 外交関係 領事 第5回 個人の国際法における地位 第6回 国際人権 第7回 国際刑事法(第1回 小テスト) 第8回 国際機構 第9回 国際環境法 第10回 国際経済法 第11回 国際紛争の平和的处理 歴史的展開 第12回 国際紛争の平和的处理 解決手段 第13回 国際紛争の平和的处理 国際仲裁、司法 第14回 国際安全保障 第15回 武力紛争法(第2回 小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むように。
教科書	教科書については指定しない。なお、「参考文献」に若干の書籍を薦める順に挙げておくので、それらの中から適当なものを選び、参考にしてほしい。条約集については必ず購入すること。以下の条約集が最も利用しやすい。松井芳郎他編『ベーシック条約集(2011年版)』(東信堂、2011年)。なお、講義開始前後に最新の条約集(2012年版)が販売されるであろうが、購入される場合そちらを購入していただきたい。
参考書	杉原高嶺著『国際法学講義』(有斐閣、2008年)、小寺彰他編『講義国際法(第2版)』(東京大学出版会、2010年)、山本草二著『新版 国際法』(有斐閣、1994年)、柳原正治他著『ブラクティス国際法』(信山社、2010年)、中谷和弘他著『国際法』(有斐閣アルマ、2006年)、松井芳郎他著『国際法(第5版)』(有斐閣Sシリーズ、2007年)
成績評価方法	講義を補強する教材としては以下のものがよい。国際法学会編『国際関係法辞典』(三省堂、2005年)、山本草二他編『国際法判例百選』(有斐閣、2001年)、松井芳郎他編『判例国際法』(東信堂、2006年)

科目名	社会保障法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0440	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>社会保障は、現在、国民の大きな関心事となっており、これからも重要な法改正がなされていくであろうことは疑いようがない。本授業では、まず、社会保障の定義やその歴史を概観した上で、社会保険に焦点を当てて進めることとする（ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険は社会保障法 で扱うため、この授業では扱わない）。</p>
授業の進め方	<p>パワーポイントを用いながら授業を進めていく。</p>
達成目標	<p>(1) 社会保障法の理念を学ぶ。 (2) 社会保障を構成する各制度について理解を深める。 (3) 受給者や要保障事由について理解する。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第 1 回 はじめに、社会保障とは何か 第 2 回 社会保障の歴史 第 3 回 医療保障 (1) 保険関係 第 4 回 医療保障 (2) 給付の種類 第 5 回 医療保障 (3) 医療提供者 第 6 回 医療保障 (4) 診療契約と保険診療 第 7 回 年金保険 (1) 保険関係 第 8 回 年金保険 (2) 老齢給付 第 9 回 年金保険 (3) 障害給付 第 10 回 年金保険 (4) 遺族給付 第 11 回 労災補償 (1) 保険関係 第 12 回 労災補償 (2) 給付の種類 第 13 回 労災補償 (3) 労災民訴と労災保険の関係 第 14 回 雇用保険 (1) 保険関係 第 15 回 雇用保険 (2) 給付の種類</p>
履修上の注意	<p>社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、労働法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、できるだけ社会保障法 もつづけて履修してもらいたい。</p>
教科書	<p>・本沢巳代子、新田秀樹編著『トピック社会保障法 第6版』（不磨書房、平成24年） ・労働調査会出版局編『社会保障法令便覧 2012』（労働調査会、平成24年）</p>
参考書	<p>開講時に指示する。</p>
成績評価方法	<p>筆記試験及び受講態度で成績評価する。 試験（90％）、受講態度（10％）</p>

科目名	社会保障法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0450	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、社会保障法の中でも社会保険以外の制度（社会福祉、社会手当及び公的扶助）に焦点を当てて授業を進めていくこととする（ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険はこの授業で扱う）。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	<p>(1) 社会保障を構成する各制度について学ぶ。</p> <p>(2) 受給者や要保障事由について理解する。</p> <p>(3) 社会保障を支える当事者（利用者、サービス提供事業者、地方公共団体など）の関係を理解する。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第 1 回 はじめに、介護保険（1）保険関係</p> <p>第 2 回 介護保険（2）給付の種類（1）</p> <p>第 3 回 介護保険（3）給付の種類（2）、高齢者福祉</p> <p>第 4 回 障害者福祉（1）障害者の定義と自立支援給付（1）</p> <p>第 5 回 障害者福祉（2）自立支援給付（2）</p> <p>第 6 回 障害者福祉（3）障害者福祉各法の概要（1）</p> <p>第 7 回 障害者福祉（4）障害者福祉各法の概要（2）</p> <p>第 8 回 児童福祉（1）保育所</p> <p>第 9 回 児童福祉（2）児童虐待</p> <p>第 10 回 単親家庭福祉、社会手当</p> <p>第 11 回 生活保護（1）給付の種類</p> <p>第 12 回 生活保護（2）申請手続と不服申立</p> <p>第 13 回 社会福祉の基盤を支える法（1）社会福祉法と他の社会福祉サービス法との関係</p> <p>第 14 回 社会福祉の基盤を支える法（2）社会福祉法人</p> <p>第 15 回 社会福祉の実施体制</p>
履修上の注意	社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、労働法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては社会保障法 を事前に履修してほしい。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・本沢巳代子、新田秀樹編著『トピック社会保障法 第6版』（不磨書房、平成24年） ・労働調査会出版局編『社会保障法令便覧 2012』（労働調査会、平成24年）
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験（90%）、受講態度（10%）

科目名	法学特殊講義（不動産法概論）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0460	担当教員	竹村 克彦	所属	竹村克彦事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	不動産に関わる法律全般を受講者の学習進度に合わせて進め、土地家屋調査士、宅地建物取引業主任者等の資格試験に結びつく講義内容とする。
授業の進め方	不動産を取り巻く法律を実務レベルの視点から、希望する資格試験に対応する項目に可能な限り結び付けた講義を目指し、講師である私も受講生と共に学ぶ姿勢で進めたい。
達成目標	(1) 不動産を取巻く法規について、実務の中でどのように作用しているかなどの概要を理解する。 (2) 特に不動産登記記録を調査する基礎的な知識を修得する。 (3) 土地利用に関して、用途の転用、権利の移転、また、単に建物を建築するなどの場合、不動産の法的、並びに、物理的な状況を把握する基礎知識を修得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	関係法令の重要条文の解説、並びに実務における条文の解釈に重点を置く。 第1回～第6回 不動産登記法（表示に関する登記） 立法趣旨（制度の役目・表示に関する登記の基本・手続き概要） 筆界に関する項目（概念・変遷・実務上の取扱・関係する制度） 測量に関する項目（測量技術の変遷・測量精度の考え方） 第7回～第8回 都市計画法（開発許可に関する内容・用途地域に関する内容） 第9回 農地法（農地の転用・農地の権利移転） 第10回 土地区画整理法（法的効果・登記法との関係） 第11回～第12回 建築基準法（基礎知識・実務における取扱） 第13回～第14回 事例研究 第15回 授業のまとめ
履修上の注意	民法第2編（物権）に関する知識がベースとなるので、予習をされていることが望ましい。広範囲にわたる内容となるので復習を励行し、意欲的に受講していただきたい。
教科書	特になし。必要に応じてレジュメを配布する。
参考書	不動産登記法：農地法：建築基準法：宅地建物取引業法：都市計画法等が掲載されている六法
成績評価方法	講義内容に関するレポート、並びに、授業態度による。 【レポート内容の評価】 レポートにより講義内容の理解度を評価する。 講義終了後1週間以内に、講義内容に関するものを提出。（1200字以上） 【授業態度】講義内での質問の内容、参加姿勢により評価する。 【評価比率】レポート内容：60% 授業態度：40%

科目名	法学特殊講義	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0470	担当教員	紫藤 秀久	所属	梶原・紫藤法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	まず裁判を中心とした紛争解決手段やその登場人物について大づかみします。 その上で、実際に日々起きている典型的な紛争・事件を題材として、その内容、法律や裁判例に基づく判断、解決方法などを学びます。
授業の進め方	講義形式を基本とします。
達成目標	1. 身近に起こりうる典型的な紛争や事件を、実務ではどのように処理しているか理解する。 2. 民法、刑法、訴訟法等の条文と具体的な紛争や事件とを結びつけられるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 裁判所について 第3回 法律家について 第4回 民事紛争の解決手段について(総論) 第5回 刑事事件の解決手段について(総論) 第6回 民事紛争類型 ~ 金銭関係(多重債務、金銭貸借等) 第7回 民事紛争類型 ~ 不法行為関係(交通事故、医療過誤等) 第8回 民事紛争類型 ~ 近隣関係(境界、通路使用問題等) 第9回 民事紛争類型 ~ 家事紛争(離婚、親権、養子縁組等) 第10回 民事紛争類型 ~ 家事紛争(遺言、相続、成年後見関連) 第11回 民事紛争類型 ~ その他(行政事件、民事介入暴力事件等) 第12回 刑事事件類型 ~ 窃盗、詐欺、傷害等 第13回 刑事事件類型 ~ 薬物、交通犯罪等 第14回 刑事事件類型 ~ 殺人等重大事件 第15回 まとめ</p> <p>講義は上記順番で行う予定ですが、第6回以降の民事紛争類型、刑事事件類型の内容については、適宜変更、入れ替えを行う場合があります。</p>
履修上の注意	「六法」は必ず1冊準備してください(小型のものでもOKです)。 憲法、民法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法と関連して学ぶとより理解が深まります。
教科書	『テキストブック 現代司法(第5版)』木佐茂男ほか著、日本評論社
参考書	講義の中で紹介します。
成績評価方法	後期試験で評価します。 問題は論述式と小問形式を併用し、配点はほぼ同じ比重とします。

科目名	経済原論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0492	担当教員	関根 猪一郎	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	経済学の理論を体系的に講義します。経済系諸科目の基礎理論を学ぶ科目です。授業では、経済理論と関連づけて現実の経済問題についても解説します。
授業の進め方	講義の本論は、講義レジュメに基づいて進めます。毎回の講義には、3回程度の質問の機会を設けます。また、「経済記事よ読む」という教材を配布し、経済理論と関連づけて現実の経済問題についても解説します。
達成目標	(1) 経済学の基礎理論を系統的・体系的に理解できるようになる。 (2) 市場経済の基本的な仕組みについて理解できるようになる。 (3) 現実の経済問題を理解し、新聞の経済記事が読めるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1講 ガイダンス～「経済原論」とはどのような科目か、講義の進め方～ 第2講 市場経済の仕組みと商品 第3講 商品の価値と価格 第4講 貨幣の機能1～価値尺度と流通手段～ 第5講 貨幣の機能2～蓄蔵貨幣、支払手段、世界貨幣～ 第6講 貨幣から資本へ～資本とは何か～ 第7講 剰余価値と剰余価値率 第8講 剰余価値の生産 第9講 賃金と所得 第10講 資本の蓄積 第11講 資本の再生産 第12講 利潤と利潤率 第13講 商業資本 第14講 利子生み資本と金融 第15講 地代、講義のまとめ
履修上の注意	入門に関する科目の「経済学」および専門科目「経済原論」を合わせて受講すると理解が深まります。教科書は時折参照しますが、必携ではありません。しかし、理解を深めるためには、教科書を合わせて読むことをお勧めします。
教科書	平野喜一郎編『はじめて学ぶ経済学』大槻書店
参考書	若森・小池・森岡著『入門・政治経済学』ミネルヴァ書房
成績評価方法	成績評価の基本をレポート評価(80%)とし、これに平常点・講義への参加姿勢等(20%)を加味して総合的に評価する。

科目名	経済学史	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0492.4	担当教員	頭川 博	所属	高知大学人文学部	
連絡先	電話					088-844-8235
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	資本主義的生産とは、すなわち剰余価値の生産です。したがって、経済学は、剰余価値が生まれる仕組みをめぐって発展してきました。そこで、この授業では、初心者にも目線をあわせ、剰余価値の秘密の解決に的をしぼって、経済学の歴史をごくおおづかみに説明します。経済学の予備知識は全く必要ありません。経済学を始めから学びたい人、自分の知識に不足を感じる人、もう一度復習してこれまでの理解を再確認したい人など、すべて歓迎します。
授業の進め方	配布する参考資料で大事なところを確認し、適宜、テキストを参照しながら、話を進めます。
達成目標	剰余価値の生まれる秘密が解決されるに至った経済学の大まかな道筋を理解すること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のテーマと計画の説明 2 資本主義の歴史 3 重商主義の経済思想(1) 4 重商主義の経済思想(2) 5 重農主義の経済学(1) 6 重農主義の経済学(2) 7 古典派経済学(1) - アダム・スミス 8 古典派経済学(2) - アダム・スミス 9 古典派経済学(3) - リカード 10 古典派経済学(4) - リカード・マルサス・シスモンディ 11 マルクスの経済学(1) - 『資本論』の成立 12 マルクスの経済学(2) - 『資本論』の成立 13 マルクスの経済学(3) - 『資本論』の成立 14 マルクスの経済学(4) - 『資本論』の成立 15 授業のまとめと試験発表 <p>試験期間に筆記試験を行います</p>
履修上の注意	わからないところがあれば、授業中であっても遠慮なく質問してください。
教科書	拙著『資本と貧困』八朔社、2010年、生協に入荷予定
参考書	
成績評価方法	授業での説明がどれだけ理解されているかを、学期末の筆記試験によって評価します。

科目名	経済史	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0493	担当教員	柳川 平太郎	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	近世以降のヨーロッパとアメリカ合衆国を対象に、経済史の基礎概念と方法論を系統的に学びます。特に、近代世界システム論の新しい見方を紹介しながら、イギリス、オランダ、フランス、アメリカ合衆国等の近代化・工業化の過程を比較史的に考察し、あわせて南北問題の歴史的起源となる発展途上国の従属化過程を対比的に取り上げる予定です。
授業の進め方	主として、奥西考至他編著『西洋経済史』（有斐閣アルマ、2010年、部分的に扱うため購入の必要はありません）の代表的項目をとりあげ、統計資料を配付しながら講義形式で授業を進めます。ここにちのグローバル資本主義に至る経済の歩みを、できる限りビデオ等のビジュアル資料を活用しながらイメージ的にもとらえられるよう心がけたいと思います。
達成目標	(1)経済史学にとって重要な諸概念(例えば重商主義・古典派経済学等)を理解できるようにする。 (2)欧米と日本を比較しながら比較経済史の分析手法を学ぶ。 (3)近世・近代の比較経済史に関わる代表的理論や経済学史上重要な学説の背景を知り、その特色を把握する
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下の事項を中心にして、各回配布の資料プリントを用いながら、検討を試みる。 第1回 はじめに（授業ガイダンスと問題提起：リーマンショックからユーロ危機へ） 第2回 序論（現状分析と理論的把握の必要性：二つの発展段階論の限界と破綻） 第3回 理論的前提（発想の転換：堺憲一『あなたが歴史に出会うとき』を手がかりに） 第4回 「商業革命」（大航海時代の開始による貿易構造の大転換） 第5回 「近代世界システム」の成立とオランダのヘゲモニー（「覇権」）確立 第6回 二つの「重商主義」（イギリスを例に） 第7回 ブルジョワ革命の課題（フランスの場合） 第8回 イギリス産業革命の歴史的前提 第9回 イギリス産業革命とアメリカ合衆国 第10回 鉄道の成立と後発資本主義諸国の産業革命 第11回 「世界の工場」イギリスと「19世紀アジアの三角貿易」 第12回 特論：日本の「近代化」と鉄道業、土佐電気鉄道創業の意義 第13回 中南米・アフリカの「従属化」過程 第14回 大恐慌とニューディール 第15回 展望
履修上の注意	高等学校公民の政経もしくは現代社会、あるいは地歴世界史A程度の基礎知識を前提としますが、講義時に適宜紹介する入門的参考文献等を付属図書館等で参照していただければ未履修でも充分に対応可能です。
教科書	購入の必要はありませんが、奥西考至他編著『西洋経済史』（有斐閣アルマ、2010年）の一部を参考にしながら講義し、毎回統計地図資料などのプリントを配布の予定。
参考書	川北稔『イギリス近代史講義』（講談社現代新書、2010年）、遅塚忠躬他編『フランス革命とヨーロッパ』第5章柳川平太郎「プロイセン改革期の営業の自由政策の特質」（同文館、1996年）など
成績評価方法	各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価します。

科目名	ミクロ経済学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0494	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	ミクロ経済学の思考方法をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。
達成目標	(1) 供給曲線の意味を理解できるようになる。 (2) 独占について、考えることができるようになる。 (3) 需要曲線の意味を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回供給曲線導出の準備：費用(1)生産の費用 第2回供給曲線導出の準備：費用(2)限界費用と平均費用 第3回供給曲線導出の準備：費用(3)短期と長期 第4回供給曲線(1)競争市場と独占市場 第5回供給曲線(2)利潤最大化と競争企業の供給曲線 第6回供給曲線(3)競争市場における供給曲線 第7回独占(1)独占市場になる理由は何か 第8回独占(2)独占企業の利潤最大化行動 第9回独占(3)独占市場に対する評価と政策 第10回独占(4)自然独占と電力などの公営企業 第11回独占(5)公営企業の価格付け 第12回独占(6)二部料金制 第13回需要曲線(1)予算と好み 第14回需要曲線(2)満足度を最大にする 第15回需要曲線(3)価格変化と実質的な予算の関係
履修上の注意	積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学」を履修済みか履修中、もしくはその知識を修得済みか修得しようとしていることが望ましい。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年) 『ミクロ経済学 市場の失敗と政府の失敗への対策』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年)など
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。

科目名	マクロ経済学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0495	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	マクロ経済学の思考方法をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。
達成目標	(1) 経済データの見方が分かるようになる。 (2) 財政政策の効果を考えることができるようになる。 (3) 金融政策の効果を考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回国民所得統計 マクロ経済の鳥瞰図 第2回GDPの決定 第3回資産市場(1) 第4回資産市場(2) 第5回IS/LMモデル(1) 第6回IS/LMモデル(2) 第7回オープン・エコノミーのマクロ経済学(1) 第8回オープン・エコノミーのマクロ経済学(2) 第9回失業とインフレーション/デフレーション(1) 第10回失業とインフレーション/デフレーション(2) 第11回新古典派マクロ経済学(1) 第12回新古典派マクロ経済学(2) 第13回消費・貯蓄と投資 第14回景気循環 第15回経済成長
履修上の注意	積極的に演習問題に取り組むこと。 「経済学」を履修済み、もしくはそれに相当する知識を修得していること。
教科書	『マクロ経済学』吉川洋著、岩波書店(2009年)
参考書	『マクロ経済学・入門』福田慎一・照山博司著、有斐閣(2011年) 『マンキュー経済学 マクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年) 『マンキューマクロ経済学 入門編』マンキュー著、東洋経済新報社(2011年)など
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。

科目名	現代資本主義論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0496	担当教員	瀬戸岡 紘	所属	駒澤大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代資本主義の全体像について、その歴史、特質、問題点などを、包括的かつ平易に解説します。受講生にとって、今後の学習や研究のために、また日ごろの仕事や生活にとって有益となるような話題をえりすぐって紹介します。
授業の進め方	(1) 一回一回の講義でひとつのテーマについてお話し、完結させます。 (2) 対話方式でおこないます。 (3) 授業中の質問、意見の開陳は大いに歓迎します。 (4) そのたてまえから、機器の使用やレシユメの配布などは最小限にとどめます。 (5) 受講生の関心や理解の度合いによって、授業の内容は臨機に変更します。
達成目標	(1) 現代資本主義の全体像を把握する (2) グローバリゼーション、金融政策など個々の事象の背景を読みとく力をつける (3) 現代の資本主義社会のなかで生きていく一人ひとりの市民の課題を把握する
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 現代の資本主義をその起源にさかのぼって考える 第2回 知られざる重要問題 経済学における価値論をめぐって 第3回 世界恐慌への対策とは何だったか? 今日の時点でふりかえる 第4回 ケインズ主義は現代資本主義にどのような効果をもたらしたか? 第5回 なぜ強い? 幾多の批判にも衰微しない新自由主義を考える 第6回 先進資本主義諸国の経済が金融に傾斜するわけ 第7回 グローバリゼーションとは何か? 第8回 グローバリゼーションとアメリカ 第9回 EUは大丈夫か? ユーロ危機を深読みする 第10回 東アジア・中国の資本主義的発展の背景をさぐる 第11回 情報革命、情報化社会がもたらしたもの 第12回 働きすぎと浪費のエスカレーションの罠にはまって 第13回 脱成長論、ベーシックインカム論など新しい提言を吟味する 第14回 豊かさとは何か? GDP 神話や新しい幸福度指数を検討する 第15回 答えの出せない難問 現代資本主義のもとでの人口問題
履修上の注意	(1) 講義は全体としてひとつのストーリーになっているので、全部とおして聞いてください。 (2) 勉強とは覚えることではなく、感動することです。暗記しようなどと考えないで、毎回の授業から、可能なかぎり多くの感動を味わってください。暗記ものをテストしたりすることはありません。 (3) 対話方式の授業のたてまえから、教科書の内容を直接講義するようなことはいたしません。教科書は予習と復習のために使用してください。
教科書	瀬戸岡 紘 『アメリカ 理念と現実』, 時潮社, 2006年刊
参考書	講義のなかで、たくさん紹介します。
成績評価方法	講義2~3回につき1回の割合で実施する短時間の小テストと、最後におこなう試験の結果を総合して評価します。

科目名	国際経済論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0497	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化とか、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論」では、グローバル化の歴史と現段階を総括的に見た上で、おカネの動き、国際通貨問題に焦点をあて、グローバル化の意味を検討します。またそのために国際収支や為替相場など基礎的事項を学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。適宜、ビデオなども利用します。
達成目標	(1) 国際的な取引の基本的性格、国際収支の基本的考え方について理解を得る (2) 為替市場と為替相場についての基本的な理解を得る (3) 戦後の国際通貨体制の特徴と現在の問題について基礎的な理解を得る (4) 国際通貨問題への関心を深める
授業計画 (講義の具体的な内容)	概ね次のように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。 第1回 オリエンテーション - グローバリゼーションとは 第2回 グローバリゼーションの起源と歴史 - 原動力 第3回 グローバリゼーションの起源と歴史 - その歩み 第4回 グローバリゼーションの現段階 第5回 国際取引と国際収支 - 国際取引とは何か？ 第6回 国際取引と国際収支 - 赤字と黒字どちらが得？ 第7回 国際収支と為替相場 - 為替とは何か？ 第8回 国際収支と為替相場 - 為替相場はどう決まる？ 第9回 国際収支と為替相場 - 円高・円安の影響は？ 第10回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 戦前から戦後への大転換 第11回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 戦後のIMF体制の基本特徴 第12回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 固定相場制から変動相場制へ 第13回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 資本移動の拡大とその影響 第14回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 不安定化するドルと国際通貨協力 第15回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 欧州通貨統合とアジアでの通貨協力 以上の講義を踏まえ、期末試験を行います。
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論」と「国際経済論」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらかだけの受講でもかまいません。
教科書	特に指定しません。
参考書	講義の中で適宜指示します。
成績評価方法	試験(80%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(20%)を加味して総合的に評価します。

科目名	国際経済論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0498	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化とか、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論」では、モノの動き、国際貿易に焦点をあて、自由貿易を理念とする戦後の通商体制(GATT・WTO)とその下での貿易の拡大がどのような役割を果たしてきたかを考えます。</p>
授業の進め方	<p>講義形式で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。適宜、ビデオなども利用します。</p>
達成目標	<p>(1) 戦後自由貿易理念が登場する背景を理解する (2) 戦後自由貿易を促進してきたGATT・WTOの基本的な仕組みとルールを理解する (3) GATT・WTOの役割や課題について考える (4) 自由貿易の利益と問題点について考える</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>概ね次ように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。</p> <p>第1回 オリエンテーション - グローバル化はどこまで来たか？ 第2回 戦後世界とGATTの成立 第3回 GATT・WTOの貿易原則 第4回 GATT・WTOの貿易原則とその例外 第5回 GATTからWTOへ 第6回 WTO交渉の現状 第7回 GATT・WTOの理念と現実 - そのギャップ 第8回 GATT・WTOと南北問題 - 自由貿易の理論：比較生産費説とは？ 第9回 GATT・WTOと南北問題 - 一次産品問題と途上国の自由貿易への反発 第10回 GATT・WTOと南北問題 - 資源をもつ国は強いのか？ 第11回 GATT・WTOと南北問題 - アジア途上国の成長と自由貿易の受容 第12回 GATT・WTOと南北問題 - 自由貿易のメリットとデメリット 第13回 自由貿易と地域統合 - GATT・WTOと地域統合 第14回 自由貿易と地域統合 - 日本とアジアの地域統合の動き 第15回 自由貿易と現代：食糧問題、環境問題、労働問題</p>
履修上の注意	<p>積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論」と「国際経済論」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらからだけを受講してもかまいません。</p>
教科書	<p>特に指定しません。</p>
参考書	<p>講義の中で適宜指示します。</p>
成績評価方法	<p>レポート(60%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。</p>

科目名	財政学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0499	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	財政はすべての国民にとって身近な問題である。しかし、日本の財政は多くの課題を抱え、公共サービスのあり方や消費税の増税などの改革が議論されている。本講義では、経済学の視点から財政の理論を学ぶとともに、社会保障などの諸問題を考えていきたい。
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	(1) 財政の役割と課題を理解する。 (2) 日本財政の現状を認識する。 (3) 日本財政に対する課題認識を深める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 財政の現状 第3回 財政の役割 第4回 財政再建 第5回 予算の仕組み 第6回 財政運営と公債 第7回 フィールドワーク(予定: 税務署見学) 第8回 国と地方の財政関係 分権化 第9回 国と地方の財政関係 地方の歳入・歳出 第10回 公共経営とNPO 第11回 消費税値上げ論 第12回 財政破たんと財政再建団体 第13回 市町村合併 第14回 日本の社会保障制度 第15回 まとめ
履修上の注意	私語や携帯電話の使用など講義を妨げる行為を禁じる。
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。
参考書	『グラフィック財政学』釣雅雄・宮崎智視、新世社 2009 『Basic現代財政学』重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編、有斐閣ブックス(2009)
成績評価方法	期末レポート(70%)、フィールドワーク(10%)、講義への参加姿勢(20%)より総合的に評価する。

科目名	金融論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0500.9	担当教員	関根 猪一郎	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	金融の基礎理論および金融制度を理解することを目標に、基礎から順にわかりやすく講義する。「金融記事を読む」という資料を使って、現実には起している金融問題についても紹介する。
授業の進め方	テキストおよび講義レジュメに即して講義する。資料として、「金融記事を読む」、「金融統計」等を使用する。
達成目標	(1) 金融の基礎理論を理解する。 (2) 中央銀行の機能、金本位制と管理通貨制などの金融制度について理解する。 (3) 金融市場のメカニズムおよび金融商品への理解を深める。 (4) 日本および世界の金融問題の概要をつかむ。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 ガイダンス(講義のテーマと進め方)、実体経済と金融 第2回 貨幣と金融、利子率と利子 第3回 金融とは何か～ファイナンスとしての金融～ 第4回 金融と信用創造 第5回 金融の架空性～リーマン・ショックに関連して～ 第6回 貨幣の役割～エンデの「2種類の貨幣」～ 第7回 銀行と金融制度の形成過程 第8回 金本位制と金兌換 第9回 管理通貨制と不換制～インフレーションとの関連で～ 第10回 現代の金融制度 第11回 証券取引法から金融商品取引法へ 第12回 金融商品 第13回 金融市場 第14回 金融市場と金融商品～ユーロ危機との関連で～ 第15回 まとめ：これからの金融のあり方
履修上の注意	「金融論」に接続する科目です。履修にあたっては「金融論」を先に受講していることが望ましいです。「金融論」は消費生活に関連する金融の知識を身につけることも目標としています。
教科書	関根猪一郎ほか著『金融論』青木書店
参考書	講義のなかで紹介します。
成績評価方法	レポートの評価を基本とします(80%)。それに平常点(20%)を加味して総合評価で成績を出します。

科目名	農業経済論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0502	担当教員	岩佐 和幸	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>スーパーやファーストフードに象徴されるように、私たちの「食」は、日本のみならず世界各地の「農」と結びついています。しかし、こうした「食」と「農」のグローバル化は、安全性問題や産地間競争の激化をもたらすとともに、地産地消のようなローカルな動きを再活性化させています。また、最近は食料高騰やバイオ燃料の登場、ランドラッシュの進行に伴って世界的な食料危機の兆しも表れており、食と農がますます切実な問題になってきています。</p> <p>本講義では、グローバル化時代の「食」と「農」について、アグリビジネス論の視点から紹介し、今後の展望について一緒に考えてみたいと思います。</p>
授業の進め方	<p>基本的にはオーソドックスな講義形式を予定していますが、各回の最後に皆さんからの質疑応答や討論時間を設ける等、双方向型授業をできるだけ取り入れたいと考えています。</p>
達成目標	<p>(1) 農業・食料生産の歴史と現状について、グローバルかつローカルな視点から理解できようになる。 (2) 農業と食料の今後について、当事者の視点から関心を持ち、自らの主張を持てるようになる。 (3) 日常生活や地域において、持続可能な農業・食料に関心を持ち、実践に挑戦できるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 農業・食料問題をみる視角 第3回 食生活の変貌とその影響 第4回 食の外部化とフードビジネス 第5回 国際化と日本農業・農政の展開 第6回 農産物自由化・食料輸入大国化とアグリビジネス 第7回 日本と世界を結ぶモノ：バナナ 第8回 日本と世界を結ぶモノ：ヤシ 第9回 日本と世界を結ぶモノ：コーヒー 第10回 日本と世界を結ぶモノ：水産物 第11回 日本と世界を結ぶモノ：冷凍食品 第12回 世界の農業・食料生産の現場：基礎食料生産と環境問題 第13回 世界の農業・食料生産の現場：輸向け商品生産と環境問題 第14回 グローバル化時代の農業・食料問題：課題と展望 第15回 グローバル化時代の農業・食料問題：課題と展望</p> <p>基本的には、以上の順で行います。 毎回レジュメを配布する他、講義と関連する内容のビデオもお見せする予定です。</p>
履修上の注意	なし
教科書	なし
参考書	<p>・大塚茂・松原豊彦編『現代の食とアグリビジネス』有斐閣、2004年 ・F・マグドフほか編『利潤への渴望：農業経営者・食料・環境に対するアグリビジネスの脅威』大月書店、2004年 ・坂内久・大江徹男編『燃料が食料か：バイオエタノールの真実』日本経済評論社、2008年</p>
成績評価方法	<p>期末レポート試験（10割）に加えて、小レポート等の提出もプラスアルファ（10～20点）として、評価に加味したいと思います。</p>

科目名	経済政策論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0505	担当教員	石筒 寛	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本の経済発展に経済政策がどのような役割を果たしてきたかを考える。
授業の進め方	サブテーマを設け講義を行うとともに、各テーマにおいてグループディスカッションを行います。
達成目標	(1) 経済政策がなぜ行われる必要があるのかを理解できる。 (2) 経済における市場と政府の役割の違いを理解できる。 (3) 経済政策の現代的課題について理解できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第 1 回 イントロダクション 経済政策論の対象とは？</p> <p>第 2 回 経済政策の市場 1 経済政策の必要性 第 3 回 経済政策の市場 2 市場経済 第 4 回 経済政策と市場 3 グループディスカッション 第 5 回 経済政策と市場 4 市場メカニズムの限界</p> <p>第 6 回 日本の経済発展と経済政策 1 幕末と明治初期の経済的背景 第 7 回 日本の経済発展と経済政策 2 戦後復興と高度経済成長 第 8 回 日本の経済発展と経済政策 3 グループディスカッション 第 9 回 日本の経済発展と経済政策 4 低成長・マイナス成長の時代</p> <p>第 10 回 経済政策の理論と展開 1 需要曲線と供給曲線 第 11 回 経済政策の理論と展開 2 市場の失敗と外部性 第 12 回 経済政策の理論と展開 3 グループディスカッション 第 13 回 経済政策の理論と展開 4 経済成長と生産関数 第 14 回 経済政策の理論と展開 5 経済成長理論と現実</p> <p>第 15 回 まとめ</p>
履修上の注意	グループディスカッションでは、3名から5名が1つのグループになり、共通のテーマについて議論します。ディスカッションが行われる日は、ディスカッション振り返りペーパーを実施しますので、欠席しないように注意してください。なお、正確な日程については、講義初日に確認をします。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
成績評価方法	期末試験（60％）、ディスカッション振り返りペーパー（30％）、授業中に実施するレポート（10％）を成績評価の対象とします。全体で60％以上のポイントを獲得した受講生に単位を認定します。

科目名	地域経済論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0505.9	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、魅力ある地域の創造に向けて必要とされる「人づくり、まちづくり、仕組みづくり」をキーワードに、進展する地域産業政策の実例から地域課題や政策、地域支援機関との連携等について検討し、地域自立に向けた政策的ベクトルとインプリケーションを実証的に考えたい。
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	(1) 地域経済の課題を把握する。 (2) 地域経済の活性化策の考え方を理解する。 (3) 受講生が考える「地域」の地域経済活性化をイメージする力を醸成する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 地域産業政策の展開 第3回 地域ブランドとものづくり 第4回 経済のグローバル化と地域経済 第5回 企業立地政策 第6回 産業振興とまちづくり 第7回 産業政策と都市政策 第8回 企業の育成 インキュベーションセンターの機能と役割 第9回 中心市街地の活性化 第10回 中心市街地の活性化 第11回 高知県の地域産業 第12回 地域産業振興の事例紹介 第13回・14回 フィールドワーク(予定:土佐山田・刃物産業の工場見学) 第15回 まとめ
履修上の注意	日頃から身近な地域の出来事やニュースについて関心を持つよう心掛けて欲しい。 私語や携帯電話の使用など講義を妨げる行為を禁じる。
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。
参考書	『地域づくりの経済学入門』岡田知弘著、自治体研究社(2005) 『基本ケースで学ぶ地域経済学』中村剛治郎著、有斐閣ブックス(2008)
成績評価方法	期末レポート(70%)、フィールドワーク(10%)、講義への参加姿勢(20%)より総合的に評価する。

科目名	流通経済論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0510	担当教員	白水 盛博	所属	同志社大学大学院
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>講義の前半では、マーケティングの基礎的なコンセプトやフレームワークなどの基礎的な知識を、事例を通して学習する。講義の後半は現代のビジネスを大きく変化させているインターネット・IT技術を通じたマーケティングやビジネスモデルを中心に、豊富な成功事例とそのリスク管理について講義する。</p> <p>また、最終回には受講生によるプレゼンテーションをおこなってもらう。</p>
授業の進め方	<p>PowerPointを使用し講義を進める。また、講義に必要なレジュメや資料は随時配布する。</p> <p>理論だけでなく事例を豊富に扱う講義とディスカッションを中心に授業を進めていく予定。</p> <p>最期の講義では受講生により、実際のマーケティングの事例をプレゼンテーションと質疑応答を行ってもらう。</p> <p>本講義は5日間の集中講義である。</p>
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの基礎的なフレームワークやコンセプトを理解できるようになる。 2. 21世紀に求められるマーケティングのあり方への問題意識を持てるようになる。 3. 21世紀を切り開く企業や団体のマーケティングに関して理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 ガイダンス(授業の進め方や成績評価基準など)</p> <p>第2回 マーケティングの歴史(マーケティングの誕生と基本的思想)</p> <p>第3回 マーケティングの基礎知識1(顧客・市場・取引の分析)</p> <p>第4回 マーケティングの基礎知識2(市場細分化)</p> <p>第5回 マーケティングの基礎知識3(ポジショニング戦略)</p> <p>第6回 マーケティング・ミックスの理解(4P)</p> <p>第7回 ブランド・マネジメント</p> <p>第8回 サービス・マーケティング</p> <p>第9回 産業財マーケティング</p> <p>第10回 次世代メディア・マーケティング1(IT、インターネット)</p> <p>第11回 次世代メディア・マーケティング2(ソーシャルメディア1)</p> <p>第12回 次世代メディア・マーケティング3(ソーシャルメディア2)</p> <p>第13回 次世代メディア・マーケティング4(炎上問題)</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 事例研究発表</p>
履修上の注意	<p>教科書は設定してないが、あらかじめ参考書2冊を読んでおくことが望ましい(講義に必要な資料やレジュメは随時配布する)</p>
教科書	なし
参考書	<p>『現代マーケティング論』高嶋 克義、桑原 秀史著、有斐閣(2008)</p> <p>『次世代メディアマーケティング』ケント・ワータイム、イアン・フェンウィック、ソフトバンククリエイティブ(2009)</p>
成績評価方法	<p>期末試験(60%)、発言・質問など講義への参加姿勢とプレゼンテーションへの取り組み(40%)などから総合的に評価する。</p>

科目名	労働経済論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0550	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	働くということについて、経済学的に考える力を養う。
授業の進め方	講義を中心に進める。
達成目標	(1) 新聞等で報道される労働問題について、考えることができるようになる。 (2) 所得再分配政策や賃金と就業意欲について、考えることができるようになる。 (3) 賃金の違いの原因を、考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 所得と富の分布 第2回 所得再分配政策 第3回 所得再分配政策と就業意欲 第4回 勤労所得(賃金)の違い 第5回 賃金の違いと労働市場の理論 第6回 労働供給と学歴間格差 第7回 労働供給と外国人との競争 第8回 労働需要における機械との関係 第9回 派生需要としての労働需要 第10回 物価と地域 第11回 地域と失業 第12回 職業の違い 第13回 非正規労働と女性労働 第14回 高齢者と若者の労働と就業意欲 第15回 人事制度と労働意欲
履修上の注意	特になし。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『ミクロ経済学 効率化と格差是正』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年) 『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年) 『労働経済』清家篤著、東洋経済新報社(2002年) 『労働経済』松繁寿和著、放送大学教育振興会(2008年) など
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。

科目名	経営学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0670	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>この講義では、現代企業の組織や行動を経営学の観点から理解することを目的としています。講義の半分は理論的な説明についやします。理論というと難しく聞こえるかもしれませんが、丁寧に考えれば必ず理解できるものです。</p> <p>まず、なぜ大規模な組織が存在するのかということを理論的に説明することからはじめます。そして、経営学の主な対象である株式会社の基本的な仕組みや問題点について考察を進めます。次に、財閥や企業集団といった企業間の連帯の構造や機能について解説をします。そして最後に、企業の戦略について論じます。</p>
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	<p>(1) 企業組織の構造について理解すること。</p> <p>(2) 日本の企業間関係について理解すること。</p> <p>(3) 上記2点について、諸外国との比較ができるようになること。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第一部 経営学とは何か</p> <p>第1回 経営学説史：科学的管理法</p> <p>第2回 経営学説史：人間関係学派</p> <p>第3回 経営学説史：現代の経営学</p> <p>第二部 企業の形態と所有</p> <p>第4回 企業の形態</p> <p>第5回 所有と経営の分離</p> <p>第6回 コーポレートガバナンス</p> <p>第7回 エージェンシー理論</p> <p>第三部 企業間関係と企業の境界</p> <p>第8回 日本の財閥と企業集団</p> <p>第9回 日本の系列</p> <p>第10回 取引コスト論：コースの理論</p> <p>第11回 取引コスト論：ウイリアムソンの理論</p> <p>第12回 企業の境界の変化：自動車産業</p> <p>第13回 企業の境界の変化：鉄鋼業</p> <p>第14回 多角化</p> <p>第15回 組織の編成</p>
履修上の注意	経営学 と の両方を受講することが望ましい。
教科書	特になし。
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	レポートで評価をします。

科目名	経営学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0680	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、現代日本企業の人材マネジメントについて学びます。その特徴を明らかにするために、日本企業における人事労務管理制度の歴史的変遷を検討し、さらに国際比較（とくにアメリカ）を行ないます。また、モチベーション、職務満足、組織へのコミットメントなどの産業組織心理学の基礎的な理論と研究成果を学びます。
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	(1) 日本企業の人事労務管理について理解すること。 (2) 人事労務管理についてアメリカとの比較ができるようになること。 (3) 産業組織心理学の基礎理論を習得すること。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 日本企業の人材マネジメントの動向 第2回 採用管理：誰を採用するのか 第3回 昇進管理：年功序列はぬるま湯か？ 第4回 人事制度：組織における地位の管理 第5回 人事考課：見えない能力を評価する 第6回 賃金の決め方：基礎理論 第7回 賃金の決め方：成果主義とは何か 第8回 賃金の上がり方：基礎理論 第9回 賃金の上がり方：賃金プロファイル 第10回 労働時間の管理 第11回 ワークライフバランス 第12回 日本人の就業意識 第13回 仕事への動機付け 第14回 職務満足 第15回 集団と意思決定
履修上の注意	経営学 と の両方を受講することが望ましい。
教科書	特になし
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	レポートで評価をします。

科目名	企業分析論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0691	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2901
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	企業が公表している財務諸表（決算書）を様々な角度から眺めて、企業の特徴と過去・現在・未来の状況を分析する方法について学びます。
授業の進め方	この授業では、まず、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書といった財務諸表が、企業の活動をどのように表現したものであるのかを解説します。次に、財務諸表の数値を利用して、企業の「安全性」「収益性」「効率性」「成長性」「採算性」などの側面を分析する各経営指標の算出方法と、その意味を解説していきます。また、企業の総合的な判定を簡便に行うための指標として開発された「企業力指数」の考え方を紹介し、その意義と使いみちについて解説します。 毎回、様々な企業をとりあげ、各種の経営指標の解説を行い、その後、経営指標を実際に計算してもらいますので、学びつつ実践することで、理解を深めてください。
達成目標	(1) 財務諸表に表れた数値が経営の場においてどういう意義をもち、どのように活用されているかを理解すること。 (2) 企業の「安全性」「収益性」「効率性」「成長性」などを分析する手法を身に付けること。 (3) 「損益分岐点」の意味を理解し、計算ができるようになること。 (4) 「企業力指数」の意味を理解し、企業の総合力を判定できるようになること。 (5) この授業の内容を理解しようとすることをきっかけとして、企業の経営状況を読み解くことのできる能力を身に付け、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 講義の内容解説 第2回 企業内容開示制度 第3回 貸借対照表のしくみ 第4回 損益計算書のしくみ 第5回 キャッシュ・フロー計算書のしくみ 第6回 安全性分析 第7回 収益性分析 第8回 効率性分析 第9回 成長性分析 第10回 業界分析 第11回 採算性分析 第12回 会計方針と粉飾決算の分析 第13回 企業力指数(1):入門 第14回 企業力指数(2):応用 第15回 まとめ
履修上の注意	財務諸表分析の極意は、各種数値の比率分析(割り算、divided)にあります。したがって、電卓を持参すると大変便利です。
教科書	『財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』松村勝弘・松本敏史・篠田朝也著、BKC(2009年)
参考書	『会社のものさし 実学「読む」経営指標入門』本合暁詩、東洋経済新報社(2011年)『財務諸表分析[第5版]』桜井久勝、中央経済社(2012年)『京都企業の分析』徳賀芳弘監、中央経済社(2011年)近年、「決算書の読み方」といった題名の書籍や新書が数多く出版されています。それらの書物を手に取り、自分の感性に合うものを探してみてください。
成績評価方法	毎回の授業内容の要約課題(20%)、期末試験(80%)。

科目名	企業分析論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0692	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-8516
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>「企業価値」を評価していくための手法を学びます。これらの手法は、「企業分析論」で取り扱った財務諸表分析とは別に、「Valuation」（企業価値評価）と呼ばれる一つの独立した分野となっています。企業価値評価の具体的な手法の多くは、株式市場における企業の理論上の株価を算定するために考え出されたものです。理論株価としての企業価値が算定できると、それを現実の株価と比べて、割安か割高かの判断を行うことが可能になります。また、企業買収や合併のように、企業そのものを売買する場面においても、企業価値を算定することが必要です。</p> <p>企業価値評価の手法は、価値のあるモノを買うかどうかを判断する意思決定の場面で、役立つものとなるでしょう。</p>
授業の進め方	<p>この授業では、まず、株式時価総額やPBR、PERなどの株価指標と呼ばれる数値について解説します。次いで、企業価値評価における最重要用語である「現在価値」と「資本コスト」の考え方について説明します。その後、3つの代表的な企業価値評価モデルについて解説します。</p> <p>なお、企業価値評価にあたっては、証券市場が社会の中でどのような機能をもつ制度であるかということ、投資家がどのような行動をとっているかということを理解しておくことが有益ですので、それらについても併せて考えます。</p>
達成目標	<p>(1) PBRやPERなどの株価指標の意味を理解し、計算ができるようになること。 (2) 「現在価値」と「資本コスト」の意味を理解し、説明ができるようになること。 (3) 代表的な企業価値評価モデルの考え方を理解し、算定ができるようになること。 (4) 残余利益の考え方を理解し、それを経営指標として応用したEVA（経済付加価値）の計算ができるようになること。 (5) 証券市場が世の中で果たす役割と投資家の行動原理が理解できるようになること。 (6) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、企業の経営状況を読み解くことのできる能力をみがき、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 講義の内容解説 第2回 株式時価総額 第3回 株価指標(1)：株価利益倍率(PER)と株価純資産倍率(PBR) 第4回 株価指標(2)：株価乗数モデルによる企業価値評価 第5回 現在価値(1)：現在価値と将来価値 第6回 現代価値(2)：現在価値と割引率 第7回 資本コスト(1)：期待利益率と資本コスト 第8回 資本コスト(2)：株主資本コストの推定 第9回 資本コスト(3)：負債コストの推定と加重平均資本コスト(WACC)の計算 第10回 企業価値評価モデル(1)：割引キャッシュ・フローモデル 第11回 企業価値評価モデル(2)：割引配当モデル 第12回 企業価値評価モデル(3)：割引残余利益モデル 第13回 EVA（経済付加価値） 第14回 行動ファイナンス 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>企業価値評価の極意は、複利計算(べき乗)にあります。したがって、電卓を持参すると大変便利です。教科書は「企業分析論」「企業分析論」ともに共通です。</p>
教科書	<p>『財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』松村勝弘・松本敏史・篠田朝也著、BKC(2009年)</p>
参考書	<p>『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』手嶋宣之著、タニヤモント社(2011年)『セミナール企業価値評価』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社(2007年)『企業分析入門(第2版)』Palepuほか著(高藤静樹監訳)、東京大学出版会(2001年)『日本経済のリスク・プレミアム「見えざるリターン」を長期データから読み解く』山口勝義著、東洋経済新報社(2007年)『新・証券投資論』日本証券アナリスト協会編、日本経済新聞出版社(2009年)『ウォール街のランカム・ウォーカー[第10版]』Malkiel著(井手正介訳)、日本経済新聞出版社(2011年)。</p>
成績評価方法	<p>新聞の株式欄やYahoo!ファイナンス(http://finance.yahoo.co.jp)などを眺めて、企業の株価の動向に関心を向けてみてください。</p>

科目名	会計学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0700	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-8516
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>企業会計における基礎的な考え方と、現実社会における会計の役割について解説します。会計は、企業の経済活動を独自の言葉で描き直し、それを関係者に報告する行為です。ここでは、企業がお金を調達する場面で行われる会計である財務会計を取り上げます。</p>
授業の進め方	<p>この授業では、まず、世の中における会計の役割を学びます。そして、会計に独特の言葉である「資産」「負債」「資本」「収益」「費用」「利益」といったものが、いったい何を表そうとしているのかを学びます。次いで、企業会計に独特の考え方を体系的に整理した「企業会計原則」について解説します。「企業会計原則」は、「発生主義」「取得原価主義」「費用配分」といった特徴をもつ会計処理ルールですが、これらは、企業の経済活動をうまく表現しようとする場合に必要となる「理論的なしかけ」としての役割を果たしています。今日では、会計基準の改廃と新設が相次いでおり、また、政府や自治体などの公的部門にも企業会計の仕組みが導入されようとしています。企業会計を支えている基礎的な考え方を学んでおくことで、それらの変化がどういう意味をもつかも自然と理解されるようになるでしょう。</p>
達成目標	<p>(1) 「発生主義」の考え方を理解すること。 (2) 財務諸表にはどのような種類のものであり、それぞれが企業の何を表しているかを説明できるようになること。 (3) ある出来事が起こったとき、そのことが会計上どのように表現されるのかを想像できるようになること。 (4) 会計学は企業活動を対象としているため、企業会計の基礎を理解しようと努めることで、企業経営全般の基礎知識についても自然と習得することができます。 (5) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、各種検定試験の合格につなげ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 講義の内容解説 第2回 会計の機能 第3回 会計の構造 第4回 発生主義と現金主義 第5回 費用配分と資産評価 第6回 繰延資産と引当金 第7回 企業会計原則(1)一般原則 第8回 企業会計原則(2)損益計算書原則、貸借対照表原則 第9回 複式簿記による記録方法 第10回 決算整理と財務諸表 第11回 利益管理と粉飾決算 第12回 財務諸表の監査 第13回 連結財務諸表 第14回 包括利益とIFRS (国際財務報告基準) 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>企業会計を学ぶにあたり、簿記の知識があると、いっそう理解が深まります。なお、講義の中で、複式簿記の仕組みについても解説します。会計は、企業の経済活動の貨幣的把握、という性格をもっているため、しばしば計算が必要となります。そのため、電卓を持参すると便利です。</p>
教科書	『会計学講義(第4版第3刷)』醍醐聰著、東京大学出版会(2011年)
参考書	『財務会計・入門(第8版補訂)』桜井久勝・須田一幸著、有斐閣アルマ(2012年)『最新会計学のコア(三訂版)』岡部孝好、森山書店(2009年)『現代会計論』笠井昭次著、慶應義塾大学出版会(2005年)近年、会計に関する書籍や新書が数多く出版されています。書店でそれらの書物を手に取り、自分の感性に合うものを探し求めてみてください。
成績評価方法	毎回の授業内容の要約課題(20%)、期末試験(80%)。

科目名	会計学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0710	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-8516
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>現代における様々な会計基準の内容について解説します。企業会計の世界では、1990年代後半から現在にかけて、新しい会計基準が次々と設定されてきています。そのような大きな変動の背景には、「損益計算のための会計」から「実態開示のための会計」へ、という大きな思想の転換があります。たとえば、資産の評価に「時価」が用いられるということも、実態開示を優先する考え方から導き出されたものです。</p> <p>この授業では、1990年代以降に新しく登場してきた個々の会計基準をとりあげて、それぞれが どういう出来事を、 どういう事実としてみなして、 財務諸表にどう表現しようとするのか、の3点について解説します。</p>
授業の進め方	教科書の内容を参照しながら、各会計基準の考え方の解説を行います。重要な制度変化については随時とりあげます。授業時には補足資料を配ります。配布した資料はweb上で公開します。
達成目標	<p>(1) 個々の会計基準について、その目的と意味を理解できるようになること。</p> <p>(2) 「経済的実態」という言葉の意味を説明できるようになること。</p> <p>(3) 次々と設定されている新しい会計基準は、その利用者として地球規模で活動する巨大な多国籍企業が想定されています。様々な会計基準の考え方を理解しようと努めることで、グローバル企業の経営全般の知識についても自然と習得することができるでしょう。</p> <p>(4) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、各種検定試験の合格につなげ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 講義の内容解説</p> <p>第2回 財務会計の概念フレームワーク</p> <p>第3回 事業資産・金融資産分類</p> <p>第4回 固定資産の減損の会計基準</p> <p>第5回 リース取引の会計基準</p> <p>第6回 研究開発費の会計基準</p> <p>第7回 金融商品の会計基準</p> <p>第8回 金融派生商品の会計基準</p> <p>第9回 退職給付債務の会計基準</p> <p>第10回 資産除去債務の会計基準</p> <p>第11回 自己株式の会計基準</p> <p>第12回 新株予約権の会計基準</p> <p>第13回 税効果の会計基準</p> <p>第14回 企業結合の会計基準</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>「会計学」はこの授業の前提となる基礎概念を身に付けるものであるため、履修しておくことが望まれます。教科書は共通のものを使用します。</p> <p>各会計基準は文書として公表されているので、それらが掲載された法規集を手元に置いておくと、学習の際に有益です。なお「会計学」と同様に、電卓があると便利です。</p>
教科書	『会計学講義(第4版第3刷)』醍醐聰著、東京大学出版会(2011年)
参考書	<p>『会計法規集』中央経済社編(順次改定されているので、その時点で手に入る最新版が望ましい)</p> <p>『会計基準の研究[増補版]』斎藤静樹著、中央経済社(2010年)</p> <p>『エッセンシャルIFRS』秋葉賢一著、中央経済社(2011年)</p>
成績評価方法	毎回の授業内容の要約課題(20%)、期末試験(80%)。

科目名	簿記学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0721	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	複式簿記の学習を通して、貸借対照表・損益計算書等、財務諸表の基礎的な理解力をつける。
授業の進め方	講義と演習の繰り返しで進める。
達成目標	(1) 計数的合理的処理能力を養う。 (2) 複式簿記の基礎的な処理方法を理解する。 (3) 複式簿記の基礎的なシステムを理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 貸借対照表 第 3 回 損益計算書 第 4 回 勘定科目・・・資産 負債 資本 第 5 回 勘定科目・・・収益 費用 第 6 回 取引の処理・・・仕訳 総勘定元帳 転記 第 7 回 演習・・・仕訳 転記 第 8 回 演習・・・仕訳 転記 第 9 回 補助簿について 第 10 回 演習 第 11 回 決算手続き 6 桁精算表 第 12 回 演習 第 13 回 貸借対照表 損益計算書 第 14 回 演習 第 15 回 演習 まとめ
履修上の注意	積み重ねの学習なので、休むと理解できなくなる。
教科書	そのつどプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	試験(90%)、演習(10%)として評価する。

科目名	簿記学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0722	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	実務に対する応用力を身につけ、財務諸表等の理解を深める。 日本商工会議所簿記検定3級程度の力をつける。
授業の進め方	講義と演習の繰り返しで進める。
達成目標	(1) 記帳能力を高め、複式簿記が理解できるようになる。 (2) 財務諸表等を理解することができる。 (3) 企業の財務内容を理解することができる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 簿記手続きの一巡 第 2 回 勘定科目・・・資産 負債 資本 第 3 回 収益 費用 第 4 回 補充簿への記帳 第 5 回 主要簿と補助簿 第 6 回 補助簿への記帳 第 7 回 演習 第 8 回 演習 第 9 回 試算表 第 10 回 決算整理 貸倒償却 減価償却 決算仕訳 第 11 回 演習 第 12 回 8桁精算表 第 13 回 貸借対照表 第 14 回 損益計算書 第 15 回 演習 まとめ
履修上の注意	できるだけ休まないこと。 簿記 ・ は、内容的に連続しているので、 を履修していることが望ましい。
教科書	そのつどプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	試験 (90%)、演習内容 (10%) として評価する。

科目名	現代産業論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0723	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>この授業では、次の2つの視点から日本の産業について学びます。</p> <p>製品開発：企業や産業の発展にとって重要な要素の一つは、市場に受け入れられる製品やサービスを生み出すことです。この授業では、産業ごとの製品開発パターンの違いを比較検討します。</p> <p>経営戦略。経営戦略は産業構造に規定されます。どのような産業や企業で収益が上がるのかという問題を産業構造に着目して明らかにします。</p>
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	<p>(1) 企業の製品開発活動についての理解を深めること。</p> <p>(2) 効果的な製品開発パターンの産業間比較ができるようになること。</p> <p>(3) 経営戦略についての理論的枠組みを理解すること。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第一部 製品開発論</p> <p>第1回 製品開発の基礎理論</p> <p>第2回 自動車産業(1)</p> <p>第3回 自動車産業(2)</p> <p>第4回 鉄鋼業(1)</p> <p>第5回 鉄鋼業(2)</p> <p>第6回 アパレル産業(1)</p> <p>第7回 アパレル産業(2)</p> <p>第8回 電器産業</p> <p>第9回 食品産業：ビールの開発</p> <p>第10回 医薬産業</p> <p>第二部 経営戦略論</p> <p>第11回 経営戦略の基礎理論</p> <p>第12回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(1)</p> <p>第13回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(2)</p> <p>第14回 資源アプローチの経営戦略論(1)</p> <p>第15回 資源アプローチの経営戦略論(2)</p>
履修上の注意	現代産業論 と の両方を受講することが望ましい。
教科書	特になし
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	レポートで評価をします。

科目名	現代産業論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0724	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では、日本企業の能率管理について学びます。日本企業の競争力の源泉はものづくりやサービスの現場にあると考えられてきました。さまざまな産業における現場レベルの能率管理にはどのような工夫が凝らされているのかを比較検討していきます。 また、この授業では「高知における起業」というテーマで外部講師に連続講演をしていただきます。起業のために必要な基礎知識とノウハウについて解説していただきます。
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	(1) 職場レベルの能率管理についての理解を深めること。 (2) 起業のための基礎知識を身につけること。
授業計画 (講義の具体的内容)	第一部 高知における起業 第1回 人生プラントビジネス・プラン：夢を語ろう（税理士 梅田昭彦先生） 第2回 法人の設立登記：会社をつくってみよう（司法書士 勢田博之先生） 第3回 社会保険・労働保険・雇用保険：従業員を雇ったら（社会保険労務士 近藤武志先生） 第4回 決算・税務申告と事業承継：経営者の通信簿（税理士 梅田昭彦先生） 第二部 能率管理 第5回 能率管理の基礎理論 第6回 自動車産業（1） 第7回 自動車産業（2） 第8回 鉄鋼業（1） 第9回 鉄鋼業（2） 第10回 総合スーパー（1） 第11回 総合スーパー（2） 第12回 デパートの能率管理（1） 第13回 デパートの能率管理（2） 第14回 能率管理と非正規雇用の活用（1） 第15回 能率管理と非正規雇用の活用（2）
履修上の注意	現代産業論 と の両方を受講することが望ましい。 第一部のスケジュールは外部講師の都合で変更になる可能性があります。
教科書	特になし
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	レポートで評価をします。

科目名	統計学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0760	担当教員	谷本 真二	所属	高知県立大学 生活科学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	統計学の基礎を学び、その考え方を修得する。
授業の進め方	配布するプリントをもとに講義形式で進める。
達成目標	(1) 確率と統計学の関係を理解する。 (2) 平均, 分散の計算とその意味を理解する。 (3) 統計データから推定と検定を行う。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 統計学とは何か 第2回 統計データ 第3回 平均と分散 第4回 データの分類 第5回 標本平均と標本分散の計算法 第6回 確率 第7回 組合せの数と二項分布 第8回 二項分布の平均と分散 第9回 正規分布と確率の計算 第10回 二項分布の正規近似 第11回 推定値 第12回 標本平均の分布 第13回 t分布 第14回 平均と割合の推定 第15回 平均と割合の検定
履修上の注意	課題の提出をおろそかにしないこと。
教科書	プリントを配布する。
参考書	
成績評価方法	学期末試験の成績(50%)および課題提出と授業における積極的参加で評価(50%)

科目名	経済学特殊講義（工業簿記）	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0769	担当教員	中野 慶伸	所属	土佐コンピュータ学院非常勤教員
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日商簿記2級を学習します。
授業の進め方	講義、質疑応答、演習等
達成目標	(1) 企業で用いられる簿記を学習し、職業会計人としての基礎を築く。 (2) 日商簿記2級合格が一つの目標の目安になる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 工業簿記の基礎 第 2 回 工業簿記の勘定連絡 第 3 回 材料費 () 第 4 回 材料費 () 第 5 回 労務費 () 第 6 回 労務費 () 第 7 回 経費 第 8 回 個別原価計算 () 第 9 回 個別原価計算 () 第 10 回 部門別個別原価計算 () 第 11 回 部門別個別原価計算 () 第 12 回 総合原価計算 () 第 13 回 総合原価計算 () 第 14 回 総合原価計算 () 第 15 回 総合原価計算 ()
履修上の注意	日商検定は知名度も高く、企業の人事担当者にも知られている資格の一つです。 簿記2級取得を目指す科目ですので、主な受講対象者は、すでに簿記実務経験のある人または簿記3級の実力のある人となります。
教科書	日商簿記2級工業簿記合格テキスト T A C 出版
参考書	講義の中で紹介します。
成績評価方法	講義への参加姿勢 (60%)、期末試験 (40%) などから総合的に評価します。

科目名	政治学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0770	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	民主主義諸国間の比較を通じて、政治制度の違いがどのようにして政策の違いをもたらすのか、について講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2) 他国との比較を通じて、日本の政治制度の仕組みを理解する。 (3) 政治制度の違いがどのようにして政策の違いをもたらすのかを理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 組織された集団 第3回 大企業と政治 第4回 官僚と政治家 第5回 多元主義論と制度論 第6回 多数決型とコンセンサス型 第7回 選挙制度(1回目課題配布) 第8回 執政制度 第9回 政党制度(1回目課題提出) 第10回 議会制度 第11回 官僚制 第12回 司法制度(2回目課題配布) 第13回 中央銀行制度 第14回 中央・地方関係制度(2回目課題提出) 第15回 まとめ
履修上の注意	政治学 と政治学 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『はじめて出会う政治学 構造改革の向こうに』北山俊哉・真淵勝・久米郁男著、有斐閣(2009年)；『比較政治制度論』建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史著、有斐閣(2008年)；『民主主義対民主主義 多数決型とコンセンサス型の36ヶ国比較研究』アレンド・レイプハルト著、粕谷祐子翻訳、勁草書房(2005年)。
成績評価方法	2回の課題提出(1回目と2回目はそれぞれ50%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。また課題配布および提出は、講義回に依拠します。たとえば、第9回(1回目課題提出)が台風などで休講の場合、第9回は次週になります。したがって、課題提出は、次週になります。次週も台風などで休講になった場合、次々週になります。

科目名	政治学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0771	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	政党と選挙の説明を通じて、現代民主政治の仕組みについて講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2) 政党と選挙の仕組みを理解する。 (3) 現代民主政治の仕組みを理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション：政治参加と政策、民主主義と非民主主義の違い 第2回 政党の目的と形成 第3回 政党組織 第4回 議会と政党 第5回 政党システム 第6回 選挙制度と政党システム 第7回 日本の政党間競争と選挙（1回目課題配布） 第8回 選挙民の中の政党 第9回 投票行動と政党（1回目課題提出） 第10回 日本の政党システム 第11回 政党と政権 第12回 政党システムの安定と変化（2回目課題配布） 第13回 自民党長期政権 第14回 政権交代（2回目課題提出） 第15回 まとめ
履修上の注意	政治学 と政治学 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『現代の政党と選挙【新版】』川人貞史、平野浩、吉野孝、加藤淳子著、有斐閣（2011年）； 『投票行動研究のフロンティア』山田真裕・飯田健著、おうふう（2009年）。
成績評価方法	2回の課題提出（1回目と2回目はそれぞれ50%）によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、（他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど）課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。また課題配布および提出は、講義回に依拠します。たとえば、第9回（1回目課題提出）が台風などで休講の場合、第9回は次週になります。したがって、課題提出は、次週になります。次週も台風などで休講になった場合、次々週になります。

科目名	政治史	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0781	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	近代国家の形成、発展、崩壊を中心に、戦前・戦中の日本政治史について講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治史を理解し、説明できるようになる。 (2) 戦前・戦中の日本政治史を理解する。 (3) 現在の政治状況を考える上で必要な政治史の知識を習得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 西洋の衝撃と倒幕(1) 第3回 西洋の衝撃と倒幕(1) 第4回 明治国家の形成(1) 第5回 明治国家の形成(2) 第6回 明治国家の形成(3) 第7回 政府と議会(1)、日清戦争(1回目課題配布) 第8回 政府と議会(2)、日露戦争 第9回 政党と軍部、第1次世界大戦(1回目課題提出) 第10回 政党政治の確立、第1次世界大戦後の内政と外交 第11回 政党政治の衰退と軍部の台頭(1) 第12回 政党政治の衰退と軍部の台頭(2)(2回目課題配布) 第13回 政党政治の衰退と軍部の台頭(3) 第14回 日中戦争と第2次世界大戦(2回目課題提出) 第15回 まとめ
履修上の注意	政治史 と政治史 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『日本政治史 外交と権力』北岡伸一著、有斐閣(2011年)；『政党から軍部へ 1924～1941』北岡伸一著、中央公論新社(1999年)。
成績評価方法	2回の課題提出(1回目と2回目はそれぞれ50%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。また課題配布および提出は、講義回に依拠します。たとえば、第9回(1回目課題提出)が台風などで休講の場合、第9回は次週になります。したがって、課題提出は、次週になります。次週も台風などで休講になった場合、次々週になります。

科目名	政治史	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0782	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	自由民主党(自民党)の政権運営を中心に、戦後の日本政治史について講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治史を理解し、説明できるようになる。 (2) 戦後の日本政治史を理解する。 (3) 現在の政治状況を考える上で必要な政治史の知識を習得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 保守と革新 第3回 自民党政治の歴史的背景(1) 第4回 自民党政治の歴史的背景(2) 第5回 自民党政治の確立: 鳩山内閣と石橋内閣、岸信介と安保改定 第6回 自民党の黄金時代(1): 池田勇人と所得倍増計画 第7回 自民党の黄金時代(2): 佐藤栄作と沖縄返還(1回目課題配布) 第8回 自民党の動揺(1): 田中角栄と列島改造 第9回 自民党の動揺(2): 三木武夫と保守政治の修正、福田赳夫と全方位外交(1回目課題提出) 第10回 自民党の動揺(3): 大平正芳と新しい保守のビジョン 第11回 自民党政治の再生(1): 鈴木善幸と和の政治 第12回 自民党政治の再生(2): 中曽根康弘と日米同盟の強化(2回目課題配布) 第13回 自民党政権の崩壊(1): 竹下登と税制改革、海部俊樹と湾岸戦争 第14回 自民党政権の崩壊(2): 宮沢喜一と自民党政権の崩壊(2回目課題提出) 第15回 まとめ
履修上の注意	政治史 と政治史 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『自民党 政権党の38年』北岡伸一著、読売新聞社(1995年); 『戦後と高度成長の終焉』河野康子著、講談社(2002年)。
成績評価方法	2回の課題提出(1回目と2回目はそれぞれ50%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。また課題配布および提出は、講義回に依拠します。たとえば、第9回(1回目課題提出)が台風などで休講の場合、第9回は次週になります。したがって、課題提出は、次週になります。次週も台風などで休講になった場合、次々週になります。

科目名	国際関係論	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0789	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際関係論の基本的事項を学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で行います。毎回レジメを配布し、それに沿って講義を進めます。
達成目標	(1)理論を理解できるようになる。 (2)国際実行を分析できるようになる。 (3)実際の時事問題に理論を当てはめて考えられるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 はじめに 国際関係論とは何か 第2回 国際関係論とは何か 第3回 国際関係の主体 国家 第4回 国際関係の主体の多様化 第5回 国際関係理論 リアリズム、リベラリズム 第6回 国際関係理論 コンストラクティヴィズム、その他 第7回 国際関係史 古代、中世、近代 (第1回 小テスト) 第8回 国際関係史 現代 第9回 冷戦の勃発と終結 第10回 核抑止論 第11回 ポスト冷戦の世界 低強度紛争、テロリズム 第12回 ポスト冷戦の世界 安全保障、国際機構 第13回 グローバリズム 第14回 地域主義の台頭 第15回 まとめ (第2回 小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むように。
教科書	特に指定しない。
参考書	ジョセフ・ナイ『国際紛争』(有斐閣 2003年)。
成績評価方法	授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(40%)で評価。

科目名	国際関係論	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0790	担当教員	岩佐 和幸	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>多国籍企業の肥大化、移民労働者の増大、FTA・TPP構想の浮上、国際NGOの登場・・・グローバル化の進展とともに、従来の国家/国際関係が大きくゆらいでいます。本講義では、グローバル化と国際関係の変容について、特に途上国開発や南北問題の視点から紹介し、今後の課題を考えてみたいと思います。</p>
授業の進め方	<p>講義ではレジュメを配布する他、講義と関連する内容のビデオもお見せする予定です。 5日間の集中講義です。各日の最後に、関連するレポートを提出してもらいます。 授業の途中、エクスカッションを入れる予定です。</p>
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 国際関係論に関する基礎理論を理解する。 2 南北問題の歴史・現状について理解する。 3 グローバリゼーション下での国際関係や南北問題の現状について理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 国際関係を見る視角：初期国際関係論の成立と展開 3 国際関係を見る視角：主流派理論への批判と代替理論の模索 4 国際関係を見る視角：国際関係論の新たな潮流 5 戦後世界体制と南北問題：植民地支配から開発主義へ 6 戦後世界体制と南北問題：ボックス・アメリカーナと途上国開発援助 7 多国籍企業の登場と世界経済のリストラクチャリング：途上国工業化と新しい国際分業 8 多国籍企業の登場と世界経済のリストラクチャリング：多国籍ブランド/女性労働者/反搾取工場運動 9 多国籍企業の登場と世界経済のリストラクチャリング：アグリビジネスと農業・農村の再編 10 労働市場のグローバル化と移民・難民問題：途上国農村の再編と労働力輸出 11 労働市場のグローバル化と移民・難民問題：先進国におけるマイノリティ形成とレイシズム 12 労働市場のグローバル化と移民・難民問題：「国際移民の時代」と日本 13 グローバリゼーション時代における国際関係：累積債務問題/構造調整/金融危機 14 グローバリゼーション時代における国際関係：WTO体制と途上国開発 15 グローバリゼーション時代における国際関係：グローバリゼーションと社会運動 <p>上記は現時点での予定です。エクスカッションの日程・場所に応じて、下記計画を変更することがあります。</p>
履修上の注意	<p>エクスカッションは高知市内を考えています。各自移動手段(自転車、バイク、車etc)を確保しておいて下さい。 また、受講生は全員、学生教育研究災害傷害保険(年間保険料100円)に加入してください。保険料については、個別に学生課で納入してください。</p>
教科書	なし。
参考書	第1回目に参考文献を紹介します。また、講義中にも随時指示する予定です。
成績評価方法	<p>普通の講義への参加態度・小レポート 40% プレゼンテーション 60% 上記に加え、最終レポートをプラス として加味します。</p>

科目名	歴史学	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0800	担当教員	小幡 尚	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	いわゆる「高校日本史」は、重要な科目ではありますが、「研究」ではありません。それでは、「日本史の研究」とはどのようなものなのでしょうか。その方法について、日本近代史研究という立場から解説します。
授業の進め方	基本的には講義形式で、「日本近代史研究の方法」について論じます。ただし、「方法」を実践してもらうため、(授業外の時間で行なう)さまざまな課題を課す予定。また、授業内においても発言の機会を多く与えます。
達成目標	(1)日本近代史研究の基礎を理解する。 (2)日本近代史上の諸史実について理解する。 (3)日本近代史に対する関心を涵養する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 ガイダンス 今後の講義計画および履修上の留意事項などについて説明する。 第2・3回 歴史学とはなんだろうか 第4・5回 日本近代史の研究とは 第6回 文献の種類とその探し方 第7回 史料 さまざまな史料 第8・9回 史料 思想家の文章を読む 第10・11回 史料 政治家の史料を読む 第12・13回 史料 地域史(高知)の史料を読む 第14・15回 「研究」を読む 著書・論文
履修上の注意	授業に対する積極性が必要である。「聞いているだけ」の学生が単位を取得することは難しい。
教科書	使用しない。プリントを多く配付する予定。
参考書	講義中に適宜紹介する。
成績評価方法	学期末にレポートを課し、それによって評価する。ただし、状況によって変更もあり得る。

科目名	社会保障・福祉論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0810	担当教員	田中 きよむ	所属	高知県立大学社会福祉学部	
連絡先	電話					088-847-8741(研究室)
	E-mail					kiyopy@cc.kochi-wu.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。では、少子・高齢化の社会状況をふまえ、高齢者介護と児童福祉の制度内容を理解するとともに、施策の構造的特徴を明らかにする。
授業の進め方	基本的には、テキスト・板書とプリントによって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。
達成目標	(1) 社会保障の基本概念と体系、経済・財政との関係が理解できるようになる。 (2) 介護保険制度の導入背景と基本構造、制度改革の特徴について理解できるようになる。 (3) 少子化の背景と対応の基本的方向を学ぶ。 (4) 保育・児童虐待対策等の具体的な児童福祉制度の基本的構造と制度改革の特徴を理解する。
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1 回 福祉・社会保障の基本概念 第 2 回 社会保障と経済・財政の基本的関係 第 3 回 社会保障の制度体系 第 4 回 高齢化をめぐる社会状況と介護問題 第 5 回 措置制度と介護保険 第 6 回 介護保険制度の基礎構造 第 7 回 介護保険法改正後の動向 第 8 回 少子化をめぐる社会状況と要因 第 9 回 少子化対応への基本的方向 第 10 回 保育所制度の沿革と行財政構造 第 11 回 保育所制度をめぐる政策動向 第 12 回 児童虐待の状況と要因 第 13 回 児童虐待をめぐる政策動向 第 14 回 児童諸手当の内容と改正動向 第 15 回 育児休業制度の内容と改正動向
履修上の注意	下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」との両方を受講することが望ましい。
教科書	田中きよむ『少子高齢社会の社会保障論』(中央法規出版、2010年)
参考書	講義のなかで、各テーマごとに紹介する。
成績評価方法	学期末試験によって評価する。

科目名	社会保障・福祉論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0820	担当教員	田中 きよむ	所属	高知県立大学社会福祉学部	
連絡先	電話					088-847-8741(研究室)
	E-mail					kiyopy@cc.kochi-wu.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。では、年金・医療・障害者福祉の各分野に焦点を当て、その制度内容と構造的特徴を明らかにする。
授業の進め方	基本的には、テキスト・板書とプリントによって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。
達成目標	(1) 年金制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (2) 医療制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (3) 障害者福祉制度の構造と制度改革の内容を理解できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 年金保険制度の基本的しくみ 1 第 2 回 年金保険制度の基本的しくみ 2 第 3 回 年金制度改革の背景 第 4 回 年金制度改革の特徴 第 5 回 年金制度をめぐる今後の方向 第 6 回 医療保険制度の基本的しくみ 1 第 7 回 医療保険制度の基本的しくみ 2 第 8 回 医療制度改革の背景 第 9 回 医療制度改革の特徴 第 10 回 医療制度をめぐる今後の方向 第 11 回 障害の概念と障害者福祉の理念 第 12 回 社会福祉基礎構造改革の特徴 第 13 回 措置制度と支援費制度 第 14 回 障害者自立支援法の構造 第 15 回 障害者自立支援法の動向と今後の方向
履修上の注意	下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」との両方を受講することが望ましい。
教科書	田中きよむ『少子高齢社会の福祉経済論』（中央法規出版、2010年）
参考書	講義のなかで、各テーマごとに紹介する。
成績評価方法	学期末試験によって評価する。

科目名	社会思想史		単位数	2	期別	
科目コード	G0830		担当教員	森 直人	所属	高知大学 人文学部
連絡先	電話					
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	<p>この授業の目的は、「市民である」とはどういうことなのか、「市民社会」とはなんなのか、という問いを中心としてヨーロッパの社会思想の歴史を学び、これらの問いについて参加者自身が考えることです。「市民」という言葉は、日本語でもごく普通に使われますが、「市民である」とはどういうことなのかと問い直してみれば、その答えは一つではありません。市民という言葉と深くかかわる「市民社会」という言葉にしても、それがどのような社会を意味するのか、唯一の正解を見つけることは困難です。</p> <p>この授業では、「市民」や「市民社会」という言葉が育まれていったヨーロッパの社会思想を学び、これらの言葉の多様な意味の中から、いくつかの重要な内容を学んでいきます。具体的には、古代のギリシャ、初期近代のイギリス、近代のドイツ、そして現代の思想の中で、これらの言葉の意味を検討します。そして、それら多様な意味を知った上で、市民であるとはどういうことか、市民社会とはなんなのかについて、参加者自身に考えてもらいたいと思います。</p>
授業の進め方	<p>この授業は、基本的には講義形式で進めていきます。ただし、授業時間内に何回か質問の機会を設け、また同時に質問票を使い、学生からの質問に可能な限り答える形を取りたいと思います。</p> <p>また、授業全体を四つのまとまりに分け、その間に三回程度の小テストを行う予定です。これについて、詳しくは以下の授業計画を参照してください。</p>
達成目標	<p>(1) 「市民社会」という言葉それ自体の歴史について、大まかに理解できるようになる</p> <p>(2) 古代ギリシャから現代にいたるヨーロッパでの「市民社会」の意味内容、特に「政治社会」「経済社会」「新しい市民社会」という三つの内容を理解できるようになる</p> <p>(3) 以上の二点の内容に基づいて、市民であるとはどういうことか、市民社会とは何かという問題に対し、自分なりの認識を提示できるようになる</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 ガイダンス:この授業のテーマ/計画/成績評価の方法について</p> <p>第2回 「市民」とは、「市民社会」とは？(この授業で何を学ぶのか)</p> <p>第3回 「市民社会」の意味内容とその歴史について</p> <p>第4回 「市民社会」の言葉の歴史についてのまとめと小テスト(10%)</p> <p>第5回 「政治社会」としての市民社会(1):アリストテレスを中心に</p> <p>第6回 「政治社会」としての市民社会(2):ロックを中心に</p> <p>第7回 「政治社会」としての市民社会(3):まとめと小テスト(10%)</p> <p>第8回 「経済社会」としての市民社会(1):スミスを中心に</p> <p>第9回 「経済社会」としての市民社会(2):ヘーゲルを中心に</p> <p>第10回 「経済社会」としての市民社会(3):まとめと小テスト(10%)</p> <p>第11回 中間まとめ、期末試験についての説明</p> <p>第12回 「市民社会」への批判と「新しい市民社会」(1):マルクス他</p> <p>第13回 「市民社会」への批判と「新しい市民社会」(2):ハーバーマス他</p> <p>第14回 「市民社会」への批判と「新しい市民社会」(3):まとめとその他</p> <p>第15回 全体のまとめ</p> <p>第16回 期末定期試験(70%)</p>
履修上の注意	高校で学ぶ程度の世界史の知識があれば、履修の前に特に準備が必要な知識はありません。
教科書	講義にあたっては、毎回配布するレジュメに従って授業を進めていきますが、同時に以下の文献を教科書として使用します。受講者は基本的に事前に購入しておいてください。 植村邦彦(2010)『市民社会とは何か 基本概念の系譜』、平凡社新書
参考書	教科書以外でこの授業に関わる文献としては、以下の文献を適宜参照してください。 村上陽一郎(2009)『あらためて教養とは』、新潮文庫 岡本仁宏(2004)『市民社会』、古賀敬太編『政治概念の歴史的展開 第一巻』晃洋書房 フィンリスン、ジェームズ・ゴードン(村岡晋一訳)(2007)『ハーバーマス』、岩波書店 リーデル、マンフリート(河上倫逸・常俊宗三郎編訳)(1990)『市民社会の概念史』、以文社 エーレンバルク、ジョン(吉田傑俊監訳)(2001)『市民社会論:歴史的・批判的考察』、青木書店
成績評価方法	成績評価は、基本的に三回の小テストと期末定期試験によつ総合的に行います。各テストの配点は以下の通りです。 ・小テスト:各10点(三回合計 10点×3回=30点) ・期末定期試験:70点

科目名	地方自治論	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0840	担当教員	城戸 英樹	所属	奈良県立大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本には、国・都道府県・市町村という3つのレベルの「政府」が置かれている。本講義では、これらの政府体系の中で、地方自治制度を支える都道府県と市町村の役割に焦点を当てる。その中で、理論的な流れを紹介した上で、実際の制度がどのように設計されているのか、どのようにして地方政府が政策を決定しているのか、どのようにして政策が実施されているのか、などを扱う。
授業の進め方	教科書の内容にそって、適宜質疑応答を交えながら講義を行う。
達成目標	1) 日本の地方自治制度の実態や制度に対する理解ができるようになる。 2) 地方自治に関する制度や政策がもたらす帰結の考察を行うことができるようになる。 3) 日本の地方自治について、自分自身の意見を的確に述べられるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	各講義のテーマや項目は、以下の通りである。 進行の状況によって、内容と順序を変更することがある。 1. イントロダクション 地方自治とは 2. 地方自治とお金 3. 地方自治とお金 4. 自治体の機関 5. 自治体の機関 6. 中央地方関係 7. 中央地方関係 8. 地方公務員 9. 地方公務員 10. 自治体の政策過程 11. 自治体の政策過程 12. 自治体の組織 13. 自治体の組織 14. 自治体改革 15. 講義のまとめ 市民参加と地方自治
履修上の注意	行政学など政治学系の科目を履修していることが望ましい。
教科書	『地方自治入門』稲継裕昭著、有斐閣コンパクト(2011年)
参考書	授業中に適宜指示します。
成績評価方法	最終試験(100%)

科目名	行政学	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0861	担当教員	城戸 英樹	所属	奈良県立大学地域創造学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「行政国家」と称されるように、現代国家において行政の占める比重は極めて高い。このため、われわれが行政と関係することなく日常生活を送ることは、ほとんど不可能であるといってもよい。そこでこの講義では、現代社会において重要な役割を担っている中央政府の行政に関する知識を、体系的に理解していくことをめざす。
授業の進め方	教科書の内容にそって、質疑応答を交えながら講義を行う。
達成目標	(1) 日本の行政に関する理解を深める。 (2) 日本の行政について、自分自身の考えを持つことができるようになる。 (3) 日本の行政について、自分自身の考えを的確に述べるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	各講義のテーマや項目は、以下の通りである。 進行の状況によって、内容と順序を変更することがある。 1. イントロダクション 社会科学としての行政学 2. 国家公務員 3. 国家公務員 4. 内閣制度 5. 内閣制度 6. 中央省庁 7. 行政管理と行政改革 8. 官民関係 9. 予算編成 10. 財政 11. 財政 12. 行政責任 13. 政策過程の理論 14. 官僚制の理論 15. 講義のまとめ
履修上の注意	地方自治論など、政治学系の科目を履修することが望ましい。
教科書	『行政学』真淵勝著、有斐閣（2009年）
参考書	・行政についての基礎知識を身につけたい人に 『よくわかる行政学』村上弘・佐藤満編著、ミネルヴァ書房（2009年） 『ホーソフ・ック基礎行政学』今村都南雄・武藤博己・沼田良・佐藤克廣著、北樹出版（2009年）
成績評価方法	発展的な学習をめざす人のために 『行政・地方自治』秋月謙吾著、東京大学出版会（2001年） 『行政学（新版）』西尾勝著、有斐閣（2001年） 『行政学教科書（第2版）』村松岐夫著、有斐閣（2001年） 上記以外の参考文献については、適宜授業中に紹介する。

科目名	社会学	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0879	担当教員	遠山 茂樹	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「社会」を把握するためには、社会現象や背景にある因果関係などを「言葉」や「記号」にして表現する必要がある。「社会」を捉えて考えるためにも、社会学における基本的な「概念」を理解すると同時に、(各種)社会学が何を対象に、どのように「社会」を見てきたのかを学び、現代社会への理解を促進することを目的とする。
授業の進め方	授業は講義形式で行い、教科書に沿って進める。必要に応じ、こちらで準備したレジメを配布する。授業中にも簡単な課題を与えることもある。期末試験を実施する。
達成目標	(1) 社会学における基礎概念を理解する。 (2) 現代社会を批判的に見つめられるようになる。 (3) 社会的概念を応用して身の回りの「社会」を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的内容)	社会学は「社会」を研究する学問である。しかし「社会」という言葉には何でも含まれてしまうため、理解しにくい。そこで前半は、社会全体について把握するための理論社会学の基本的概念を学習することで曖昧で捉えにくい「社会」を掴まえ、社会現象や社会の仕組み、集団や人間関係などについて理解を深めていく。後半は、多くの専門領域をもつ社会学の中から私たちの生活に身近である家族、ジェンダー、福祉、都市、消費、メディア・情報などを取り上げ、各々の特定領域の社会研究において何を問題としているかを理解することで、現代社会を社会学の視点から考察できるよう学んでゆく。 授業計画としては以下の内容を予定している。 第01回 オリエンテーション<社会学とは> 第02回 行為論 第03回 相互作用論 第04回 集団論 第05回 社会の構造 第06回 全体社会 第07回 国家、エスニシティ、グローバル化 第08回 社会変動 第09回 家族社会学 第10回 ジェンダーの社会学 第11回 福祉の社会学 第12回 都市社会学 第13回 消費社会論 第14回 メディアと情報化社会 第15回 まとめ
履修上の注意	社会学 を履修していなくてもよい。
教科書	特になし (こちらで用意した資料を配布する)
参考書	濱嶋朗ほか編『社会学小辞典 新版増補版』(有斐閣 2005年) 森下伸也『社会学がわかる事典』(日本実業出版社 2000年)
成績評価方法	2/3以上の出席を期末試験受験資格とする。 成績評価は、期末試験(70%)および講義中の課題(30%)などから総合的に評価する。

科目名	ジェンダー論	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0890	担当教員	池谷 江理子	所属	高知工業高等専門学校
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「ジェンダー」とは何か、なぜ、今、「男女共同参画」が謳われるのか、ということについて論じます。歴史を垣間見、現代の労働現場に立ち入り、「ジェンダー」の意味と含蓄を明らかにしながら、偏見や先入観にとらわれない社会の在り方を一緒に考えたいと思います。少子化や貧困の問題についても取り上げます。
授業の進め方	プリント等配布資料や画像を使い、主として講義形式で授業を行います。折にふれ、小テーマで意見交換やグループ討議を行います。小さなコメント用紙を配布しますので、意見や疑問等にぜひ利用してください。
達成目標	(1) ジェンダーの意味内容を理解できるようになる。 (2) 人類史とジェンダー概念の変容の概略を知る。 (3) 就業や社会保障におけるジェンダー・ギャップの実態を知る。 (4) 文化・教育におけるジェンダー・バイアスを知る。 (5) セクシャル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスの実態と背景を知る。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 ジェンダーとは？(オリエンテーション) 第2回 歴史にみるジェンダー 日本と西洋におけるジェンダー 第3回 同上 西洋の場合 第4回 同上 日本の場合 第5回 仕事、就業とジェンダー 就業にみる男女格差 第6回 同上 男女賃金格差の実態と背景 第7回 同上 間接差別、ガラスの天井等 第8回 社会保障とジェンダー 制度におけるジェンダー・バイアス 第9回 同上 年金とジェンダー 第10回 育児とジェンダー 少子化を考える・合計特殊出生率の推移と背景 第11回 同上 国際比較からみた育児とジェンダー、育児休業と子育て支援 第12回 教育、メディア、文化とジェンダー - 学校とジェンダー、メディアに登場するジェンダー 第13回 同上 文化とジェンダー 第14回 セクシャルハラスメント、ドメスティック・バイオレンスとジェンダー - 実態と背景、課題 第15回 私たちのつくる今後の社会とジェンダー(授業のまとめ)
履修上の注意	日常生活や日頃の意識と密接に関わるテーマです。批判的に聴講し、積極的に意見を発表し、自由に議論をたたかわせてほしいと希望します。
教科書	授業時にはプリントを用意するほか、適宜、文献・資料を紹介します。プロジェクターを使い画像や写真等を利用して理解を深めるようにします。
参考書	井上輝子他『岩波女性学事典』(岩波書店、2002年)、4800円。独立行政法人国立女性教育会館『男女共同参画統計データブック2009』(ぎょうせい、2009年)、2381円。井上輝子他『女性のデータブック(第4版)』(有斐閣、2005年)、3200円 など。
成績評価方法	レポート評価を主とします(90%程度)が、講義や討論への参加状況、各種提出物等を加味(10%程度)し、総合的に評価します。

科目名	生涯教育論	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0894	担当教員	内田 純一	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	人はどういふ学習や文化と出会い、どういふ人々とのつながりの中で、ものごとを見つめる力を確かにし、豊かな感性を育て、人間的資質を高めることができるのだろうか。このことを広くたずね、学校教育以外での学習文化活動の事例を数多く取り上げながら、そこに見られる「学び合い」「育ち合い」を検討して、生涯にわたる人間の成長と発達、その保障のあり方を考察していきます。
授業の進め方	P P (パワーポイント) や配布資料、VTR等を用いながら基本的には講義形式で授業をすすめます。
達成目標	(1)教育の本質を理解している。 (2)(1)を踏まえて社会教育・生涯学習に関する法制度・施設の仕組みを理解・説明できる。 (3)(1)を踏まえて社会教育・生涯学習に関する職員の専門性を理解・説明できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回：オリエンテーション 授業の進め方 第2回：生涯学習・社会教育の現場から(1) 第3回：生涯学習・社会教育の現場から(2) 第4回：生涯学習・社会教育に関する理論的・歴史的な理解(1) 第5回：生涯学習・社会教育に関する理論的・歴史的な理解(2) 第6回：生涯学習・社会教育に関する法・制度(1) 第7回：生涯学習・社会教育に関する法・制度(2) 第8回：生涯学習・社会教育に関する施設(公民館) 第9回：生涯学習・社会教育に関する施設(図書館) 第10回：生涯学習・社会教育に関する施設(博物館) 第11回：生涯学習・社会教育の国際的動向(1) 第12回：生涯学習・社会教育の国際的動向(2) 第13回：生涯学習・社会教育に関する専門職員(1) 第14回：生涯学習・社会教育に関する専門職員(2) 第15回：授業のまとめ
履修上の注意	
教科書	特に定めません。
参考書	授業中に適宜、紹介します。
成績評価方法	期末試験 (50%)、講義への参加姿勢 (50%) などから総合的に評価します。

科目名	地域史	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0900	担当教員	公文 豪	所属	高知近代史研究会、土佐史学会、高知市自由民権記念館学芸資料整理課
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>講義テーマ：「土佐自由民権運動史」</p> <p>幕末から明治へ、土佐はきら星のごとき人材を輩出した。なかんずく、自由民権運動は日本の立憲政治確立の原動力となり「自由は土佐の山間より」と称されることになった。講義では、土佐を中心に展開された自由民権運動の通史を学び、130年余り前、自由と民権獲得のために生き生きと活動した先人の姿を呼び起こすことによって、中央から遠く離れた高知県再生の可能性、地域資源としての歴史的風土の魅力を再確認してゆく。</p>
授業の進め方	毎回、レジュメとプロジェクターにより講義する。
達成目標	<p>(1) 自由民権運動の思想と歴史を理解する。</p> <p>(2) 人類が到達した自由と人権思想の本質をつかむ。</p> <p>(3) 日本における憲法と議会政治の成り立ちを理解する。</p> <p>(4) 高知県の歴史について関心を高め、高知の歴史風土への愛着と誇りをつちかう。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第 1 回 幕末から明治へ</p> <p>第 2 回 明治 6 年の政変と民撰議院設立の建言</p> <p>第 3 回 立志社とその事業、土族反乱</p> <p>第 4 回 西南戦争と高知の大獄、立志社建白書の提出</p> <p>第 5 回 言論活動と民権結社の興起</p> <p>第 6 回 下からの地方自治、女性参政権獲得をめざす運動</p> <p>第 7 回 自由民権運動の全国的展開</p> <p>第 8 回 植木枝盛の憲法草案と日本国憲法の関係</p> <p>第 9 回 明治 1 4 年の政変と自由党の結成</p> <p>第 1 0 回 運動の拡大発展と言論弾圧</p> <p>第 1 1 回 自由民権運動の退潮と激化事件</p> <p>第 1 2 回 社会改良論の展開</p> <p>第 1 3 回 女権論の台頭と女性民権家の活躍</p> <p>第 1 4 回 大同団結運動から三大事件建白運動へ</p> <p>第 1 5 回 大日本帝国憲法の発布と帝国議会開設</p>
履修上の注意	出席をとります。教科書及び参考書通読のこと。
教科書	「土佐の自由民権運動入門」公文豪著、高知新聞社（2007年）
参考書	「土佐自由民権運動史」外崎光広、高知市文化振興事業団（1992年）
成績評価方法	レポート提出。評価は、レポート90%、講義への参加姿勢10%。

科目名	西洋近現代史	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0970	担当教員	柳川 平太郎	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	基本的人権にとって重要な自由権の成立過程など近代思想史の画期としてアメリカ独立革命やフランス革命を取り上げ、「二重革命の時代（市民革命と産業革命、イギリスの歴史家ホブズボームの立論を基に）」論を手がかりに比較史的に考察します。主として、18世後半から19世紀半ば1848年革命ごろまでのフランス、イギリス、アメリカ合衆国、ドイツ等を取り上げる予定です。
授業の進め方	主として、山川出版社刊『歴史から今を知る - 大学生のための世界史講義』（2010年）やミネルヴァ書房刊『西洋の歴史・近現代史編』（増補版、1998年）の代表的項目を選びながら、各回配布の資料に基づいて講義形式の授業を行います。その際、出来る限りビデオ映像資料を活用する方針です。
達成目標	(1)政治学・政治史にとって重要な諸概念（絶対主義・人権宣言等）を理解できるようにする。 (2)イギリス・フランス・ドイツなど各国国民国家の比較を通して、各国の特質を把握する。 (3)現代社会の理解にとって重要なナショナリズムなどの分析から、19世紀史の特質を学ぶ。
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下の諸項目を中心に検討を行います。本年度は特に映画やドキュメンタリフィルムなどの映像資料を参考にし、授業をすすめる予定です。 第1回 西洋近代史の対象と時代区分 第2回 序論 ホブズボームの「二重革命の時代」論とその意義 第3回 前提 大西洋革命と二重革命 第4回 アメリカ独立革命 第5回 アメリカ合衆国の成立 第6回 フランス革命の勃発 第7回 フランス革命からナポレオン体制へ 第8回 ハイチ革命とその挫折 第9回 プロイセン改革とドイツにおける近代化の立ち遅れ 第10回 イギリス産業革命とヨーロッパ大陸諸国 第11回 ウィーン体制 第12回 ポーランドの悲劇 第13回 1848年革命 第14回 ドイツ統一問題 第15回 展望
履修上の注意	高等学校地歴必修世界史（世界史A程度で可）の基礎知識を前提としますが、毎回当該領域の高校教科書プリントを配布しますので、未履修でも可能です。
教科書	購入の必要はありませんが、上杉忍他(編)『歴史から今を知る - 大学生のための世界史講義』（山川出版社、2010年）やミネルヴァ書房刊『西洋の歴史・近現代史編』（増補版、1998年）の一部を参考にします。
参考書	エリック・ホブズボーム、河合秀和訳『市民革命と産業革命』（岩波書店）など。
成績評価方法	各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価します。

科目名	環境論	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0980	担当教員	北條正司・保坂哲郎	所属	高知大学理学部(北條) 高知大学人文学部名誉教授(保坂)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>環境汚染、特に水質汚染の実態や仕組み、エネルギー争奪戦の実情を理解し、その中からどのような新しい仕組みが生まれ、世界的な温暖化規制を打ち出せるのだろうか。現状を分析しながら、世界的な環境問題解決を目指す模索を自然科学、および社会科学の視点から考える。</p> <p>昨年の東日本大震災や福島原発事故を契機にして日本の電力発電供給システムのあり方や今後の日本のエネルギー確保のあり方が大きな問題となり、それは単に電力の問題にとどまらず国民生活や政治のあり方にまで大きな影響をあたえようとしている。事態の進行を跡付けながら現実の問題点と進められてきた改善の性格を分析する。</p>
授業の進め方	<p>半期(15週)の講義であるが、前半を北條が担当し、後半を保坂が担当する。北條は教科書を使い、保坂はレジュメ等を使った講義になる。</p>
達成目標	<p>(1) 現在の大きな環境問題である温暖化防止や水質汚染問題に深い関心を持つ。</p> <p>(2) 自然科学と社会科学の視点から環境汚染や原発問題に関する最新の成果を理解する。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>前半(北條担当)は、自然科学の立場から水質汚染および地球環境問題について講義する。 後半(保坂担当)は、社会科学の立場から、福島原発事故問題の実態と改革をめざす現状、日本や各国の新エネルギー政策の特徴について講義する。</p> <p>前半</p> <p>第1回 バイオエネルギー(アルコール発酵)の重要性 第2回 地球と水 第3回 水の循環と利用 第4回 産業排水による水質汚染 第5回 生活排水による水質汚染 第6回 水道水と健康について 第7回 地球温暖化のメカニズム</p> <p>後半</p> <p>第8回 福島原発事故の問題点(1) 国策としての原発政策 第9回 福島原発事故の問題点(2) 電源三法と交付金 第10回 福島原発事故の問題点(3) 地域独占電力会社と総括原価方式 第11回 核燃料サイクル政策と問題点 第12回 核廃棄物処理問題 第13回 原発安全監視体制と「原子力村」 第14回 原発をめぐるEU,米国、中国、その他諸国の政策 第15回 日本のエネルギー政策と電力固定買取買い取り制度</p>
履修上の注意	<p>出席をとります</p>
教科書	<p>前半：北條正司・能勢 晶(共著)「酒と熟成の化学～響きあう水とアルコール」(光琳、2100円)</p>
参考書	<p>授業時にそれぞれ紹介します。</p>
成績評価方法	<p>成績評価は、前半と後半の平均点を基にします。 前半は受講態度(40%)、レポート(50%)と小テスト(10%)などを評価します。 後半は受講態度(50%)とレポート(50%)にもとづいて総合的に評価します。</p>

科目名	現代社会論	単位数	2	期別	前期
科目コード	G1000	担当教員	寺田 博	所属	元高知短期大学教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	わたしたち人間は社会のなかでしか生きることができません。したがってわたしたちがどのように生きるか、は社会のあり方によって決まります。{現代社会論}は、「現代」の「社会」を講義します。「現代」とは「太平洋戦争の敗北以後」=「戦後」から現在にいたる時代として、「社会」とは「家族・(略)・会社・政党・階級・国家などが主要な形態」(広辞苑)と定義されます。いま、日本社会は、若者の就職難などの雇用不安、格差・貧困の拡大、少子高齢化による育児・教育、医療・介護・年金問題、さらには原発崩壊によるいのちそのもの・生活基盤そのものの崩壊の危機、などに直面しています。この講義では、こうした諸問題を考えることをとおして「現代日本社会」の課題を検討します。また、「現代日本社会」の理解は、法学・政治学・経済学を学ぶ上での基礎となるものだと考えます。
授業の進め方	授業は講義形式で、毎回配布するレジュメと資料により行います。 授業方法は、「新聞による教育」(NIEs)の方式をとります。 質疑はいつでも受け付けます。授業の途中、授業後、あるいはメールでの疑問・質問、いずれもOKです。できれば、問答形式の授業をめざします。
達成目標	新聞記事をとおして現代日本社会を読み取ることができるようになる。 現代社会で生じる処問題は、いずれも自分の生活と密接に関係することを理解する。 現代の社会問題の多くは、自然現象のように不可避なことではなく、さまざまな人間の営みによって生じていることを理解する。 したがって、現代社会の諸問題は私たちを含む国民の意識、選択、参加によって変わりうるものであることを理解する。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 現代社会論で何を学ぶか 第2回 現代社会における国民生活の諸相 「1%と99% ウォール街を選挙せよ」格差社会をみる 第3回 「誰でもいいから殺したかった 秋葉原事件」非正規雇用の拡大と若者の孤立 第4回 「おにぎりが食べたい 生活保護と餓死」「豊かな日本」のなかの貧困 第5回 「無縁死3万2千人(NHK報道)」家族の解体と高齢者の孤独死 第6回 「日本には過労死するほど仕事があり、自殺するほど仕事がない(ネットから)」過労社会と自殺社会 第7回 「原発は安全です」「原発神話」と国民生活の崩壊 第8回 現代社会と国家の約割 9.11と3.11 第9回 現代社会と企業 第10回 「構造改革」と現代日本社会 第11回 現代社会と教育 第12回 現代社会と医療・介護・年金 第13回 現代社会における基本的人権 第14回 現代社会におけるマスコミ 第15回 まとめ 現代社会は変えることができるか？
履修上の注意	特になし。
教科書	教科書は使わない。
参考書	参考書・参考資料は配付できる物は配布し、その他はその都度授業で紹介する。
成績評価方法	試験70% 講義への参加姿勢30%

科目名	高知学	単位数	2	期別	集中
科目コード	H0900	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	我が国の人口減少や高齢化等の進行が著しい現状において、地域として持続的発展を図るために、地域自らが意思をもって様々な取り組みが行われている。本講義では、実学的視点から高知県内における地域おこしの現場を訪問し、主にフィールドワークを通して地域課題の抽出・課題の分析・政策づくり、そして最も重要な担い手の育成と役割を考える場としたい。
授業の進め方	講義及びフィールドワークの実施。
達成目標	(1) 地域の課題を把握する。 (2) 地域課題を解決するための政策形成の過程を理解する。 (3) 受講生が「地域の担い手」となる可能性・必要性を意識する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 地域振興・地域政策とは 第3回 高知県の地域振興 第4回 地域振興の事例紹介 第5回 高知県の雇用問題 第6回～14回 フィールドワーク なお、フィールドワーク中に、地域振興及び地域再生に関する講義を実施。 第15回 まとめ</p> <p>フィールドワークの実施(予定) 場所 高知県黒潮町 実施時期 9月上旬(1泊2日) 費用 15,000円程度(宿泊代、体験実習代) 宿泊場所 であいの里蜷川(小学校跡地の再生施設) 内容 黒潮町の地域振興 行政とNPOによるまちおこし 地域振興に関する取り組み(黒潮町役場、NPO砂浜美術館) 地域資源の再生事例(であいの里蜷川) 環境保全への取り組み ・ビーチコーミング 漂流物から学ぶ(砂浜美術館) ・地域による海洋生物の生態系保全とホエールウォッチング(漁協)</p> <p>注)シラバスの記載事項は、現在調整中であることから、変更することもある。 詳しい内容は、後日掲示する。</p>
履修上の注意	地域振興に興味のある方に来て欲しい。また、フィールドワークは、地域の多くの方々のご支援によって成り立っていることを理解して、感謝の念を忘れず、学生時代の学びのよい機会としていただきたい。
教科書	
参考書	
成績評価方法	レポート(50%)と参加姿勢(50%)より評価する。なお、フィールドワークへの参加は履修上の必須要件である。

科目名	外書講読	単位数	2	期別	前期
科目コード	H0990	担当教員	松吉 明子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日米の文化習慣を比較したエッセイを読み、英文読解力を養成します。 4年制大学の3年次編入試験に対応した力をつけることを目指し、文章の要旨が理解できるよう、多くの英文を読む練習をします。
授業の進め方	辞書を使えばある程度の長さの文章を読む英語の基礎力があることを前提に、1回につき1つ、もしくは2つの文章を読むペースで授業を進めていきます。 テキストに沿って、文章を読み内容を確認、理解確認の練習問題を行います。
達成目標	(1) 語彙を増やし、基本的な英語の読解力をつける。 (2) 読んだ内容に関して自分の考えを少しでも表現できるようになる。 (3) 国によって違う様々な考え方や習慣を知り、異文化に対する理解を深める。
授業計画 (講義の具体的 内容)	Lesson 1. オリエンテーション Physical Education / Sports Clubs Lesson 2. Cultural differences Lesson 3. Haircuts / Music Lesson 4. Safety / Life Expectance Lesson 5. Money Lesson 6. Police Lesson 7. 前半のまとめと復習 Lesson 8. Business / Jobs Lesson 9. Marriage Ceremonies Lesson 10. American Culture / International Marriage Lesson 11. Apartments Lesson 12. Technology / School Rules Lesson 13. Drinking Lesson 14. Entertaining / Choice Lesson 15. 後半のまとめと復習
履修上の注意	英語中辞典、または電子辞書を必ず持ってきてください。
教科書	"『Eye on America Japan そのまま日米比較』 George Truscott, 木村 博是、窪田 光男 他著 南雲堂 (2009年出版)"
参考書	英文法の参考書(以前使用していた参考書可)
成績評価方法	授業への取り組みと課題やタスク(20%)と試験(80%)などから総合的に評価します。

科目名	外書講読	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1000	担当教員	寺田 博	所属	元高知短期大学教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「外書講読」は「英文」を「訳読」することを内容とします(英語のみを対象とします)。したがって授業では、英語の文章を「正確」に読み、それを的確な日本語に「訳読」することをめざします。ですから、英文を正しい発音で読み、それを日本語で「正しく表現」することが求められます。英語を「訳読」ということは、日本語の理解力を高め、日本語の表現力を磨き、思考力をつけることでもあります。
授業の進め方	授業では、あらかじめ英文を配布します。受講生はそれぞれ割り当てられた担当箇所を事前に予習をして「訳読」したうえで授業に参加することが求められます。そして、授業は各自が「訳読」してきた文章を発表してもらい、それを全員で検討するという方法で行います。 また、授業の初めに、メールで日々配信される英字新聞の最新記事から時事的に重要な表現を Quotation of the Day として取り上げ、その「訳読」をとおして現代国際社会、日本社会の理解を深めます。
達成目標	(1) 英文を音読させることで発音に対する関心と自覚をもたせる。 (2) 正しく発音できないことは英語を聞き取ることができないということを理解させる。 (3) あらゆる機会にきちんと辞書を引くという姿勢を身につけさせる。 (4) 英単語の訳を機械的に辞書から選択するのではなく、どの訳語がもっとも適切であるかを英文全体の文意を考えながら選択できる力をつけるようにする。 (5) 英文を「訳読」ということは、日本語の理解力をつけ、表現能力を高め、さらには思考力を磨くことであることを理解させる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 外書講読 のオリエンテーション 英語の「訳読」と英会話 第2回 英語の「訳読」の意義のその方法 第3回 日本語の考え方、英語の考え方 第4回 日本語の考え方、英語の考え方 第5回 日本語の世界、英語の世界 第6回 日本語の世界、英語の世界 第7回 英字新聞を読む The New York Timesの記事を読む 第8回 英字新聞を読む The New York Timesの社説を読む 第9回 英字新聞の社説を読む The New York Timesの社説を読む 第10回 英字新聞のコラム欄を読む The New York TimesでPaul Krugmanを読む 第11回 英字新聞のコラム欄を読む The New York timesのOpinionを読む 第12回 日本国憲法を英語で読む 第13回 著名演説・歌詞を英語で読む 第14回 編入試験の英文を読む 第15回 補足とまとめ
履修上の注意	(1) 外書講読 との連携はありません。 (2) 対象者は主として編入希望者となりますが、必ずしもそれに限定しません。英文を 読むことに関心のある人も積極的に受講してください。
教科書	教科書は使いません。
参考書	なし
成績評価方法	授業における発音力、「訳読」力、英語に対する努力・姿勢を主として評価基準とします。 試験は「訳読」力の達成度を確認するために行う。 講義への姿勢、講義での達成度40%、試験60%。

科目名	キャリアデザイン	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1010	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	自分の生き方と職業との関係について学ぶ。
授業の進め方	プリントと新聞記事等を資料とし、質疑意見等含めて進める。
達成目標	(1) 働くことの意味を理解する。 (2) 職業や経済社会について理解する。 (3) 自己理解を深め職業と自己実現・生きがいについて理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 オリエンテーション アンケート 第 2 回 職業とは何か・・・職業の考え方 第 3 回 職業のさまざまな側面 職業観の移り変わり 第 4 回 職業と社会 第 5 回 職業的規範 第 6 回 個人と職業 第 7 回 自己と職業のかかわり 第 8 回 自己理解の意味 第 9 回 自己理解の方法 第 10 回 職業選択の意味 第 11 回 職業選択と自己理解 第 12 回 職業への適応 第 13 回 労働の人間化 第 14 回 自己実現と職業・生き方 第 15 回 職業をめぐる今日的な課題
履修上の注意	この授業では、より良い職業的自立のために必要な知識を講義する。
教科書	そのつどプリント等を配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	試験(80%)・レポート・発表等(20%)を考慮しながら総合的に評価する。

科目名	社会人基礎力養成講座	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1011	担当教員	坂本 ひとみ	所属	ほほえみクリエイティブ(キャリアコンサルタント)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	様々な角度からの自己分析をとおして、自分の価値観を知り、「強み」「弱み」を知る。また、社会の状況を知り、「求められている人材とは？」について考え、自分とのGAPを分析する。そこから、将来や職業観について考えていく。
授業の進め方	ワークシート、グループディスカッションを含めた授業の展開
達成目標	(1)自らの将来を考える機会を提供し、キャリア設計力を高める。 (2)「自分らしい就職・進学」のための戦略を考える。 (3)職業観の形成を支援し、基礎力の向上を図る。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション キャリアとは？ 第2回 ワークキャリアとライフキャリア 第3回 価値観発見 自分らしさを知る 第4回 自己分析 第5回 コミュニティとコミュニケーション 第6回 現代社会とキャリア 第7回 社会を知る 今求められている能力 第8回 世界、日本、高知を知る 第9回 業界、職種、組織を知る 第10回 職場の環境と職場の現象 第11回 人材マネジメントの戦略 第12回 キャリア開発と自己PR 第13回 履歴書と自己PR 第14回 ビジネスマナー 第15回 まとめ 自分らしい生き方・働き方
履修上の注意	この授業では、より良い職業的自立のために必要な知識を講義します。
教科書	プリント等の配布
参考書	必要に応じて紹介する
成績評価方法	レポート(70%)・発表(30%)等を総合的に評価する

科目名	消費生活論	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1012	担当教員	関根 猪一郎	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。
授業の進め方	講義レジュメに基づき、講義方式で行います。この科目は複数の講師によるオムニバス方式を採用します。
達成目標	(1) 消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力を養成すること。 (2) 消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量を身につけること。 (3) 消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解すること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。 第1回 ガイダンス 消費者問題概論 と消費生活～所得と物価・税金・社会保障～ 第2回 経済の仕組み 第3回 消費生活に必要な民法の知識 第4回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第5回 消費生活に必要な特定商取引法の知識 第6回 消費生活に必要な割賦販売法の知識 第7回 公正な競争の確保のために～独禁法及び景表法～ 第8回 消費生活とお金に関する知識 第9回 金融商品に関する基礎知識 第10回 情報通信サービスに関する基礎知識 第11回 調停・訴訟等に関する知識 第12回 製品安全の基礎知識 第13回 食品の安全と表示の諸問題 第14回 環境問題に関する基礎知識 第15回 消費者政策と法の対応
履修上の注意	公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。
教科書	毎回、講義レジュメを配布します。
参考書	講義のなかで紹介します。
成績評価方法	毎回の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文50%、レポート評価50%とします。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、国際法に関する国内の判例の分析を中心に行う。判例の分析を通して、理論が実際の裁判にどのように使用されているかを学ぶことにより、国際法の応用力を身に付けていく。
授業の進め方	演習形式で行い、学生による報告及び議論により進めていく。
達成目標	(1)判例を理解し分析できるようになる。 (2)議論に積極的に参加できるようになる。 (3)判例をまとめ報告できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	この演習は、報告や議論によって文章読解力を培うだけでなく、演習参加者との関係性や調和についても学ぶことを目的とする。 国際法は国家関係を規律する法であるが、その分野は領域、人権、貿易、環境、戦争等多岐にわたる。学生諸君には、各自が興味のある国内判例を選んでもらい、報告してもらう。 第1回 オリエンテーション 第2回 報告の方法及び判例の選択 第3回 教員による模擬報告 第4回 学生による報告 第5回 学生による報告 第6回 学生による報告 第7回 学生による報告 第8回 学生による報告 第9回 学生による報告 第10回 学生による報告 第12回 学生による報告 第13回 学生による報告 第14回 学生による報告 第15回 まとめ
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができませんので、次の手順により、受講申請を行います。 2012年7月17日(火)から23日(月)までの日程で第一次募集(定員10名募集)を行います。この期間中に、受講希望提出届を下山に提出してください。これによる選考によって受講者を決定します。第一次募集の結果は、7月26日(木)に発表します。尚、受講申請が定員を上回る場合は、面接を行います。 第一次募集で定員を満たさなかった場合、9月24日(月)から28日(金)の日程で第二次募集(残り定員数を募集)を行います。選考方法は、第一次募集と同様です。第二次募集の結果は、10月4日(水)に発表します(編) 第一次募集で定員を満たさなかった場合は、2011年及び2012年の講義期間中に於いては、随時、受講希望者からの購入が望まれます。詳細は、学生自治室前にある最新版(2011年)の講義案内(社会科学演習(ゼミ)掲示板上)に掲示いたしますので、上の期間中は、注意して掲示板を見るようにしてください。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価方法	授業態度(80%)、報告内容(20%)をあわせて評価。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この演習では、刑法総論のトピックスを事例問題を通して取り扱っていきます。
授業の進め方	刑法総論のトピックスに関する事例問題を各自取り上げ、問題点や罪責の有無等を報告し、それを他の履修者と共に議論していきます。
達成目標	(1)刑法各論の知識を事例研究に応用する力を身につけること。 (2)議論することを通じて、各自の考察を深めること。 (3)自分の考察した問題について文章で表現できるようにすること。
授業計画 (講義の具体的 内容)	この演習では、受講生各自が具体的な刑事の事例問題を取り上げ、自分なりの答えを見つけた後で、報告し、受講生全員で討議することで、よりよい解決方法を見つけていこうとするものです。 議論を通じて自分の考えをさらに練り上げ、それをレポートに反映することができるようになることを目標とします。 裁判員制度が始まりました。わたし達は刑事事件の解決について自らの考えを提示していかなければなりません。この演習がその一助になることを願います。 第 1回 はじめに 第 2回 不作為犯 第 3回 錯誤(1) 第 4回 錯誤(2) 第 5回 過失 第 6回 可罰的違法性 第 7回 違法阻却事由(1) 第 8回 違法阻却事由(2) 第 9回 原因において自由な行為 第10回 実行の着手 第11回 中止犯 第12回 不能犯 第13回 共同正犯 第14回 教唆犯 第15回 従犯 以上はあくまでも目安です。参加人数や議論の活発さによって進度は異なっていきます。
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、通常の科目とは異なり、次のような手順で受講申請を行います。 2012年7月17日(火)から23日(月)までの日程で、第一次募集(定員10名)を行います。この期間中に、メールで田中に受講希望の旨を伝えてください。メールアドレスはyt-1020@cc.u-kochi.ac.jpです。面接で選考するつもりですが、その日時はそれぞれのメールへの返信でお伝えします。第一次募集の結果は26日(木)に発表します。 第一次募集で定員に満たない場合には、9月24日(月)から28日(金)の日程で第二次募集を行います。選考方法は同様です。結果は10月4日(水)に発表します。
教科書	この段階で定員に満たない場合には受講申請・変更期間中であれば、随時、希望者を受け入れます。詳細は、学生自習室前の「社会科学演習掲示板」に掲示します。
参考書	受講が決定した方は与えられた課題を十分に検討してください。特別な場合を除き、出席し、議論に参加してくる執筆者等は指定しませんが、刑法総論及び各論の教科書を参照してください。
成績評価方法	報告40%、議論などへの参加30%、レポート30%

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期	
科目コード	H1020	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	各受講者が政治社会に関する雑誌、書籍、論文などから関心のあるテーマを探し、それを報告し、受講生全員で議論することを通じて、テーマを発見し報告する力を養成することと、政治社会の様々な問題に対する理解を深めることを目指します。
授業の進め方	演習形式で進めます。具体的には、毎回担当者を決めた上で、関心のあるテーマについて書かれた雑誌、書籍、論文などを探す、それを報告する、報告の後、全員で議論、教員の解説を行う、という手順で進めます。受講生が探してくるテーマについては、政治社会に関するものであれば、何でもかまいません(政治史、政治思想なども可)。また、書籍を探してくることが難しいと考えている受講生には、下の参考文献などの書籍を提示しますので、その中から報告するテーマを選んでいただいてもかまいません。なお、詳しい進め方、テーマの探し方については、第1回と第2回の授業で説明します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治社会現象を理解し、説明できるようになる。 (2) テーマを発見し報告する力を身につける。 (3) 政治社会の様々な問題に対する理解を深める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下の各回に書かれているテーマは例示です。テーマはそれぞれの受講生の関心によって決まります。 第1回 オリエンテーション 第2回 日本の首相のリーダーシップ(教員による報告例) 第3回 尖閣諸島問題 第4回 東日本大震災 第5回 社会保障と税の一体改革 第6回 教育問題 第7回 貿易自由化とTPP 第8回 少子化社会 第9回 国民投票 第10回 普天間基地問題 第11回 野党はどうあるべきか 第12回 日本の軍事力の現状 第13回 選挙制度 第14回 政治的リアリズムとマキャベリズム 第15回 歴史解釈と政治
履修上の注意	社会科学演習・は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができませんので、次の手順により、受講申請を行います。2012年7月17日(火)から23日(月)までの日程で第一次募集(定員15名募集)を行います。この期間中に、受講希望提出届を清水に提出してください。これによる選考によって受講者を決定します。第一次募集の結果は、7月26日(木)に発表します。第一次募集で定員を満たさなかった場合、9月24日(月)から28日(金)の日程で第二次募集(残り定員数を募集)を行います。選考方法は、第一次募集と同様です。第二次募集結果は、10月4日(水)に発表します。第二次募集で定員を満たさなかった場合、受講申請・変更期間中であれば、随時、受講希望者を受け入れることとします。詳細は、学生自習室前にある「社会科学演習(ゼミ)掲示板」に掲示いたしますので、上の期間中は、注意して掲示板を見るようにしてください。
教科書	
参考書	『ポリティカル・サイエンス事始め【第3版】』伊藤光利編、有斐閣(2009年);『公共政策学の基礎』秋吉貴雄、伊藤修一郎、北山俊哉著、有斐閣(2010年);『はじめて学ぶ政治学 古典・名著への誘い』岡崎晴輝・木村俊道編、ミネルヴァ書房(2008年)など。
成績評価方法	授業への参加態度(100%)によって評価します。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では企業の人事労務管理に関わる文献の輪読、さらに受講生による研究報告を行ないます。また、受け入れ機関と参加者の条件が合えば、高知の中山間の産業と地域おこしに関するフィールドワークを行ないます。
授業の進め方	テキストの輪読、および受講者による報告とそれに対するディスカッションを行ないます。
達成目標	経営学の基礎概念を身につけ、日本企業の人材マネジメントを理解する上での示唆を得ること。 日米企業の人材マネジメントの違いを理解すること。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1-2回 各人の問題関心の整理・ディスカッション 第3-5回 日本の人事制度改革 第6-8回 アメリカの人事制度モデル その伝統と変容 第9-11回 アメリカの人事制度の実態分析 第12-13回 労働組合の制度と慣行 もう1つのアメリカ・モデル 第14-15回 人事制度改革の日本とアメリカ 上記のスケジュールは、参加者との相談の上で変更する可能性があります。
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができませんので、次の手順により、受講申請を行います。 2012年7月17日(火)から23日(月)までの日程で第一次募集(定員10名募集)を行います。この期間中に、受講希望提出届を青木に提出してください(各自で用意した紙に氏名と学籍番号を書き青木のメールボックスに入れること)。これによる選考によって受講者を決定します。第一次募集の結果は、7月26日(木)に発表します。 第一次募集で定員を満たさなかった場合、9月24日(月)から28日(金)の日程で第二次募集(残り定員数を募集)を行います。選考方法は、第一次募集と同様です。第二次募集の結果は、10月4日(水)に発表します。 第二次募集で定員を満たさなかった場合、受講申請・変更期間中であれば、随時、受講希望者を受け入れることとします。詳細は、学生自習室前にある「社会科学演習(ゼミ)掲示板」に掲示いたしますので、上の期間中は、注意して掲示板を見るようにしてください。
教科書	
参考書	石田光男、樋口純平 2009 『人事制度の日米比較 成果主義とアメリカの現実』ミネルヴァ書房(4200円)
成績評価方法	授業への参加(40%)、報告内容(60%)

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期	
科目コード	H1020	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2901
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>この演習は、現代社会を科学的に分析する能力を養うことを目的とします。授業では、担当教員の専門分野（会計学、企業の分析と評価）に関連する社会問題について、参加者各自の自由発表を通じて学んでいきます。</p> <p>当分野に関連するテーマとしては、たとえば、「粉飾決算の手口の分析」、「破綻企業の財務分析」、「デリバティブ取引で損をしない方法」、「将来性のある株式銘柄探し」、「オンラインゲーム会社の利益の出し方」、「地方の自治体病院の経営分析」、「社会科学の古典（原書）購読」、「簿記検定試験対策」・・・といったものが考えられます。具体的にどういった内容をテーマとするかについては、参加者各自の関心にあわせて決定してもらいます。</p>
授業の進め方	<p>演習は、参加者すべての人が中心となって、授業を運営する科目です。そこでは、毎回、1人あるいは複数の発表者による報告会を開催し、皆で議論していく、というかたちを採りたいと考えています。授業の進め方については、参加者の希望も随時取り入れます。発表の仕方や分析の方法などについては、適宜、解説を加えます。</p>
達成目標	<p>(1) 世の中で起こっている出来事について、その背景を探ろうとする姿勢を身につけること (2) 世の中で起こっている出来事について、自分の意見が言えるようになること (3) 資料を集め、それを分析し、自分の言葉でまとめられるようになること (4) 矛盾のない説明や、他の参加者になるほど納得してもらおう説明ができるようになること (5) 演習は、与えられたものをこなすところではなく、自分が動かなければ何も得られないところです。しかし、自ら動いて求めるならば、他のどの科目を受講した場合よりも、多くのものを得ることができるでしょう。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 kickoff meeting 第2回 様々な分析手法や資料収集方法の解説 第3回～第15回 報告会</p>
履修上の注意	<p>社会科学演習 ・ の受講申請は、次のように行なってください。2012年7月17日（火）～23日（月）の日程で、第1次募集（定員16名）を行います。選考は書類審査により行います。募集期間中に、受講希望届を梶原まで提出してください。第1次募集の結果は、7月26日（木）に発表します。第1次募集で定員を満たさなかった場合、9月24日（月）～28日（金）の日程で第2次募集を行います。選考は書類審査により行います。募集期間中に、受講希望届を梶原まで提出してください。第2次募集の結果は、10月4日（水）に発表します。第2次募集で定員を満たさなかった場合は、受講申請・変更期間中であれば、随時、受講希望者を受け入れます。</p>
教科書	<p>なし</p> <p>この演習に参加するにあたって、前提となる専門知識は特に必要ありません。分析手法など、必要な知識はその都度、紹介します。演習は個人発表と討論が中心です。したがって、自分の関心のある分野だけに閉じこもるのではなく、他の参加者が関心をもっている分野について一緒になって調べてみよう、という協働的な姿勢が</p>
参考書	<p>社会科学問題を解く眼を養うものとして、『判断力』奥村宏著、岩波新書（2004年）。</p> <p>・人前での発表の仕方を身につけるものとして、『理系のための口頭発表術』Anholt著（鈴木炎ほか訳）、講談社ブルーバックス（2008年）。</p>
成績評価方法	<p>様々な企業のビジネスモデルを理解するものとして、『図解まっしぐらわかる利益の出し方』ビジネスリサーチ発表内容(50%)の討論での発言(50%)など、演習への貢献度合を考慮して評価します。</p> <p>・『シャボン』著、三笠書房（2010年）。</p>

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、労働法や社会保障法に関する最新の論文の検討を行う。最新の理論を検討することをとおして、どのような点がいま社会で問題となっているかを理解し、法的知識の涵養を目指す。
授業の進め方	演習形式により、各自が関心をもつ問題を扱っている論文に関して、学生が毎回報告することによって授業を行うこととする。
達成目標	(1) データベースなどを用いて効率的に文献を調べる方法を学ぶ。 (2) 資料を収集し、報告することができるようになる。 (3) 報告者の報告の内容を理解した上で、議論に参加できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	以下の授業計画は例であって、受講生の関心によって適宜変更することはありうる。 第 1 回 はじめに 第 2 回 非正規労働者をめぐる問題 第 3 回 雇用保険と求職者支援制度 第 4 回 生活保護制度をめぐる今日的課題 第 5 回 介護保険法改正と障害者自立支援制度 第 6 回 労働契約法の意義 第 7 回 高齢者医療をめぐる問題 第 8 回 ワークライフバランスと労働基準法、育児介護休業法改正 第 9 回 障害者権利条約と障害者差別禁止 第 10 回 少子高齢化と公的年金 第 11 回 企業年金の減額・廃止 第 12 回 ひとり親家庭と社会手当 第 13 回 労働条件の決定と変更 第 14 回 待機児童と幼保一元化 第 15 回 まとめ
履修上の注意	労働や社会保障に関心のある者であれば、事前の知識の有無は問わない。 本演習に参加する学生の定員は12名とし、面接その他の方法で選抜することとする。第1次募集(募集期間:7月17日から23日まで 募集結果の公表:7月26日)、第2次募集(募集期間:9月24日から28日まで 募集結果の公表:10月4日)を行い、第2次募集は第1次募集で定員に満たなかった場合に行うものとする。また、第2次募集を行っても定員に満たない場合には、履修登録期間であれば随時履修を認めるものとする。
教科書	詳しいことは、1階「社会科学演習掲示板」に掲示する。 とくに指定しない。
参考書	授業中に適宜紹介する。
成績評価方法	報告の内容(70%)、議論への参加度合い(30%)から評価する。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	貨幣と資本主義と会社の意味やそれらの関係を考える。
授業の進め方	演習形式で進める。具体的には、毎回、教科書の一部を、一人あるいは複数の受講生が報告し、その報告をもとに参加者全員で討論する。
達成目標	(1) 貨幣とは何かを考えることができるようになる。 (2) 資本主義とは何かを考えることができるようになる。 (3) 会社とは何かを考えることができるようになる。 (4) 貨幣と資本主義と会社の関係を考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>教科書『会社はこれからどうなるのか』の輪読 第2回 第1章 なぜいま、日本の会社はリストラをするのか 第3回 第2章 会社という不思議な存在 第4回 第3章 会社の仕組み 第5回 第4章 法人論争と日本型資本主義 第6回 第5章 日本型資本主義とサラリーマン 第7回 第6章 日本型資本主義の起源 第8回 第7章 資本主義とは何か 第9回 第8章 デ・ファクトスタンダードとコア・コンピタンス 第10回 第9章 ポスト産業資本主義における会社のあり方 第11回 第10章 会社で働くということ</p> <p>教科書『二十一世紀の資本主義論』の一部の輪読 第12回 第1章1節 二十一世紀の資本主義論 グローバル市場経済の危機 第13回 第1章2節 インターネット資本主義と電子貨幣 第14回 第4章5節 ヒト、モノ、法人 第15回 第4章6節 企業とは何か</p> <p>*教科書や輪読の順番は、受講生の希望により変更することがある。</p>
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができませんので、次の手順により、受講申請を行います。 2012年7月17日(火)から23日(月)までの日程で第一次募集(定員15名募集)を行います。この期間中に、受講希望提出届を大井に提出してください。これによる選考によって受講者を決定します。第一次募集の結果は、7月26日(木)に発表します。 第一次募集で定員を満たさなかった場合、9月24日(月)から28日(金)の日程で第二次募集(残り定員数を募集)を行います。選考方法は、第一次募集と同様です。第二次募集の結果は、10月4日(水)に発表します。 第二次募集で定員を満たさなかった場合、受講申請と併せて希望提出届を大井に提出してください。 同時に、受講希望を登録し入れることとします。詳細は、学生自習室前にある「社会科学演習(ゼミ)掲示板」に掲載いたしますので、上の期間中は、注意して掲示板を見るようにしてください。
教科書	
参考書	
成績評価方法	報告の内容(50%)と議論への参加状況(50%)により評価する。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この演習では、憲法学の基本的な論点や近時の新しい問題に関して扱います。そのことを通じて、憲法学の理解を、より深めていくことを目的とします。
授業の進め方	担当の受講生が、それぞれ、与えられたテーマについて、調べてきて、レジュメに纏め、報告を行い、それを基にして、受講生全員で討議を行い、理解を深めていく形で進めていきます。つまり、通常の演習形式です。
達成目標	(1) 自分で調べ、レジュメに纏め、それを報告できるようになること。 (2) 他者の報告を基に、それに関して、きちんと討議できるようになること。 (3) 上記2点を通じて、それぞれのテーマについて、自分の理解を深め、その理解について、理由を付して、他者に正確に伝えられるようになること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	下記の授業計画は、受講生の関心等に応じて、変更する場合があります。 第1回 演習の進め方やレジュメの作成方法などについての説明 第2回 法の支配の正当性について 第3回 民主主義原理について 第4回 安全保障について 第5回 一票の格差の問題について 第6回 国会と内閣との関係について 第7回 地方分権について 第8回 プライヴァシー権について 第9回 表現の自由について 第10回 経済的自由について 第11回 教育権について 第12回 生存権について 第13回 外国人の参政権について 第14回 憲法改正について 第15回 全体のまとめ
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができませんので、次の手順により、受講申請を行います。 2012年7月17日(火)から23日(月)までの日程で第一次募集(定員12名募集)を行います。この期間中に、受講希望届を小林直三のメールアドレスに投函してください(受講希望届の書式等については、後日、掲示します)。受講希望者が定員よりも多かった場合には、面接を実施し、それと科目の履修状況等から、選考を行います(面接実施の日程については、後日、掲示します)。なお、第一次募集の結果は、7月26日(木)に発表します。第一次募集で定員を満たさなかった場合、9月24日(月)から28日(金)の日程で第二次募集(残り定員数を募集)を行います。選考方法は、第一次募集と同様です。第二次募集結果は、10月4日(水)に発表します。第二次募集で定員を満たさなかった場合、受講申請・変更期間中であれば、随時、受講希望者を受け入れることとします。詳細は、学生自習室前にある「社会科学演習(ゼミ)掲示板」に掲載いたします。授業中で、適時の期間中は必ず掲示して掲示板を見るようにしてください。
教科書	
参考書	
成績評価方法	報告の内容(50%)、討議への参加の程度(50%)から評価します。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	社会科学演習 を参照のこと
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期	
科目コード	H1022	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	社会科学演習 のシラバスを参照のこと
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	社会科学演習 を参照
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	社会科学演習 を参照すること
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	社会科学演習 を参照
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習（1年後期進路ゼミ）	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	坂本 ひとみ	所属	ほほえみクリエイティブ(キャリアコンサルティング)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく基礎的な力として、ディスカッションを通してコミュニケーションスキルの向上と基礎的な知識の習得を図り、就職につながる力を養成する。具体的には情報収集力を身につけ就職活動への活かし方を学ぶ。就職活動の現状を知り、自らの課題を見つめ、解決に向けた取り組みを考える。
授業の進め方	演習形式で進めます。円滑な就職活動に向けて、就職活動に必要な知識を提供するとともに、ワークシート、グループディスカッションを利用して展開します。
達成目標	(1) 読解、作文、プレゼンテーションなどの能力、現代社会を考える上での基礎的な知識など、就職に必要な基礎能力の向上を図る (2) 自分の将来展望を深く考察し、社会的自立に向けた素地を形成する。 (3) 就職活動をデザインし、キャリア設計力を高める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 就職活動とは 第2回 就職活動の流れ 第3回 自己分析・自己理解 第4回 エントリーシート・履歴書について 第5回 希望する業界・職種・企業について 第6回 希望する業界・職種・企業について 第7回 免許や資格を知る 第8回 就職活動の現状 第9回 情報収集と活用 第10回 ビジネスマナー 第11回 ビジネスマナー 第12回 適性試験について 第13回 面接対応 第14回 面接対応 第15回 まとめ 就職活動に向けて
履修上の注意	主に就職希望者を対象としています。社会科学演習は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。この就職対応の社会科学演習（坂本ゼミ）の受講希望者は第1、2回目の授業に出席し、受講希望を伝えてください。
教科書	プリント等の配布
参考書	必要に応じて紹介する
成績評価方法	レポート（70%）発表（30%）等を総合的に評価する

科目名	社会科学演習 (1年後期進路ゼミ)	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習 (1年後期進路ゼミ)	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく基礎的な力として、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、主に卒業後の四年制大学への編入につながる力を養成するものとしても位置づけられる。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに別れ、それぞれ1人の教員の下で、演習形式の学習を進める。受講生が自ら読み、書き、話し、聞く作業を通して、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う。
達成目標	(1) 読解力の養成を基礎に、小論文・レポートなど比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2) プレゼンテーション能力を高めること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4) 自分の将来展望を深く考察し、他人に表現できる力をのばすこと (5) 四年制大学編入学試験にも対応できる力を育てること
授業計画 (講義の具体的な内容)	演習は概ね次の4の要素で構成される。学生による小論文作成と教員による添削・講評、文章の書き方講座、現代社会の基礎知識理解、自己の将来展望について考察し表現するための指導。 がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。 では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。 では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学び意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。 この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。
履修上の注意	主に編入学希望者を対象としています。この編入対応の社会科学演習の担当は専任教員の小林直三、青木宏之、下山憲二、根岸忠、梶原太一です。社会科学演習はウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。この編入対応ゼミ希望者は次の手順により、受講申請を行います。2012年7月17日(火)から23日(月)までの日程で第一次募集(定員約12名募集;変更の可能性あり)を行います。選考方法は、教員によって異なります。第一次募集の結果は、7月26日(木)に発表します。第一次募集で定員を満たさなかった場合、9月24日(月)から28日(金)の日程で第二次募集(残り定員数を募集)を行います。第二次募集結果は、10月4日(水)に発表します。第二次募集で定員を満たさなかった場合、受講申請・変更期間中であれば、随時、受講希望者を受け入れることとします。詳細は、学生自習室前にある「社会科学演習(ゼミ)掲示板」に掲示いたしますので、上の期間中は、注意して掲示板を見るようにしてください。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習 (1年後期進路ゼミ)	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習 (1年後期進路ゼミ)	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習 (1年後期進路ゼミ)	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習Ⅳ(2年前期進路ゼミ)		単位数	2	期別	
科目コード	H1040		担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、文章を正しく理解し、専門的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、卒業後の四年制大学への編入や就職につながる力を養成するものとしても位置づけられる。以上の目標に対して、社会科学演習Ⅲよりも実質的に取り組むことを目的としている。
授業の進め方	受講希望者は、複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で、演習形式の学習を進める。受講生が自ら読み、書き、話し、聞く作業を通して、実践的に能力を高める形となる。教員は、適宜解説を行い、添削等の指導を行う。
達成目標	(1)小論文・レポートなど比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2)プレゼンテーション能力を高めること (3)現代社会の問題を考えるうえでの基礎的知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4)自分の将来展望を深く考慮し、他人に表現できる力を伸ばすこと (5)四年制大学編入試験や就職試験にも対応できる力を育てること
授業計画 (講義の具体的内容)	演習は概ね次の4つの要素で構成される。①学生による小論文作成と教員による添削・講評、②文章の書き方講座、③現代社会の基礎知識理解、④自己の将来展望について考察し表現するための指導。 ①がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。 ②では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、③では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。 ④では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学ぶ意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。 この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。
履修上の注意	社会科学演習Ⅳの担当教員は、大井方子、桑原尚子、梅村仁、清水直樹、田中康代(以上、編入対策担当)、坂本ひとみ(就職対策担当)です。 社会科学演習Ⅳは、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。大井、桑原、梅村、清水、田中の編入対策ゼミは、次の手順により、受講申請を行います(①については既に実施済み)。①2012年2月3日(金)から9日(木)までの日程で第一次募集(定員約12名募集)を行います。選考方法は、教員によって異なります。第一次募集の結果は、2月10日(金)に発表します。②第一次募集で定員を満たさなかった場合、4月9日(月)から13日(金)の日程で第二次募集(残り定員数を募集)を行います。第二次募集結果は、4月18日(水)に発表します。③第二次募集で定員を満たさなかった場合、受講申請・変更期間中であれば、随時、受講希望者を受け入れることとします。詳細は、学生自習室前にある「社会科学演習(ゼミ)掲示板」に掲示いたしますので、上の期間中は、注意して掲示板を見るようにしてください。 また、坂本ゼミ(就職対策)は、第1、2回目の授業にて受講申請を受け付けます。
教科書	演習で適宜掲示する。
参考書	演習で適宜掲示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、文章を正しく理解し、専門的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、主に卒業後の四年制大学への編入につながる力を養成するものとしても位置づけられる。以上の目標に対して、社会科学演習 よりも実践的に取り組むことを目的としている。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに別れ、それぞれ1人の教員の下で、演習形式の学習を進める。受講生が自ら読み、書き、話し、聞く作業を通して、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う。
達成目標	(1) 小論文・レポートなど比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2) プレゼンテーション能力を高めること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4) 自分の将来展望を深く考察し、他人に表現できる力をのばすこと (5) 四年制大学編入学試験にも対応できる力を育てること
授業計画 (講義の具体的な内容)	演習は概ね次の4の要素で構成される。 学生による小論文作成と教員による添削・講評、 文章の書き方講座、 現代社会の基礎知識理解、 自己の将来展望について考察し表現するための指導。 がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。 では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、 では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。 では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学び意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。 この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。
履修上の注意	主に編入希望者を対象としています。この編入対応の社会科学演習 の担当は、専任教員の大井方子、桑原尚子、梅村仁、清水直樹、田中康代となります。社会科学演習 はウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。大井、桑原、梅村、清水、田中の編入対応ゼミは、次の手順により、受講申請を行います（ については既に実施済み）。 2012年2月3日（金）から9日（木）までの日程で第一次募集（定員約12名募集）を行います。選考方法は、教員によって異なります。第一次募集の結果は、2月10日（金）に発表します。第一次募集で定員を満たさなかった場合、4月9日（月）から13日（金）の日程で第二次募集（残り定員数を募集）を行います。第二次募集結果は、4月18日（水）に発表します。 第二次募集で定員を満たさなかった場合、受講申請・変更期間中であれば、随時、受講希望者を受け入れることとします。詳細は、学生自習室前にある「社会科学演習（ゼミ）掲示板」に掲示いたしますので、上の期間中は、注意して掲示板を見るようにしていただきます。
教科書	
参考書	
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	坂本 ひとみ	所属	ほほえみクリエイティブ(キャリアコンサルティング)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、的確なコミュニケーションを行う能力と基礎的知識の習得を図り、就職につながる力を養成する。社会科学演習よりも実践的に取り組むことを目的としている。具体的には、企業から求められる能力を理解し、対人スキルの向上を図る。自らの課題を明確にし、解決に向けた戦略を考える。社会人としての基礎力を身につける方法を学ぶ。
授業の進め方	演習形式で進めます。就職活動のための情報を提供し、個々人の就職を取り巻く課題の解決に向けて必要な知識を提供するとともに、ワークシート、グループディスカッションを利用して展開します。
達成目標	(1) 読解、作文、プレゼンテーションなどの能力、現代社会を考える上での基礎知識を養い、社会人としての基礎力の向上を図る (2) 自分の将来展望を深く考察し、主体的にキャリア形成する力を育てる (3) 職業生活の設計を行うための機会を提供し、就職力を高める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション キャリア設計 第2回 企業が求める人材とは 第3回 就職基礎能力について 第4回 自己理解とコミュニケーション 第5回 志望動機・自己PR 第6回 ビジネスマナー 第7回 適性試験 第8回 面接対応 第9回 面接対応 第10回 採用と選考 第11回 ストレスマネジメント 第12回 就職の基礎知識（法律・制度） 第13回 仕事の評価 第14回 働くことの意味 第15回 まとめ
履修上の注意	主に就職希望者を対象としています。社会科学演習は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。この就職対応の社会科学演習（坂本ゼミ）の受講希望者は第1、2回目の授業に出席し、受講希望を伝えてください。
教科書	プリント等の配布
参考書	必要に応じて紹介する
成績評価方法	レポート（70%）・発表（30%）等を総合的に評価する

科目名	地域政策演習	単位数	6	期別	通年
科目コード	SA011	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>テーマ「高知県の官民協働による地域づくり」</p> <p>高知県は、高齢化、過疎化、地域経済の活性化など厳しい課題に直面している。しかしながら、県民自らが地域のために頑張る姿勢に力強さを感じる。</p> <p>本演習では、地域課題解決に向けて、県や市町村とともに取り組む地域の事例を調査し、新たな地域振興モデルの創生過程から、地域住民（企業含む。）・地域資源・公共のあり方を考える場としたい。</p>
授業の進め方	講義及びフィールドワークを実施。
達成目標	<p>自分でテーマを設定し、調査・ヒアリングする能力を身につける。</p> <p>調査・ヒアリングしたことをまとめ政策化する能力を身につける。</p> <p>まとめたことを発表する。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第 1 回～第 1 0 回 地域づくりについて基本的なことを学ぶ。</p> <p>第 1 1 回～第 3 0 回 フィールドワークの実施。</p> <p>第 3 0 回～第 3 5 回 フィールドワークで得たデータの整理。</p> <p>第 3 5 回～第 4 5 回 調査結果を論文にまとめる。</p> <p>フィールドワークの調査地は、受講生と相談して決定します。</p>
履修上の注意	地域振興に興味のある方に履修していただきたい。また、フィールドワーク主体ですので、参加が履修上の必修要件です。
教科書	特になし
参考書	適宜、参考図書を紹介。
成績評価方法	レポート（50%）と参加姿勢（50%）より評価する。

科目名	地域政策特講	単位数	2	期別	前期	
科目コード	SA020	担当教員	今城 逸雄	所属	高知大学特任講師 地域協働教育学部門	
連絡先	電話					088-844-8476(高知大学 研究室)
	E-mail					imajyo@cc.kochi-u.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	買い物弱者問題を通して、地域政策を考える力を養成します。
授業の進め方	この授業はゼミ形式とし、議論への積極的な参加を重視します。 フィールドワークを行います。
達成目標	(1) 高齢化社会における流通問題について説明することができる。 (2) 買い物を通じた中山間地及び中心市街地の問題を予測することができる。 (3) 地域政策を考える力を身に付けることができる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>まず、買い物弱者が生じることとなった原因を、消費行動の変化・都市政策・商業政策などから概観します。</p> <p>その後、高齢者や身体の不自由な人にとって買い物のバリアとなっていることを、高知市中心商店街とスーパーマーケットで調査します。</p> <p>さらに他の事例も踏まえ、そこから浮かび上がる諸問題を一緒に議論しながら、誰もが暮らせる地域社会の在り方を考えていきます。</p> <p>この授業は課題に対して、受講生自らが考え、積極的に意見交換をすることで、問題の本質は何かを見つけ出していく授業です。</p> <p>第1回 全体のガイダンス 第2回～7回 買い物弱者問題の概観 1.消費行動の変化 2.商業の実態把握 3.商業政策の問題 4.交通・都市政策の問題 5.人口の波の問題 6.買い物弱者の実態</p> <p>第8回～10回 フィールドワーク 1.高知市中心商店街と郊外量販店の実態調査 2.調査結果をもとにした議論 調査結果をミニレポートとして発表 3.商店街関係者との意見交換(予定)</p> <p>第11回～13回 フィールドワーク 1.スーパーマーケット店内の実態調査 2.調査結果をもとにした議論 調査結果をミニレポートとして発表 3.スーパーマーケット関係者との意見交換(予定)</p> <p>第14回 調査・考察結果の発表 最終レポートをベースとした発表 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	フィールドワークを2回予定しています。日程は土曜日または日曜日を想定していますが、受講者と受入先の都合を考慮して決めます。フィールドワークに参加できることが履修の条件です。 受講生の人数によりグループワークとなる場合があります。
教科書	特定の教科書は使用しません。
参考書	授業中に適宜紹介します。
成績評価方法	ミニレポート(30%)、最終レポート(40%)、授業中の討論(30%)

科目名	地域経済論特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SA030	担当教員	石筒 寛	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	地域経済が抱える問題について、その原因や背景を分析した上で、それを取り巻く様々な見方について検討します。
授業の進め方	演習形式で行います。地域経済に関連する文献を使用し、その論点や課題について、報告も交えながら議論します。
達成目標	(1) 政策的な観点から地域の経済問題を考えることができるようになる。 (2) 自分と異なる意見や見方、立場についても考えることができるようになる。 (3) 時間軸と空間軸の双方で経済的な事柄をとらえることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 地域経済を取り巻く諸問題 1 第 3 回 地域経済を取り巻く諸問題 2 第 4 回 地域経済を取り巻く諸問題 3 第 5 回 地域経済を取り巻く諸問題 4 第 6 回 空間的視点から経済を考える 1 第 7 回 空間的視点から経済を考える 2 第 8 回 空間的視点から経済を考える 3 第 9 回 空間的視点から経済を考える 4 第 10 回 空間的視点から経済を考える 5 第 11 回 地域経済の実情と解決策 1 第 12 回 地域経済の実情と解決策 2 第 13 回 地域経済の実情と解決策 3 第 14 回 地域経済の実情と解決策 4 第 15 回 まとめ
履修上の注意	文献は難しいものを使用することはありませんが、それぞれのテーマの前に一読してください。
教科書	授業中に指示します。
参考書	授業中に指示します。
成績評価方法	報告テーマごとの振り返りレポート(45%)、報告内容(30%)、ディスカッションの内容(25%)

科目名	地域財政論	単位数	2	期別	後期
科目コード	SA040	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国家的な財政難、地方分権の進展から、地域の存立が大きな課題となっている。しかし、地域を支える地方交付税が崩壊の危機にあり、制度の変革を求められている。本講義では、地方財政の現状と地方交付税制度の意義を考察する中で、問題点の把握と地方交付税制度のあり方を検討したい。
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	(1) 地方財政の現状を理解する。 (2) 地方交付税制度の枠組みを把握する。 (3) 経済学的視点から問題点を考察する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 地方交付税の視角 地方と都市 第 3 回 地方交付税の視角 交付税を巡る議論 第 4 回 地方交付税制度 目的と機能 第 5 回 地方交付税制度 交付税額の現実 第 6 回 国庫補助金と地方財政 第 7 回 補助金制度の実態と予算編成 第 8 回 地方交付税のミクロ的誘因効果 第 9 回 地方交付税のマクロ的誘因効果 第 10 回 地方交付税制度の改革 第 11 回 三位一体の概要 第 12 回 税源移譲 第 13 回 独自財源と地方税 第 14 回 地方交付税制度の課題と可能性 第 15 回 まとめ 指定教科書の内容に則して議論を進める。また、理解を深めるために、適宜指定参考書も活用する。
履修上の注意	持続可能な地域づくりや自治体財政に関心があることが望ましい。 進め方については、受講生の興味・関心事項により変更することもある。
教科書	『地方交付税の経済学』赤井伸郎他著、有斐閣（2003）
参考書	『基本から学ぶ地方財政』小西砂千夫著、学陽書房（2009）
成績評価方法	期末レポート（80％）と講義への参加姿勢（20％）より評価する。

科目名	貿易論特講	単位数	2	期別	前期	
科目コード	SA060	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	貿易論特講は、地域経済にとって、地域外との交易（地域間交易）の意味を検討します。地域間交易には、その地域と外国との交易（貿易）を含むだけでなく、その地域と同じ国内の、他の地域（都道府県など）との取引を含みます。地域間交易の視点から、グローバル化の中での、地域経済再生の条件を考えていきます。 今年度はTPP(環太平洋経済連携協定)に焦点をあて、日本と地域経済にとってどのような意味をもつかをじっくりと考えていくことにします。
授業の進め方	演習形式で行います。主に受講生からの報告を中心に、議論しながら学習を進めます。
達成目標	(1) WTOルールと地域貿易協定との関連を整理してとらえる。 (2) TPP（環太平洋経済連携協定）について基本的理解を深める。 (3) 地域経済にとってTPPがどのような意味をもつのか、検討すべき問題を理解する。
授業計画 (講義の具体的内容)	概ね、次のような項目を順に取り上げて問題を深めていく予定ですが、受講生と相談して学習内容を確定していきます。取り上げる文献を指定し、それを受講生が持ちまわりでレポートをする形で進めます。 第1回 オリエンテーション 第2回 WTO(世界貿易機構)と地域貿易協定 第3回 WTOと地域貿易協定 第4回 TPP(環太平洋経済連携協定)とは何か 第5回 TPPとは何か 第6回 TPP賛成論 第7回 TPP賛成論 第8回 TPP反対論 第9回 TPP反対論 第10回 TPP参加国と日本 第11回 TPP参加国と日本 第12回 EU(欧州連合)とTPP 第13回 農業再生の課題とTPP 第14回 日本経済の課題とTPP 第15回 まとめ
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。
教科書	特に指定しません。
参考書	文献は適宜紹介します。
成績評価方法	毎回の授業での受講生によるレポート(80%)を基本に、授業への参加姿勢(20%)を加味して総合的に評価します。

科目名	地方自治論特講	単位数	2	期別	集中
科目コード	SA070	担当教員	檜垣 龍樹	所属	尼崎市
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	尼崎市の事例をもとにしながら、行政組織や政策決定の流れなどを学んだうえで、地方自治を取り巻く様々な課題や新しい動きなどについて考える。特に後半では、「協働のまちづくり」や、近年地方自治体が積極的に取り組み始めた「シティプロモーション」については、参加者からの報告も求めながら、理解を深めたい。
授業の進め方	同上
達成目標	地方自治に関する基本的な知識の習得だけでなく、自らが住むまちに関心を持ち、「まちづくり」への参加を促すことを目標とする。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回目イントロダクション：「地方自治を学ぶ」とは 第2回目行政組織の概要と仕組み 第3回目予算編成、執行、決算の流れ 第4回目長と議会 第5回目行政改革とニューパブリックマネジメント 第6回目市民参加と協働のまちづくり 第7回目公共事業の実施に係る住民との合意形成 第8回目行政とボランティア 災害救援活動を素材として 第9回目行政とボランティア 災害救援活動を素材として 第10回目新しい公共の担い手としてのNPO 第11回目地域資源の再評価とまちづくりの担い手作り 第12回目観光振興からシティプロモーションへ 第13回目演習：わがまちの魅力と課題 第14回目演習：わがまちの魅力と課題 第15回目この授業を通して伝えたいこと
履修上の注意	授業の後半で、参加者に、自分が住むまちの魅力や課題について報告を求めため、受講時までに準備しておくこと。
教科書	必要に応じてプリントを配布。
参考書	『地方自治の要点』 檜垣正己、学陽書房; 第6次改訂版 (2002/12)
成績評価方法	授業への参加姿勢 (50%) とレポート (50%)

科目名	地方政治論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	SA080	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	各受講者が地方政治に関する雑誌、書籍、論文などから関心のあるテーマを探し、それを報告し、受講生全員で議論することを通じて、テーマを発見し報告する力を養成することと、地方政治の様々な問題に対する理解を深めることを目指します。
授業の進め方	演習形式で進めます。具体的には、毎回担当を決めた上で、関心のあるテーマについて書かれた雑誌、書籍、論文などを探す、それを報告する、報告の後、全員で議論、教員の解説を行う、という手順で進めます。受講生が探してくるテーマについては、地方政治に関するものであれば、何でもかまいません。また、書籍を探してくることが難しいと考えている受講生には、下の参考文献などの書籍を提示しますので、その中から報告するテーマを選んでいただいてもかまいません。なお、詳しい進め方、テーマの探し方については、第1回と第2回の授業で説明します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2) テーマを発見し報告する力を身につける。 (3) 地方政治の様々な問題に対する理解を深める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下の各回に書かれているテーマは例示です。テーマはそれぞれの受講生の関心によって決まります。 第1回 オリエンテーション 第2回 地方自治と地方分権の理論(教員による報告例) 第3回 日本の地方自治の発展 第4回 各国の地方自治 第5回 首長と議会 第6回 国・都道府県・市町村 第7回 地方税財政 第8回 地方自治体の組織と地方公務員・人事行政 第9回 ガバナンス時代の地方自治：NPMとNPO 第10回 合併と広域連合 第11回 都市計画 第12回 福祉政策と費用負担 第13回 地方議会の現状 第14回 市区町村におけるパフォーマンスの測定 第15回 ローカル・ガバナンスの現状と公共サービスへの効果
履修上の注意	担当部分を要約する際、わからない部分が多く出てくると思いますが、どの部分がどのようにわからなくて、わからないなりにどのように考えたのか、を明確にするよう心がけてください。
教科書	使用しません。
参考書	『テキストブック地方自治』村松岐夫編、東京経済新聞社(2006年)；『ローカル・ガバナンス 地方政治と市民社会』辻中豊・伊藤修一郎編著、木鐸社(2010年)その他は、授業中に紹介します。
成績評価方法	授業への参加態度(100%)によって評価します。

科目名	社会調査論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	SA085	担当教員	畠中 洋行	所属	特定非営利活動法人 NPO高知市民会議	
連絡先	電話					088-820-1540
	E-mail					npoj1@siminkaigi.com

授業概要 (テーマ等)	住民参加による住まいづくり・まちづくり・地域づくりの実践現場での経験をふまえ、こどもから高齢者まで、いろいろな人と人との関係性を紡ぎだしていくプロセスにおける、社会調査の意義やあり方を具体的に考察し、実践的な方策を見いだす力を養うことを目的とします。
授業の進め方	様々な事例を映像で紹介し、その内容をふまえて、受講生の考えや意見等を引き出しながら、方向性を整理していく進め方を考えています。
達成目標	(1) 地域・まちに存在するヒト・モノ・コトの魅力を発見、感じる視点の持ち方に気づいてもらう (2) 地域・まちに存在する様々な課題に対し、「何だろうか?」と疑問を持ってもらう (3) 上記の魅力をどうすればもっと魅力的なものにできるか、課題を解消するにはどのように取り組んでいけばいいかについて、少しでも理解が深まるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 北方地区のまちづくり(住民参加による住環境改善)事例にみる地域の魅力と課題点の見つけ方について 第3回 県営住宅若草南団地の建て替えにみる、居住者参加方式による取り組みとコミュニティ形成のあり方について 第4回 公益信託「高知市まちづくりファンド」による助成の事例にみる、市民による多様なまちづくり活動のあり方について 第5・6・7回 赤岡のまちづくりにおける、ソフトなしくみづくり、絵金蔵・弁天座といったハード整備の取り組み事例にみる、赤岡のまちのヒト・モノ・コトの魅力の発見と活かし方について 第8・9・10・11回 みかづきガリパーマップづくり、夢の住まいまちづくり教室、ミニ・ミュンヘン、ミュンヘン市におけるまちづくりへのこどもの参画、「とさっ子タウン」の事例にみる、「こどもとまち」「こどもの社会参画」という視点の持ち方等について 第12回 「ちょびっとJAPAN映像祭」「210秒の中の高知」の事例にみる、映像という手法を介したまちの魅力のとらえ方(切り口)について 第13・14回 高知市市民活動サポートセンターの取り組み事例にみる、市民活動・NPOの現状と今後の課題等について 第15回 授業のまとめ
履修上の注意	特になし
教科書	講義レジュメ及び関連資料の配布
参考書	同上
成績評価方法	講義への参加姿勢(70%)、各事例を聞いたうえでのコメントあるいはレポート(30%)などから総合的に判断する。

科目名	憲法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB090	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	憲法に関する正確な知識を修得し、かつ、そのことを前提に諸論点を考察していく。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。ただし、受講生にテーマを課して、報告を求めることもある。
達成目標	(1) 憲法に関する正確な知識を修得する。 (2) 憲法の諸論点に関する判例・学説を理解する。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、憲法に関する諸論点について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 インTRODクシヨン(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 司法審査の概念と限界について 第3回 戦争放棄について 第4回 国会・内閣について 第5回 財政について 第6回 地方自治について 第7回 憲法改正について 第8回 人権の概念について 第9回 プライバシー権について 第10回 信教の自由と政教分離原則について 第11回 思想・良心の自由、および大学の自治について 第12回 表現の自由について 第13回 経済的自由、および社会権について 第14回 人身の自由、国務請求権、参政権について 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題について
履修上の注意	受講生の希望に応じて、講義の進め方や内容については、変更があり得ます。また、受講生のなかに、行政書士試験や公務員試験(地方上級・国家種レベル)の受験希望者がいた場合には、受講生の希望に応じて、場合によっては、ある程度、試験対策を意識した講義にします。
教科書	なし。
参考書	講義中に適時、あげていきます。
成績評価方法	複数回の報告(60%)、および講義への参加姿勢など(40%)から総合的に評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、報告および講義への参加姿勢などからの評価で、60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	国際法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB100	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際判例の考察を通して、より高度に国際法を理解する。
授業の進め方	基本的にゼミ形式で行い、受講生に報告してもらう。教員が適宜解説を行う。
達成目標	(1)判例を理解し分析で きるようになる。 (2)議論に積極的に参加できるようになる。 (3)判例を自ら報告できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 報告判例の説明、報告方法について 第3回 教員による模擬報告 (コルフ海峡事件) 第4回 国連本部協定事件 (国際法と国内法の関係) 第5回 光華寮事件 (国家の要件) 第6回 ウィンブルドン号事件 (一般法と特別法) 第7回 エクスチェンジ号事件 (国家免除) 第8回 パルマス島事件 (島の領有、権原) 第9回 北海大陸棚事件 (大陸棚の画定) 第10回 ゼーリング事件 (人権の保護) 第11回 ナミビア事件 (国家機関) 第12回 東京裁判、ニュルンベルク裁判 (戦後処理) 第13回 ジェノサイド条約事件 (留保の有効性) 第14回 レインボー・ウォーリアー号事件 (国家責任と条約違反) 第15回 MOXプラント事件 (環境保護と予防原則) あくまで上記の判例は例であり、学生と相談の上決定する。
履修上の注意	活発な議論を期待する。
教科書	松井芳郎(編)『ベーシック条約集2011年版』(東信堂 2011年)及び松井芳郎(編)『判例国際法(第2版)』(東信堂 2006年)の購入が望ましい。なお、条約集については、最新版(2012年版)が発売される場合には、そちらを購入してください。
参考書	特に指定しない。
成績評価方法	授業態度(80%)、報告内容(20%)を合わせて評価。

科目名	民事法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB121	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法（財産法）に関連する問題について考える。
授業の進め方	演習形式で行う。具体的には、毎回担当者を決め、教科書の担当部分を要約し、報告する。
達成目標	<p>(1) 民法の制度趣旨を理解して、具体的事案に、その制度の射程が及ぶかを考えることができるようになる（民法における基本的な思考方法を身につける）。</p> <p>(2) 民法（財産法）を体系的に理解できるようになる。</p> <p>(3) 聞き手に分かりやすいように、民法（財産法）に関する教科書を要約できるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 契約の不履行と履行の強制（1）</p> <p>第3回 契約の不履行と履行の強制（2）</p> <p>第4回 不良債権の回収（1）</p> <p>第5回 不良債権の回収（2）</p> <p>第6回 物権とその取得（1）</p> <p>第7回 物権とその取得（2）</p> <p>第8回 物権とその取得（3）</p> <p>第9回 各種の物権（1）</p> <p>第10回 各種の物権（2）</p> <p>第11回 各種の物権（3）</p> <p>第12回 各種の物権（4）</p> <p>第13回 不法行為（1）</p> <p>第14回 不法行為（2）</p> <p>第15回 事務管理と不当利得</p>
履修上の注意	すでに民法を履修していること。参加者全員が事前に該当部分を読んでおくこと。
教科書	『ゼミナール民法入門』第4版、道垣内弘人著、日本経済新聞出版社、2008年
参考書	授業中に適宜指定します。
成績評価方法	授業への参加態度（30％）および報告内容（70％）により評価します。

科目名	刑事法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB130	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	裁判員制度について講義を行います。
授業の進め方	初回の授業で受講生と協議して、決定しますが、現段階では講義をするとともに、学生と教員の間で討論しよう
達成目標	(1)裁判への国民参加のあり方について理解すること。 (2)裁判員制度について理解すること。 (3)刑法の概略について理解すること。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第1回 はじめに 授業方法の確認 第2回 裁判員制度のあらまし(1) 第3回 裁判員制度のあらまし(2) 第4回 国民の司法参加の方法 陪審、参審、戦前の日本の陪審 第5回 裁判員制度の是非、問題点 第6回 刑法総論の概略(1) 第7回 刑法総論の概略(2) 第8回 刑法総論の概略(3) 第9回 刑法総論の概略(4) 第10回 刑法総論の概略(5) 第11回 裁判員裁判対象犯罪(1) 第12回 裁判員裁判対象犯罪(2) 第13回 裁判員裁判対象犯罪(3) 第14回 裁判員裁判対象犯罪(4) 第15回 まとめ</p> <p>これはあくまでも目安に過ぎず、受講者の希望によっては別の刑事法に関する問題(例えば、有罪確定後の犯罪者の処遇問題など)を取り扱ったり、刑法や刑事訴訟法の問題を取り扱ったりします。</p>
履修上の注意	できるだけ、出席し、発言してください。
教科書	プリントを配布します。
参考書	著者等については、特に指定しませんが、刑法総論のテキスト
成績評価方法	報告内容(80%)、受講態度(20%)を総合して評価します。

科目名	社会法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB140	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	社会法を構成する法分野のうち、労働法と社会保障法に関して、これら法領域に関する最新の論文を読むことをとおして、どのようなことがいま社会で問題となっているかを理解し、法的知識の涵養を目指す。
授業の進め方	あるテーマについて、2週つづけて検討するが、1週目には教員がそのテーマについて制度の仕組みやいかなる問題があるかに関して述べ、その授業の終わりに、次回に議論する上で読んでほしい文献を提示する。それを受けて、2週目には先に指定された文献をもとに受講者全員で議論する。その際には、報告を求めることがある。
達成目標	(1) 論文の内容を正確に読むことができるようになる。 (2) 相手の意見を理解した上で、議論に参加できるようになる。
授業計画 (講義の具体的内容)	以下の授業計画は例であって、受講生の関心によって適宜変更することはありうる。 第 1 回 はじめに 第 2 回 介護保険法改正と障害者自立支援制度(1) 第 3 回 介護保険法改正と障害者自立支援制度(2) 第 4 回 高齢者医療をめぐる問題(1) 第 5 回 高齢者医療をめぐる問題(2) 第 6 回 少子高齢化と公的年金(1) 第 7 回 少子高齢化と公的年金(2) 第 8 回 高齢者雇用安定法と高齢者雇用(1) 第 9 回 高齢者雇用安定法と高齢者雇用(2) 第 10 回 非正規労働者をめぐる問題(1) 第 11 回 非正規労働者をめぐる問題(2) 第 12 回 雇用保険と求職者支援制度(1) 第 13 回 雇用保険と求職者支援制度(2) 第 14 回 生活保護制度をめぐる今日的課題(1) 第 15 回 生活保護制度をめぐる今日的課題(2)
履修上の注意	法に関する学習をすでに行っていることが望ましいが、雇用や社会保障に関心がある者であれば、事前の知識の有無は問わない。
教科書	とくに指定しないが、小型の法令集を毎回持参してもらいたい。
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	議論への参加の度合いによって評価する。

科目名	商事法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB161	担当教員	中橋 紅美	所属	丸の内法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	私たちの日常生活でもよく出てくる商事法上の文言の理解を深め、日常生活において商事法がどのように関わっているかを講義する予定です。
授業の進め方	講義・演習を併用した形式で進めます。
達成目標	(1) 商事法上の文言を理解する。 (2) 商事法が日常生活の中でどのように関わっているのか理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第1回 株式会社とは 株式とは(1)</p> <p>第2回 株式とは(2)</p> <p>第3回 会社設立とは</p> <p>第4回 株主総会とは</p> <p>第5回 取締役とは</p> <p>第6回 監査役とは</p> <p>第7回 役員の義務・責任</p> <p>第8回 資金調達の方法(1)</p> <p>第9回 資金調達の方法(2)</p> <p>第10回 持株会社とは</p> <p>第11回 会社の組織変更</p> <p>第12回 商行為とは</p> <p>第13回 商業登記とは</p> <p>第14回 商業に関わる人</p> <p>第15回 商法における民法の特則</p> <p>一応の目安ですので、講義の進捗状況によっては、テーマが変わることもあります。</p>
履修上の注意	出版社は問いませんが最新版の六法を持参してください。
教科書	特に指定しません。
参考書	『会社法・商法のしくみ(改訂3版)』 神田将著 自由国民社 2010年 『加藤晋介の商法入門』 加藤晋介著 自由国民社 2011年
成績評価方法	レポート(50%)、講義への参加姿勢(50%)

科目名	簿記学特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB209	担当教員	中野 慶伸	所属	土佐コンピュータ学院非常勤教員
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日商簿記1級の基礎を学習します。
授業の進め方	講義、質疑応答、演習等
達成目標	(1) 個別原価計算について理解できるようになる (2) 工業簿記について理解ができるようになる (3) 個別原価計算と工業簿記の関係について理解を深められるようになる
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 総論 第2回 原価計算と工業簿記 第3回 財務諸表 第4回 個別原価計算の意義 第5回 個別原価計算の概要 第6回 個別原価計算の計算手続 第7回 原価記録と財務記録 第8回 原価の費目別計算 第9回 材料費会計総論 第10回 材料購入原価の計算と処理 第11回 材料消費額の計算と処理 第12回 月末材料の管理 第13回 労務費会計総論 第14回 支払賃金の処理 第15回 賃金消費額の計算
履修上の注意	商業簿記の理解が前提となる。
教科書	『日商簿記1級合格テキスト』TAC出版
参考書	同上
成績評価方法	講義への参加姿勢(60%)、期末試験(40%)などから総合的に評価する。

科目名	税務会計論	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB220	担当教員	梅田 昭彦	所属	梅田昭彦税理士事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	税務会計を理解するための前提となる法人税法を習得し、財務会計と税務会計の差異を理解する。
授業の進め方	受講生の習得レベル・要望に合わせ、講義方式で行います。 尚、講義はテキストを中心に、必要に応じ補助資料を用いて進めます。
達成目標	(1) 法人における税務会計の基礎知識を習得する。 (2) 財務会計と税務会計の違いを理解する。 (3) 税制の最新動向を把握する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	毎回、テキストを用いて講義した後、財務会計と税務会計の処理方法の違いを伝票イメージで解説します。 さらに、財務会計と税務会計の差異を調整する方法を、別表四と別表五(一)を用いて解説します。 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 財務会計・税務会計・管理会計の違い 第 3 回 損益の期間帰属 第 4 回 棚卸資産 第 5 回 減価償却 第 6 回 繰延資産の償却, 圧縮記帳 第 7 回 役員の給与等 第 8 回 租税公課等, 寄付金 第 9 回 交際費等 第 10 回 貸倒損失と貸倒引当金 第 11 回 受取配当等の益金不算入, 有価証券の譲渡損益・時価評価損益 第 12 回 別表四と五(一)の作成方法 第 13 回 税率, 所得税額の控除, 申告と納税 第 14 回 税制改正等 第 15 回 法人税と所得税の違い
履修上の注意	(特になし)
教科書	開講時に指定します。
参考書	(特になし)
成績評価方法	講義への参加姿勢 (70%) ゼミでの報告 (30%)

科目名	税法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB230	担当教員	梅田 昭彦	所属	梅田昭彦税理士事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	我が国の代表的な税法の基礎知識を習得する。
授業の進め方	受講生の習得レベル・要望に合わせ、講義方式で行います。 尚、講義はテキストを中心に、必要に応じ補助資料を用いて進めます。
達成目標	(1) 租税の目的、及び租税法の基本原則を理解する。 (2) 所得税法・法人税法・相続税法・消費税法の構造を理解する。 (3) 税制の改新動向を把握する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	租税法 NO.1税(租税)とは何か? NO.2税金が決まるまで 所得税法 NO.3所得の種類 NO.4課税所得の計算方法(収入-経費) NO.5所得税額の計算 法人税法 NO.6企業会計と税法会計の違い NO.7課税所得の計算方法(益金) NO.8課税所得の計算方法(損金) NO.9法人税額の計算 相続税法 NO.10相続税の課税財産 NO.11相続税額の計算 NO.12贈与税額の計算 消費税法 NO.13課税の対象 NO.14消費税額の計算 その他 NO.15税制改正の動向
履修上の注意	(特になし)
教科書	開講時に指定します。
参考書	(特になし)
成績評価方法	講義への参加姿勢 (70%) ゼミでの報告 (30%)

科目名	経営学特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB240	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では、経営学の基礎理論、企業の構造、企業間関係について学びます。 特に日本の企業経営を諸外国との違いのなかで理解しようとしています。
授業の進め方	テキストの輪読と講義の両方の形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	(1) 日本企業の組織構造について諸外国との比較の観点から理解を深めること。 (2) 日本の企業間関係について理解すること。 (3) 日本企業の戦略や製品開発活動の特徴について理解を深めること。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 なぜ企業が必要なのか(1) 第2回 なぜ企業が必要なのか(2) 第3回 なぜ企業が必要なのか(3) 第4回 官僚制組織(1) 第5回 官僚制組織(2) 第6回 株式会社制度(1) 第7回 株式会社制度(2) 第8回 日本の企業間関係(1) 第9回 日本の企業間関係(2) 第10回 コーポレートガバナンスの国際比較(1) 第11回 コーポレートガバナンスの国際比較(2) 第12回 企業戦略(1) 第13回 企業戦略(2) 第14回 新製品の開発(1) 第15回 新製品の開発(2) 上記の計画は参加者との相談の上、変更する可能性があります。
履修上の注意	
教科書	特になし
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	レポートで評価をします。

科目名	監査論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	SB270	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-8516
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>この授業では、会計情報の信頼性を確かめる行為である監査について学びます。監査は、主に、公認会計士によって担われていますが、その業務の実態はあまり社会一般には知られていません。しかし、昨今では、企業の粉飾決算や政治家の不正経理事件などが続発しており、そのような事件を防ぐために生みだされた監査という知恵が、現代社会において果たす役割は、決して小さくありません。</p> <p>そのような意義を踏まえて、ここでは、作り出された情報が、どのような仕掛けによって信頼できる情報へと変わっていくのかを学んでいきます。また、監査を担う存在である公認会計士がどのような職業であり、社会からどのような使命と役割を期待されているかについても学びます。</p>
授業の進め方	<p>監査の仕組みについて解説を織り交ぜながら、演習形式で進めます。また、受講者の希望と関心に応じて、個人発表の機会なども設けます。</p>
達成目標	<p>(1) 社会における監査の役割について理解すること (2) 公認会計士という職業について理解すること (3) 監査の一連の流れを理解すること (4) 監査報告書の意味について理解すること (5) この授業の内容を理解しようとするをきっかけとして、会計実践の学習を深め、将来の職業生活へと役立てられることを期待します</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 講義の内容解説 第2回 公認会計士の使命と役割 第3回 会計倫理 第4回 粉飾決算と監査制度 第5回 監査の目的 第6回 監査の機能 第7回 監査基準 第8回 監査の手続 第9回 監査リスクの評価 第10回 試査 第11回 監査意見 第12回 継続企業監査 第13回 内部統制監査 第14回 監査以外の保証業務 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>現在の日本の会計基準について、ある程度の知識があることが望ましい。 この講義は、2011年度以前科目の「財務諸表論」に相当します。</p>
教科書	<p>なし。必要に応じて資料を配布します。</p>
参考書	<p>『まなびの入門監査論(新版)』盛田良久・百合野正博・朴大栄編、中央経済社(2010年) 『監査構造論』瀧田輝己著、千倉書房(1990年) 『監査機能論』瀧田輝己著、千倉書房(1993年)</p>
成績評価方法	<p>講義への参加姿勢(50%)、期末の課題提出(50%)</p>

科目名	情報処理応用演習	単位数	2	期別	前期
科目コード	SC280	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	データ分析の結果を読み解く力と、自力でデータを分析できる力を養う。
授業の進め方	講義と演習と実習。
達成目標	(1) データ分析の背景にある統計学や計量経済学の基礎理論を理解できるようになる。 (2) データ分析の結果を理解できるようになる。 (3) パソコンを用いてデータを分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 度数分布、平均 第2回 分散と標準偏差 第3回 標準偏差の意味 第4回 ばらつきの形を見る 第5回 集計表の作成 第6回 相関分析の技法 第7回 因果関係を探る(1) 第8回 因果関係を探る(2) 第9回 複数の関係性を探る(1) 第10回 複数の関係性を探る(2) 第11回 カテゴリーの効果(1) 第12回 カテゴリーの効果(2) 第13回 データの蓄積方法とアンケートデータの集め方 第14回 既存データの活用と実習(1) 第15回 既存データの活用と実習(2) ただし、受講生の希望や理解度により進度を変えることがある。
履修上の注意	特になし。
教科書	特になし。
参考書	『完全独習 統計学入門』小島寛之著、ダイヤモンド社(2006年)、 『やさしい人事統計学』大阪大学人事統計解析センター、日本経団連出版(2006年)、 『Excelで学ぶアンケート処理』加藤千恵子+石村貞夫、東京図書(2003年)など
成績評価方法	課題や授業への取り組み方(50%)と課題提出状況(50%)により評価する。

科目名	消費生活論	単位数	2	期別	後期
科目コード	SC290	担当教員	関根 猪一郎	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。
授業の進め方	講義レジュメに基づき、講義方式で行います。この科目は複数の講師によるオムニバス方式を採用します。
達成目標	(1) 消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力を養成すること。 (2) 消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量を身につけること。 (3) 消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解すること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。 第1回 ガイダンス 消費者問題概論 と消費生活～所得と物価・税金・社会保障～ 第2回 経済の仕組み 第3回 消費生活に必要な民法の知識 第4回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第5回 消費生活に必要な特定商取引法の知識 第6回 消費生活に必要な割賦販売法の知識 第7回 公正な競争の確保のために～独禁法及び景表法～ 第8回 消費生活とお金に関する知識 第9回 金融商品に関する基礎知識 第10回 情報通信サービスに関する基礎知識 第11回 調停・訴訟等に関する知識 第12回 製品安全の基礎知識 第13回 食品の安全と表示の諸問題 第14回 環境問題に関する基礎知識 第15回 消費者政策と法の対応
履修上の注意	公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。
教科書	毎回、講義レジュメを配布します。
参考書	講義のなかで紹介します。
成績評価方法	毎回の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文50%、レポート評価50%とします。

科目名	特別研究	単位数	4	期別	通年
科目コード	SC291	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	学生の希望によるテーマについて調査・研究を進め、その成果を論文にまとめる指導を行う
授業の進め方	教員による個別指導
達成目標	(1) 研究課題を設定し、学習・研究計画を作成することを学ぶ (2) 研究論文作成の基礎的技法を学ぶ (3) 自らの学習・研究成果を論文にまとめる (4) 『学生論集』へ掲載することを目標とする
授業計画 (講義の具体的 内容)	専任教員と希望学生の間で決めることとなる(学習・研究計画の検討・作成、計画にそった学習・研究経過のチェックなどのスケジュールを教員と学生の間で決めて進める。)
履修上の注意	指導を希望する教員に相談した上で履修申請をすること。 学生自身の力で論文を書くこと。
教科書	なし
参考書	研究テーマに応じて必要な文献を探すことも学びの目的の1つとなる
成績評価方法	調査・研究への取り組みと研究成果である論文の完成度によって評価

科目名	特別研究	単位数	4	期別	通年
科目コード	SC291	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	学生の希望によるテーマについて調査・研究を進め、その成果を論文にまとめる指導を行う
授業の進め方	教員による個別指導
達成目標	(1) 研究課題を設定し、学習・研究計画を作成することを学ぶ (2) 研究論文作成の基礎的技法を学ぶ (3) 自らの学習・研究成果を論文にまとめる (4) 『学生論集』へ掲載することを目標とする
授業計画 (講義の具体的 内容)	専任教員と希望学生の間で決めることとなる(学習・研究計画の検討・作成、計画にそった学習・研究経過のチェックなどのスケジュールを教員と学生の間で決めて進める。)
履修上の注意	指導を希望する教員に相談した上で履修申請をすること。 学生自身の力で論文を書くこと。
教科書	なし
参考書	研究テーマに応じて必要な文献を探すことも学びの目的の1つとなる
成績評価方法	調査・研究への取り組みと研究成果である論文の完成度によって評価